

向原・上新田・西浦

上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告

— VII —

1984

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第41集

むかい はら かみ しん でん にしうら
向原・上新田・西浦

上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告

- VII -

1 9 8 4

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

上越新幹線は東京・新潟間の太平洋側と日本海側を2時間程で結ぶメインルートとして建設されているもので、すでに昭和57年に東北新幹線とともに大宮を暫定始発駅として開通しております。

本県内の新幹線建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、埼玉県教育委員会と日本鉄道建設公団東京新幹線建設局とで協議を重ねた結果、やむなく発掘調査によって記録保存の措置を講ずることになりました。

伊奈町地内の向原遺跡・上新田遺跡・西浦遺跡の発掘調査・整理作業は、日本鉄道建設公団東京新幹線建設局の委託を受けて、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施したものです。

本書はその報告書ですが、発掘調査から報告書刊行に至るまで種々の御協力をいただいた日本鉄道建設公団東京新幹線建設局・伊奈町教育委員会及び地元関係者の方々・整理作業関係者の方々に深く感謝いたします。

また、本書が教育・文化・学術研究の資料として広く活用されるよう希望いたします。

昭和59年9月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 長 井 五 郎

例　　言

1. 本書は、上越新幹線建設事業にかかる、北足立郡伊奈町所在の向原遺跡（昭和55年10月24日委保第5の3429号）・上新田遺跡（昭和56年4月2日委保第5の869号）・西浦遺跡（昭和55年8月13日委保第5の2730号）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、埼玉県教育委員会文化財保護課が調整し、日本鉄道建設公団の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が受託し、実施した。
なお、調査の組織は4ページに示したとおりである。
3. 発掘調査は、向原遺跡・西浦遺跡を大和修・浜野一重、上新田遺跡を坂野和信・田中英司が担当した。
4. 発掘調査における写真および遺物の写真は主に浜野が撮影した。
5. 出土品の整理および図の作成は浜野が主にあたり、金子直行・西井幸雄・石川俊英・酒井和子・吉澤みゆきの協力があった。
6. 本書の執筆は、浜野・大和・金子・西井・石川・吉澤があたり、文末に氏名を記した。
7. 採図の縮尺は、遺構図1/60・1/80、弥生式土器実測図 $\frac{1}{4}$ 、石器実測図 $\frac{1}{2}$ ・ $\frac{1}{3}$ 、繩文式土器実測図 $\frac{1}{6}$ 、繩文式土器拓影図 $\frac{1}{2}$ を原則とした。なお、遺構図中の●は土器片、○は実測可能な接合資料、△は疎を示す。
8. 出土遺物観察表における土器等の色の表示は、農林省農林水産技術会議事務所監修、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』1976に基づくものである。
9. 本書の編集は財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査研究部第4課職員があたり、中島利治が監修した。
10. 本書を作成するにあたり、下記の方々から御教示・御助力を得た。(敬称略)
谷井　彪(埼玉県立歴史資料館)
鈴木敏昭(埼玉県立博物館)
橋本富夫(桶川市教育委員会)

目 次

序

例 言

I	調査の概要	1
1.	発掘調査に至るまでの経過	1
II	遺跡の立地と環境	6
III	向原遺跡発掘調査	8
1.	調査の経過（日誌抄）	8
2.	遺跡の概観	9
3.	遺構と出土遺物	12
(1)	弥生時代	12
A	住居跡	12
B	方形周溝墓	49
(2)	縄文時代	55
A	ファイアピット	55
B	グリッド出土土器	57
C	グリッド出土石器	72
D	土器溜り	75
(3)	先土器時代	78
(4)	その他の遺構と出土遺物	106
A	炭焼窯跡	106
B	土壤	113
C	溝	117
IV	上新田遺跡発掘調査	121
1.	調査の経過（日誌抄）	122
2.	遺跡の概観	122
3.	遺構と出土遺物	122
A	溝	122
B	包含層出土土器	124
C	包含層出土石器	130
D	陶器	131

V	西浦遺跡発掘調査	132
1.	調査の経過（日誌抄）	135
2.	遺跡の概観	135
3.	遺構と出土遺物	135
A	溝	135
B	包含層出土遺物	137
C	陶器	139
VI	伊奈町踏査資料	140
VII	結語	150

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	7	第34図 15号住居跡出土遺物	38
向原遺跡		第35図 16号住居跡出土遺物	38
第2図 周辺地形図	9	第36図 16号住居跡	39
第3図 層序図	10	第37図 17号住居跡	40
第4図 全測図	11	第38図 18号住居跡	41
第5図 1号住居跡	12	第39図 18号住居跡出土遺物(1)	42
第6図 1号住居跡出土遺物	13	第40図 18号住居跡出土遺物(2)	43
第7図 2号住居跡	14	第41図 19号住居跡	44
第8図 2号住居跡出土遺物	15	第42図 19号住居跡出土遺物	45
第9図 4号住居跡	16	第43図 20号住居跡出土遺物	45
第10図 4号住居跡出土遺物	17	第44図 20号住居跡	46
第11図 5号住居跡出土遺物	18	第45図 21号住居跡出土遺物	46
第12図 5号住居跡	19	第46図 21号住居跡	47
第13図 6号住居跡	20	第47図 22号住居跡	48
第14図 6号住居跡出土遺物	20	第48図 23号住居跡	49
第15図 7号住居跡	21	第49図 1号方形周溝墓	50
第16図 7号住居跡出土遺物	22	第50図 1号方形周溝墓出土遺物	51
第17図 8号住居跡	22	第51図 2号方形周溝墓	53
第18図 8号住居跡出土遺物	23	第52図 2号方形周溝墓出土遺物	54
第19図 9号住居跡	23	第53図 ファイアピット	56
第20図 9号住居跡出土遺物	24	第54図 燃糸文系土器分布図	58
第21図 10号住居跡	25	第55図 押型文系土器分布図	58
第22図 10号住居跡出土遺物	26	第56図 沈線文系土器分布図	59
第23図 11号住居跡出土遺物	27	第57図 条痕文系土器分布図	59
第24図 11号住居跡	28	第58図 グリッド出土繩文土器拓影図(1)	60
第25図 11号住居跡焼土・炭化物範囲	29	第59図 グリッド出土繩文土器拓影図(2)	61
第26図 12号住居跡	30	第60図 グリッド出土繩文土器拓影図(3)	62
第27図 12号住居跡出土遺物	31	第61図 グリッド出土繩文土器拓影図(4)	64
第28図 13号住居跡	33	第62図 グリッド出土繩文土器拓影図(5)	66
第29図 13号住居跡出土遺物(1)	34	第63図 グリッド出土繩文土器拓影図(6)	67
第30図 13号住居跡出土遺物(2)	35	第64図 グリッド出土繩文土器拓影図(7)	69
第31図 14号住居跡	36	第65図 グリッド出土繩文土器拓影図(8)	70
第32図 14号住居跡出土遺物	37	第66図 グリッド出土石器実測図(1)	73
第33図 15号住居跡	37	第67図 グリッド出土石器実測図(2)	74

第68図 土器窪り	75	上新田遺跡	
第69図 土器窪り出土深鉢	76	第98図 周辺地形図	121
第70図 土器窪り出土縄文土器拓影図	77	第99図 溝土層断面図	123
第71図 先土器遺物分布図（折込み）	78	第100図 全測図	124
第72図 石器実測図(1)	82	第101図 包含層出土縄文土器拓影図(1)	126
第73図 石器実測図(2)	83	第102図 包含層出土縄文土器拓影図(2)	127
第74図 石器実測図(3)	84	第103図 包含層出土縄文土器拓影図(3)	129
第75図 石器実測図(4)	85	第104図 包含層出土石器実測図	130
第76図 石器実測図(5)	86	第105図 陶器	131
第77図 石器実測図(6)	87	西浦遺跡	
第78図 石器実測図(7)	88	第106図 周辺地形図	132
第79図 石器実測図(8)	89	第107図 全測図（折込み）	133
第80図 石器実測図(9)	90	第108図 溝土層断面図	136
第81図 石器実測図(10)	91	第109図 包含層出土縄文土器拓影図	138
第82図 石器実測図(11)	92	第110図 陶器	139
第83図 石器実測図(12)	93	伊奈町踏査資料	
第84図 石器実測図(13)	94	第111図 踏査地点位置図	141
第85図 石器実測図(14)	95	第112図 縄文土器拓影図(1) 地点1～3	142
第86図 石器実測図(15)	96	第113図 縄文土器拓影図(2) 地点3・4	143
第87図 石器実測図(16)	97	第114図 縄文土器拓影図(3) 地点5・6	145
第88図 石器接合図・器種別分布図	98	第115図 縄文土器拓影図(4) 地点7～9	146
第89図 第10・11母岩分布図	99	第116図 縄文土器拓影図(5) 地点10・11	147
第90図 1～3号炭焼窯跡（折込み）	107		
第91図 4～7号炭焼窯跡	110		
第92図 4～7号炭焼窯跡土層断面図	111		
第93図 8号炭焼窯跡	112		
第94図 土壌(1)	114		
第95図 土壌(2)	115		
第96図 土壌(3)	116		
第97図 溝土層断面図	118		

表 目 次

表 1	上越新幹線関係遺跡一覧表	2	表16	15号住居跡出土遺物觀察表	37
表 2	発掘調査年度別一覧表	3	表17	16号住居跡出土遺物觀察表	38
向原遺跡					
表 3	1号住居跡出土遺物觀察表	13	表18	18号住居跡出土遺物觀察表	40
表 4	2号住居跡出土遺物觀察表	16	表19	19号住居跡出土遺物觀察表	45
表 5	4号住居跡出土遺物觀察表	17	表20	20号住居跡出土遺物觀察表	45
表 6	5号住居跡出土遺物觀察表	18	表21	21号住居跡出土遺物觀察表	47
表 7	6号住居跡出土遺物觀察表	21	表22	1号方形周溝墓出土遺物觀察表	52
表 8	7号住居跡出土遺物觀察表	21	表23	2号方形周溝墓出土遺物觀察表	54
表 9	8号住居跡出土遺物觀察表	23	表24	グリッド出土石器一覧表	72
表10	9号住居跡出土遺物觀察表	24	表25	石器一覧表	100
表11	10号住居跡出土遺物觀察表	24	表26	礫一覧表	104
表12	11号住居跡出土遺物觀察表	28	上新田遺跡		
表13	12号住居跡出土遺物觀察表	30	表27	陶器觀察表	131
表14	13号住居跡出土遺物觀察表	32	西浦遺跡		
表15	14号住居跡出土遺物觀察表	36	表28	陶器觀察表	139

図版目次

向原遺跡

- 図版1 遺跡遠景(北より) 1号住居跡
図版2 2号住居跡 4号住居跡
図版3 5号住居跡 6号住居跡
図版4 7号住居跡 8号住居跡
図版5 9号住居跡 10号住居跡
図版6 11号住居跡 11号住居跡遺物出土状態
図版7 12号住居跡 12号住居跡遺物出土状態
図版8 13号住居跡 14号住居跡
図版9 16号住居跡 17号住居跡
図版10 18号住居跡 19号住居跡
図版11 20号住居跡 21号住居跡遺物出土状態
図版12 22号住居跡 23号住居跡
図版13 1号方形周溝墓 1号方形周溝墓遺物
　　出土状態
図版14 2号方形周溝墓 調査区南西側
図版15 土器溜り遺物出土状態 発掘作業風景
図版16 先土器調査グリッド 先土器遺物出土
　　状態
図版17 1号溝 1～3号炭焼窯跡
図版18 4・5号炭焼窯跡 5号炭焼窯跡土層
　　断面
図版19 4～7号炭焼窯跡 8号炭焼窯跡
図版20 1・2号住居跡出土遺物
図版21 4号住居跡出土遺物
図版22 5～9号住居跡出土遺物
図版23 10号住居跡出土遺物
図版24 11・12号住居跡出土遺物
図版25 12・13号住居跡出土遺物
図版26 13号住居跡出土遺物
図版27 13・14号住居跡出土遺物
図版28 16・18号住居跡出土遺物
図版29 18号住居跡出土遺物
図版30 19～21号住居跡、1号方形周溝墓出土
　　遺物
図版31 1・2号方形周溝墓出土遺物
図版32 グリッド出土繩文土器(1)(2)
図版33 グリッド出土繩文土器(3)(4)
図版34 グリッド出土繩文土器(5)(6)
図版35 グリッド出土繩文土器(7)(8)
図版36 グリッド出土繩文土器(9)(10)
図版37 グリッド出土繩文土器(10)(12)
図版38 グリッド出土石器 石器1～22
図版39 石器23～40 石器41～48
図版40 土器溜り出土深鉢
図版41 土器溜り出土土器(1)(2)
　　上新田遺跡
図版42 調査区全景 発掘作業風景
図版43 包含層出土繩文土器(1)(2)
図版44 包含層出土繩文土器(3) 陶器
　　西浦遺跡
図版45 A区全景 3～5号溝
図版46 11号溝 4号溝
図版47 包含層出土繩文土器 陶器
　　伊奈町踏査資料
図版48 繩文土器(1)(2)
図版49 繩文土器(3)(4)
図版50 繩文土器(5)

I 調査の概要

1. 発掘調査に至るまでの経過

上越新幹線の基本計画は、東京都と新潟県を結ぶものであるが、昭和46年10月工事実施計画が認可されたのは、埼玉県大宮市・新潟県新潟市間 270 キロメートルである。

この上越新幹線のルートは、昭和46年10月「埼玉県行政推進対策委員会軌道交通部会」（以下「軌道交通部会」という）において日本鉄道建設公団から、建設概要について説明があった。

昭和46年10月に埼玉県開発部長から文化財保護課長あて新幹線建設計画図（5万分の1）が送付され、これによるいくつかの遺跡にかかることが明瞭であった。

昭和46年11月軌道交通部会において、新幹線の建設に対して各課の意見が聴取された。文化財保護の面では、国及び県指定文化財及び周知の遺跡については路線計画からはずすこと、また、その他の埋蔵文化財包蔵地については、損傷を最小限度にとどめてルートを決定するよう要望した。

日本鉄道建設公団では、埋蔵文化財の所在とその取扱いについては特に注意が払われ、昭和41年4月1日付けで文化財保護委員会（現文化庁）と公団とで締結した「日本鉄道建設公団の事業施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書」に基づいて、他の関連公共事業とは切りはなし協議を進めることとし、昭和48年3月1日、日本鉄道建設公団・県開発部軌道交通対策課及び文化財保護課の三者で具体的な打合せ会を開催した。

この打合せでは、公団側から、上越新幹線建設予定地内の文化財の調査について次のとおり依頼があった。

1. 2,500 分の1 の平面図を用意するので路線予定地内の文化財の所在調査を実施して欲しいこと。
2. 路線内に係る埋蔵文化財包蔵地については知事部局の諸調査とは別に調査事業を県教育委員会に委託したいこと。

昭和47年11月初旬、日本鉄道建設公団東京新幹線建設局から2,500 分の1 の計画路線図（幅員50m）が届けられ、11月20日・21日の両日、文化財保護課第二係の職員で、伊奈町側と上里町側からの2班に分かれて遺物分布確認調査を実施した。なお、場所によっては時期的に地上観察の困難なところもあり、それは後日に残し、一応計画路線内における文化財の分布状況を把握することができた。

そして、昭和48年3月19日付け教文第1167号で、埼玉県教育委員会教育長から日本鉄道建設公団東京新幹線建設局長あて、「上越新幹線建設用地（伊奈～上里）内における文化財の所在及び取扱いについて」以下の文書を上越新幹線文化財分布図一式（幅員50mによる）を添付して送付した。

1. 県指定旧跡については、現状変更届を提出すること。
2. 埋蔵文化財については、記録保存の措置を講ずること。
3. 埋蔵文化財の保存にあたっては、遺漏のないよう当局（文化財保護課）と十分協議すること。

昭和48年5月、上越新幹線工事工程と文化財の調査について、日本鉄道建設公団東京新幹線建設局との打合せ会が開催された。その席上公団側から、伊奈町地内については、昭和48年度中には用地交渉等が不可能であること。深谷1~2号・岡部1号・本庄1~5号遺跡については、昭和48年度中に発掘調査を実施して欲しい旨の要望があった。また、文化財保護課では、石田堤及び熊谷1号遺跡については別途協議すること、との2点については公団に申し入れを行うとともに、現体制で、48年度中に公団の要望する発掘調査の全てについて実施することは不可能であることも合せて報告した。

昭和48年9月14日付け東建用三第985号で、東京新幹線建設局から、県教育委員会を経由して文化庁長官あて「上越新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて」の協議が行なわれると同時に、東京新幹線建設局から埼玉県教育委員会局長あてに「埋蔵文化財の発掘調査を埼玉県教育委員会に委託したい」旨の協議がなされた。

そして、昭和48年11月1日付け教文第647号で、埼玉県教育委員会教育長から日本鉄道建設公団東京新幹線建設局あて、昭和48年度の発掘調査遺跡について計画書等を添えて通知し、同年11月5日から発掘作業が開始された。

なお、吹上1号遺跡の石田堤は保存し、集落跡の調査をすることとし、本庄A号遺跡（莊小太郎頬家墓）・上里1号遺跡の古墳・岡部4号遺跡はいずれも建設路線外であることが確認されたため、発掘調査の対象からはずした。上里1号遺跡については昭和50年に2ヶ所に集落跡があることがわかり、上里1A号・上里1B号と仮称した。また、昭和53年に上越新幹線熊谷駅舎改築に伴う貨物ターミナルの変更で、熊谷市三ヶ尻地区の貨物授受施設が拡張されることになり、ここに遺跡がかかることが判明し、熊谷2号遺跡として調査対象に追加することになった。

その後昭和55年度に財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発足し、今まで埼玉県教育委員会が実施してきた事業をそのまま引き継ぐことになった。そして伊奈町地区の用地買収が進んだ段階で今まで立ち入りできなかった地域の分布調査が実施され、また新たに遺跡が発見され、伊奈5-1号・伊奈5-2号・伊奈6号・伊奈7号が追加された。

表1 上越新幹線関係遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名称	所在地	種別	時代
伊奈1号	(西浦遺跡)	北足立郡伊奈町大字小室字西浦4962-1	包含地	縄文
伊奈2号	(上新田遺跡)	北足立郡伊奈町大字小室字上新田5062	集落跡	縄文
伊奈3号	(北遺跡)	北足立郡伊奈町大字大針字原679	集落跡	先土器・縄文
伊奈4号	(原遺跡)	北足立郡伊奈町大字大針字原	集落跡	縄文
吹上1号	(石田堤・台遺跡)	北足立郡吹上町袋字堤根・字台353	堤・集落跡	鞍国・平安
熊谷1号	(三ヶ尻林遺跡)	熊谷市大字三ヶ尻字林3389	円墳	古墳
深谷1号	(前畠遺跡)	深谷市大字柏合字前畠468	集落跡	奈良・平安
深谷2号	(島之上遺跡)	深谷市大字柏合字島之上1165	集落跡	縄文
深谷3号	(出口遺跡)	深谷市大字柏合字合字三塚1089-1	集落跡	縄文
岡部1号	(芝山遺跡)	大里郡岡部町大字芝山292-4	集落跡	縄文
岡部2号	(伊勢塚遺跡)	大里郡岡部町大字後棲沢字伊勢塚252-1	集落跡	縄文・古墳
岡部3号	(東光寺裏遺跡)	大里郡岡部町大字後棲沢字新井566	集落跡	縄文・古墳

遺跡番号	遺跡名称	所在地	種別	時代
岡部4号	(古川端遺跡)	大里郡岡部町大字後櫻沢	集落跡	古墳
本庄1号	(東谷遺跡)	本庄市大字栗崎字古川端1108	集落跡	繩文・古墳
本庄2号	(前山2号墳)	本庄市大字栗崎字東谷149-3	集落跡	古墳
本庄3号	(下田遺跡)	本庄市大字北堀字前山2139	円墳	古墳
本庄4号	(諫訪遺跡)	本庄市大字東富田字下田181	集落跡	古墳・奈良
本庄5号	(天神林遺跡)	本庄市大字今井字諫訪647-2	集落跡	古墳
上里1号	(高野ヶ谷戸遺跡)	児玉郡上里町大字東五明	円墳	古墳
本庄A号	(莊小太郎頼家墓)	本庄市大字栗崎	県指定旧跡	
上里1号A	(三ヶ尻天王遺跡)	児玉郡上里町大字五明字天神林972	集落跡	古墳
上里1号B	(熊谷2号)	児玉郡上里町大字五明字高野谷戸1023-1	集落跡	古墳
熊谷2号	(八幡谷遺跡)	熊谷市三ヶ尻3407	集落跡	古墳
伊奈5-1号	(根野谷遺跡)	北足立郡伊奈町大字羽貫字八幡谷204-1	集落跡	繩文・平安
伊奈5-2号	(丸山遺跡)	北足立郡伊奈町大字小針内宿字向小針1687	集落跡	平安
伊奈6号	(向原遺跡)	北足立郡伊奈町大字小室字丸山908	包含地	繩文
伊奈7号	(向原遺跡)	北足立郡伊奈町大字小針内宿字向原1252	集落跡	先土器・古墳

発掘調査は以下の年次毎に実施され、深谷・本庄・岡部・熊谷地区のものについては既に報告書が刊行されている。

表2 発掘調査年度別一覧表

年度	遺跡番号
48	深谷1号・深谷2号・深谷3号・岡部1号・本庄2号・本庄3号
49	本庄1号・本庄2号・本庄4号・本庄5号
50	岡部2号・岡部3号・上里1A・1B号
53	熊谷2号
54	熊谷1号・吹上1号
55	熊谷1号・伊奈1号(西浦遺跡)・伊奈2号(上新田遺跡)・伊奈3号・伊奈5-2号・伊奈7号(向原遺跡)
56	伊奈2号(上新田遺跡)・伊奈3号・伊奈4号・伊奈5-1号・伊奈6号
57	伊奈7号(向原遺跡)

発掘調査の組織

1. 発掘(昭和55年度)

主 体 者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理 事 長	関 根 秋 夫
		副 理 事 長	本 郷 春 治
		常 務 理 事	渡 辺 澄 夫
庶 務 管 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管 理 部 長	伊 藤 悅 光
			関 野 栄 一
			福 田 浩 人
			本 庄 朗 人
発 掘	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調 査 研 究 部 長	横 川 好 富
		調 査 研 究 第 2 課 長	小 久 保 微
			大 和 修
			田 中 英 司
			浜 野 一 重

2. 発掘(昭和56年度)

主 体 者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理 事 長	長 井 五 郎
		副 理 事 長	沼 尻 和 也
		常 務 理 事	渡 辺 澄 夫
庶 務 管 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管 理 部 長	伊 藤 悅 光
			関 野 栄 一
			福 田 浩 人
			本 庄 朗 人
発 掘	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調 査 研 究 部 長	横 川 好 富
		調 査 研 究 第 2 課 長	小 久 保 微
			坂 野 和 信
			田 中 英 司

3. 整理(昭和58年度)

主 体 者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理 事 長	長 井 五 郎
		副 理 事 長	岩 上 進
		常 務 理 事	石 川 正 美
庶 務 管 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管 理 部 長	佐 野 長 二
		主 任	関 野 栄 一
			江 田 和 美
			福 田 啓 子

整 理 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 調査研究部長
福田 浩
本庄朗人
横川好富
調査研究副部長
小川良祐
浜野一重
(兼)調査研究第5課長

4. 整理(昭和59年度)

主 体 者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理 事 長	長 井 五 郎
		副 事 長	岩 上 進
		常 務 理 事	石 川 正 美
庶 務 管 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管 理 部 長	小 宮 秀 男
		主 任	関 野 荣 一
			江 田 和 美
			岡 野 美智子
			福 田 浩
			本 庄 朗 人
整 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調 査 研 究 部 長	中 島 利 治
		調 査 研 究 副 部 長	小 川 良 祐
		調 査 研 究 第 4 課 長	高 橋 一 夫
			浜 野 一 重

5. 協力者

伊奈町教育委員会、地元区長及び地元住民、整理作業関係者

Ⅱ 遺跡の立地と環境

向原・上新田・西浦の各遺跡は、ともに大宮台地東北端の大和田片柳支台上に立地し、東～北は綾瀬川の冲積底地に臨んでいる。台地の南と北には開析谷が形成されており、また大宮台地特有の支谷が発達している。

各遺跡の標高は共通して15m前後で、低地との比高差は2～3mである。

向原遺跡は、国鉄高崎線桶川駅の東方約3.7kmの地点、伊奈町小針内宿字向原番1252番地他に所在し、支台のつけ根部分に入りこむ小支谷に臨む台地縁辺に位置する。

調査区域は全面雜木林であり、遺構内にも木根による擾乱が多い。西北側の低地は、桶川市地内に入り、水田として利用されている。

上新田遺跡は、国鉄高崎線上尾駅の北東約3.8kmの地点、伊奈町小室字上新田5062番地他に所在し、支台中央部の微高地上に位置する。

調査区域は、町道より北側が畠として利用されており、南側は空閑地であった。

西浦遺跡は、国鉄高崎線上尾駅の北東約3.5kmの地点、伊奈町小室字西浦4962—1番地他に所在し、支台中央部の微高地上に位置する。

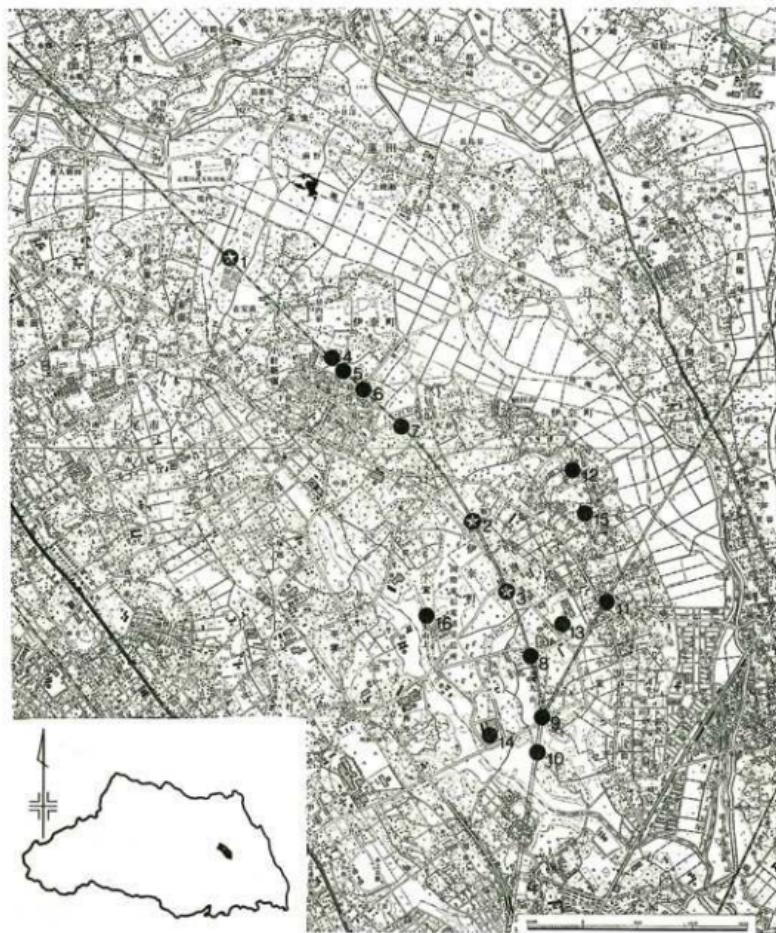
調査区域は、南側A区が雑竹の藪、B区は栗原とぶどう畠、北側C区は宅地とぶどう畠であった。A区は表土が厚いため、遺構の残存状況は良好であったが、B・C区は浅く、ぶどう棚等で擾乱をうけている箇所もある。

伊奈町地内にも存在を確認されている遺跡は多いが、有名なものとしては、志久遺跡（繩文中期後期、笠森ほか1976）、大山遺跡（繩文・古墳時代、栗原・谷井ほか1979）、小貝戸貝塚（繩文前期、県指定史跡）、伊奈氏屋敷跡（中世、県指定史跡）などがあげられる。

また近年、宅地開発や上越・東北新幹線、新交通システムの建設にともない、遺跡の調査件数も増え新たな資料が加わろうとしている。これらの調査報告は、当事業団が行なったものについては本報告を含め、下記の報告書が刊行されており、『年報1』『年報2』にも概要を載せている。

参考文献

笠森健一ほか	1976	『志久遺跡』埼玉県遺跡調査会報告書第31集
栗原文蔵・谷井彪ほか	1979	『大山』埼玉県遺跡発掘調査報告書第23集
田中信ほか	1981	『小室天神前遺跡』
金子直行・櫛口誠司	1982	『大山』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第17集
酒井清治・山下秀樹・大塚幸司	1983	『久保山』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第29集
水村孝行・青木美代子ほか	1984	『赤羽・伊奈氏屋敷跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第31集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団	1981	『年報1』
	1982	『年報2』



- 1 向原遺跡 2 上新田遺跡 3 西浦遺跡 4 相野谷遺跡 5 八幡谷遺跡 6 原遺跡 7 北遺跡
 8 丸山遺跡 9 赤羽遺跡 10 伊奈氏屋敷跡 11 久保山遺跡 12 小貝戸貝塚 13 志久遺跡
 14 大山遺跡 15 氷川神社裏遺跡 16 小室天神前遺跡

第1図 遺跡位置図

III 向原遺跡発掘調査

1. 調査の経過（日誌抄）

昭和55年8月23日～昭和56年3月31日 昭和58年3月8日～3月10日

昭和55年度

8月 機材搬入等、調査態勢を整え、南側からバックホーにより表土除去にかかる。降雨多し。

9月 この月に入ても降雨が多く、作業に支障をきたす。中旬によく表土除去を終え、北側斜面部から精査を行なって、1・2号溝を検出した。また、南側からも精査を行ない、3・4号溝が検出された。この段階で路線のセンター杭に沿って 4×4 mのグリッドを設定する。

10月 上旬に全面の精査を終え、隅丸方形の落ち込みが二十数箇所、溝状遺構が十数条確認された。1～4号溝の測量・写真撮影終了。木根が多く、除去に手間どる。

11月 土壌も徐々に検出され始め、各々調査に着手。住居跡と思われる遺構は確認面での写真撮影を行なう。4・8・9・22号住居跡の調査に着手。

12月 上旬に4・8号住居跡、2～5号土壌の測量・写真撮影終了。6・11・15号住居跡の調査に着手。中旬に9・22号住居跡の測量・写真撮影終了。16・17号住居跡、1号炭焼窯の調査に着手。下旬に6・15号住居跡、7・8号土壌測量・写真撮影終了。10・12・13号住居跡の調査に着手。

1月 上旬に11・17号住居跡、9～13、37～39号土壌の測量・写真撮影終了。11号住居跡から炭化材・焼土塊が検出される。5・18号住居跡、2・3号炭焼窯の調査に着手。中旬に13・16号住、1号炭焼窯、5～7、16・17号溝、18～24号土壌の測量・写真撮影終了。16号住居跡の東側に炭焼窯検出。2・19・21号住居跡、1号方形周溝墓の調査に着手する。下旬に5・10・12号住居跡、8～14号溝、14～17・25～36号土壌の測量・写真撮影終了。1・7・14・20号住居跡、4～7号炭焼窯の調査に着手する。

2月 上旬に5・18・21号住居跡、町道直下の15号溝、40～48号土壌の測量・写真撮影終了。23号住居跡、2号方形周溝墓の調査に着手。中旬に、1・2・7号住居跡、1号方形周溝墓、2・3号炭焼窯の測量・写真撮影終了。8号炭焼窯の調査に着手。下旬に、14・20・23号住居跡の測量・写真撮影終了。北から 2×2 mの小グリッドを設定し、先土器時代の調査開始。航空写真撮影終了。

3月 上旬に2号方形周溝墓、4～7号炭焼窯の測量・写真撮影終了。北側斜面部を中心にファイアピット9基が検出され、縄文早期土器片がグリッド単位で多数出土した。中旬に、8号炭焼窯、1～9号ファイアピットの測量・写真撮影終了。北側斜面部で先土器時代の石器・礫が出土し、調査範囲を面的に広げる。下旬に先土器遺物の測量を終え、年度末に全調査を終了した。

昭和57年度

3月 55年度に調査できなかった南側の約200m²について、表土を除去し精査を行なったが、遺構は確認されなかった。

2. 遺跡の概観



第2図 周辺地形図

向原遺跡は、大宮台地のはば中央に位置し、標高は約15mである。北西側に低地を控え、約3mの比高差をもつ。

調査範囲は長さ約200m、幅約32m（広い部分）と北西から南東にかけて細長く、途中南北に町道が横切っている。

まず、路線に沿って幅約1.8mの試掘溝を5本入れ、遺構を確認し、表土剥ぎを行なった。遺構確認面は、現地表より0.2~0.4mである。次に路線のセンター杭を中心として4×4mのグリッドを設定し、路線北より南へ数字、西より東に片仮名を付して呼称することとした。

次の各遺構が検出されている。

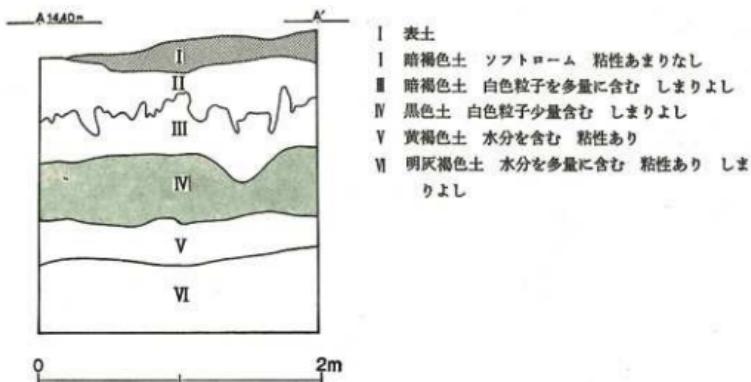
住居跡22軒—3号住居跡は整理の都合上欠番となっている。隅丸長方形を呈するもの2軒、小判型を呈するもの1軒、その他の19軒は隅丸方形を呈する。弥生時代末の集落と思われる。

方形周溝墓2基—台地奥の西側に検出されたが、いずれも半分以上は調査範囲外にあり、主体部は認められていない。周溝は完全に巡っているものと思われる。住居跡とはほぼ同時期と考えられる。灰焼窯8基—いずれも半地下式の黒炭窯で、形状・規模に大差なく、短期間に使用されたものであろう。近世の遺構である。

溝17条—数条を除いて、平行・直交するものが多く、地境の根切り溝が主であろう。

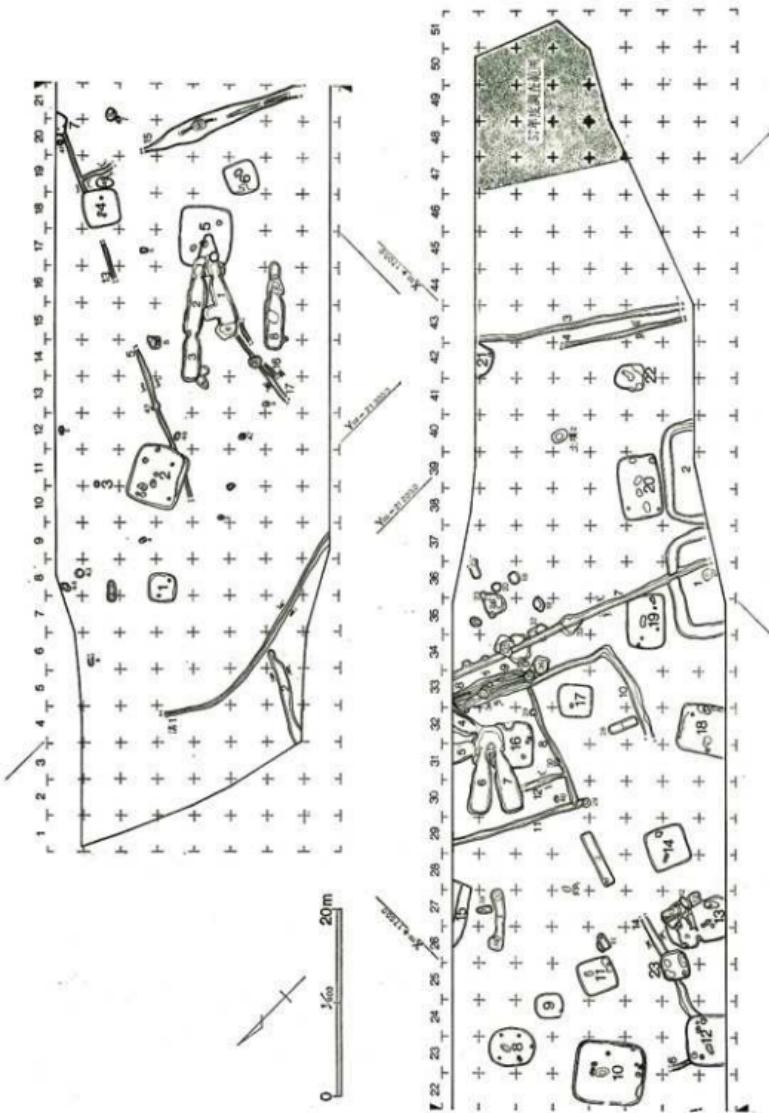
その他の遺構として、各時期の土墳48基、縄文時代中期（勝坂期）の土器溜り1基、縄文時代早期土器群と対応するファイアピット9基が検出されている。

また、台地先端部を中心として先土器時代の石器・礫等も出土しており、面的に拡大し調査を行なって成果を得ている。



第3図 層序図

第4図 全測図



3. 遺構と出土遺物

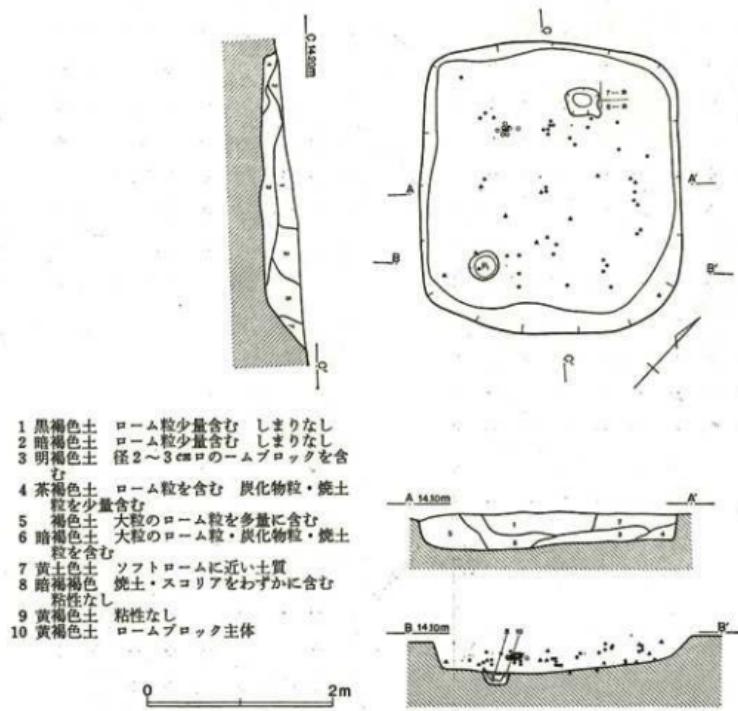
(1) 弥生時代

A 住居跡

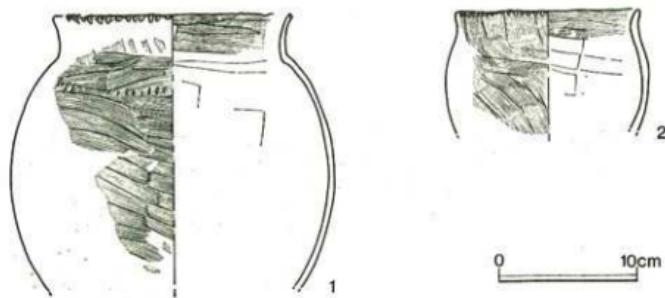
1号住居跡 (第5図、図版1)

台地斜面部、7~8オーハカに検出され、 $3.2 \times 2.8\text{m}$ の隅丸方形を呈する。柱穴1、炉跡1(地床炉)。

南東側の立上りはゆるやかで、壁の崩壊を予防したものと思われる。床面は細かい凹凸が多い。他の住居跡より、全体的に雑な造りである。



第5図 1号住居跡



第6図 1号住居跡出土遺物

表3 1号住居跡出土遺物(第6図)観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	甕	口径推定17.4	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一胴部は上～下の斜め刷毛 頸部は継刷毛の上をナデている 内一頸部以下窓削り	黒色砂粒多量・明褐色粒・灰色砂粒を含む 7.5YR6/4にぶい橙色
2	甕	口径推定13.6	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一胴部は下～上の斜め刷毛 内一頸部以下窓削り	黒色砂粒・乳白色石を含む 7.5YR7/6橙色

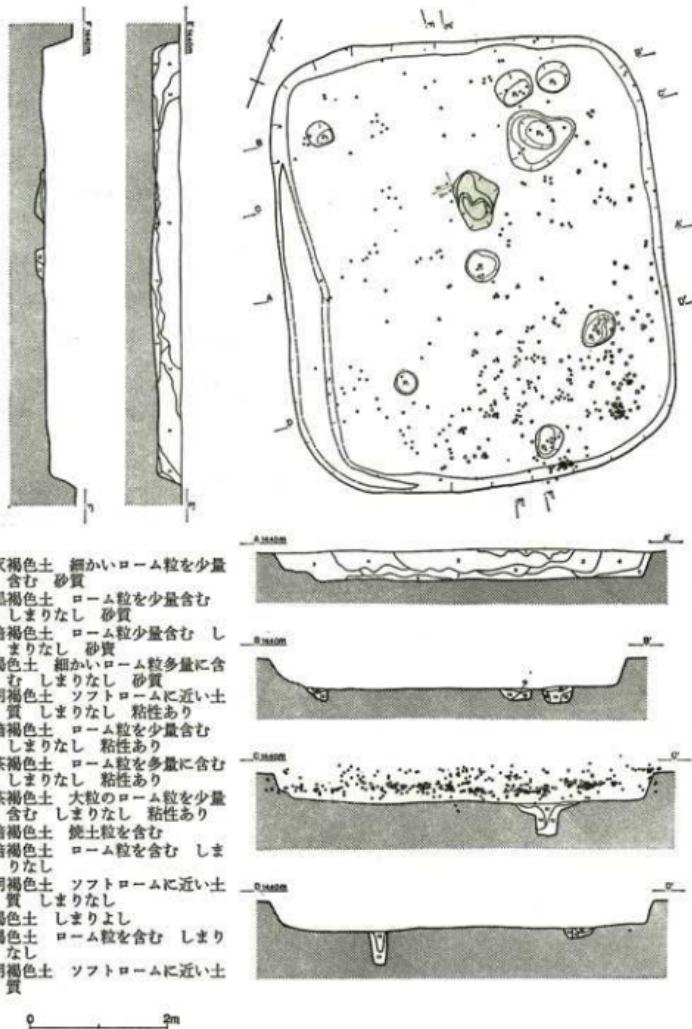
2号住居跡(第7図、図版2)

台地肩部、10～11～オ～カに検出され、6.6×5.6mの隅丸方形を呈する。柱穴8、炉跡1(地床炉)。

南西側の塀沿いに最大幅40cm、高さ15cm程のいわゆるミベッド状造構が設けられている。この段は、ソフトロームの削り出しによって作られている。

南東隅からは第8図1の弥生時代後期吉ヶ谷式と思われる大甕が出土しているが、上層からの検出であり、この住居に伴う物とは考え難い。

床面は、しまりよくほぼ平坦である。



第7図 2号住居跡

第8圖 2號住居跡出土遺物

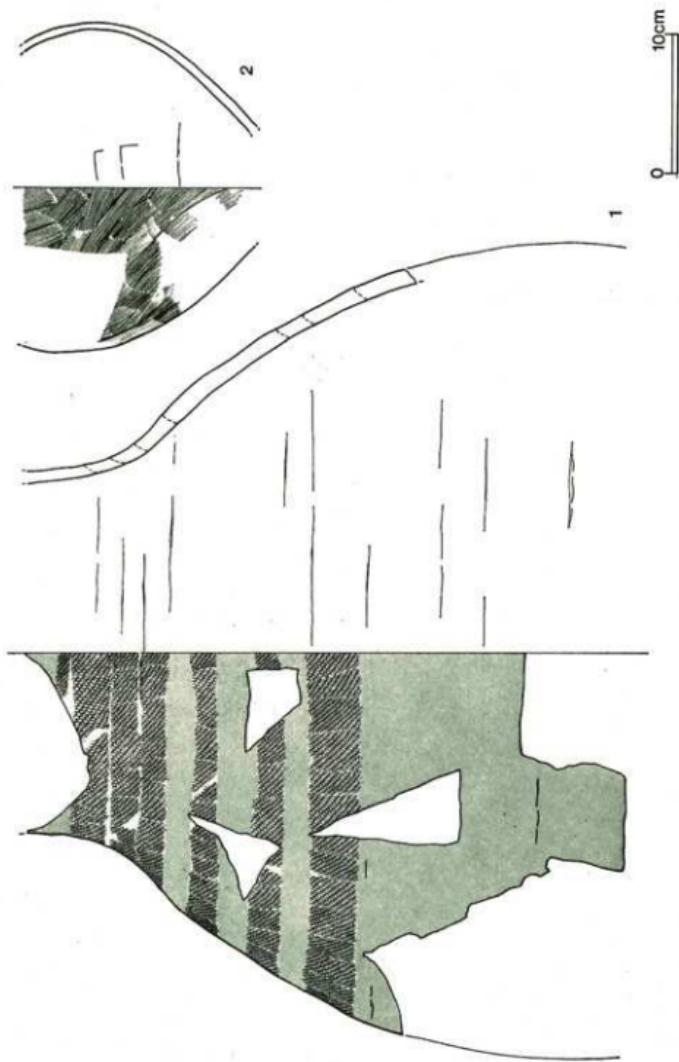
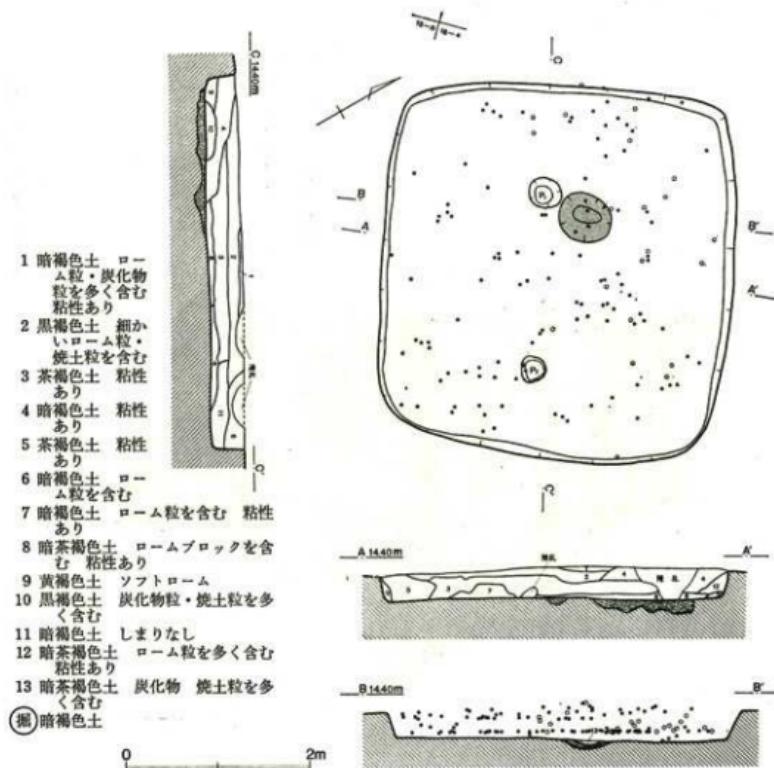


表 4 2号住居跡出土遺物(第8図)観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	甕	胴径推定56.8	内・外とも輪状痕明瞭 4つの文様帶にRLの縄を横位に施文 無文帶部にはみ出た縄文は磨消し 無文帶部には赤彩を施す	乳白色石粒多量・灰色石粒多量・黒色砂粒・金雲母・暗赤褐色石粒を含む 7.5YR7/6橙色
2	甕	口径 24.2	台付甕胴部か 器面がアバタ状にあれている 外一肩部以下は上へ下の斜め網目 内一寛削り底・輪状痕わずかに見られる	褐色粒多量・黒色砂粒を含む 7.5YR7/3に近い橙色

4号住居跡(第9図、図版2)

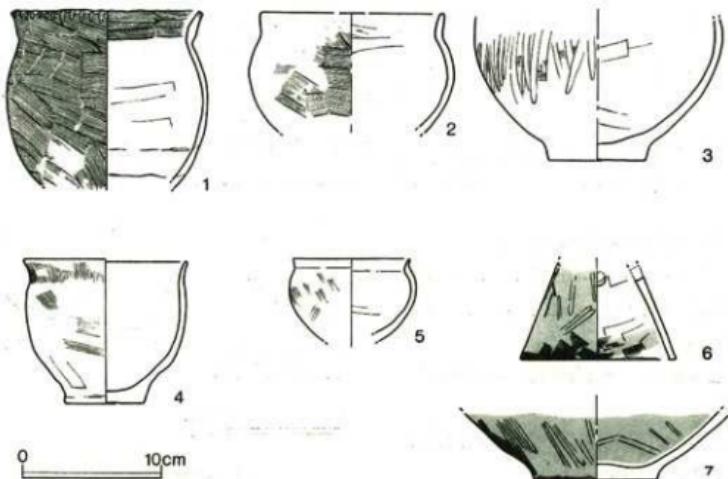


第9図 4号住居跡

16—キに検出され、 4.1×3.8 mの隅丸方形を呈する。柱穴 2、炉跡 1（地床炉）。

床面はしまりよく、ほぼ平坦である。

土層断面の観察で、一部に深さ15cm程の掘り方が確認された。



第10図 4号住居跡出土遺物

表 5 4号住居跡出土遺物（第10図）観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	壺	口径 14.2	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 台付窓か 内面アバタ状 外一細かい刷毛 内一頸部以下箒削り 輪積痕あり	褐色粒・灰白色石粒を含む 7.5 YR 8/3浅黄橙色
2	甕	口径推定13.6	全体に磨耗している 口縁部内外ともナデ 外一細かい刷毛 内一頸部箒削り	褐色粒（土器細粒か）多量 暗赤褐色粒を含む 5 YR 8/3淡橙色
3	壺	底径 7.2	胴下半は磨耗が激しい 外一横刷毛→箒磨き 内一箒ナデ	褐色粒（土器細粒か）・黒色砂粒を含む 5 YR 8/4淡橙色
4	小型甕	口径 12.1 底径 6.0 器高 10.5	内外面ともアバタ状剥離が激しい 外一口縁付近と 頸部の一部は細かい刷毛 胴下半に箒削り痕 内一口唇～頸部ナデ	明褐色粒（土器細粒か）・ 黒色砂粒・乳白色石粒を含む 7.5 YR 8/4浅黄橙色

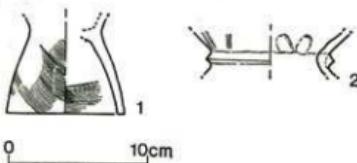
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
5	鉢	口径推定 8.6	内外面ともアバタ状剥離が激しい 口縁部内外ともナデ 外一細かい刷毛 内一箇ナデ	赤褐色粒(土器細粒か)多量・乳白色石粒・黒色砂粒を含む 7.5 YR 8/4淡黄橙色
6	器台	底径 11.3	脚部のみ残存 内外面ともアバタ状剥離が激しい 径1.0cmの穿孔3箇所(4箇所あったと思われる) 底部付近内外とも刷毛 外一箇磨き 赤彩 内一箇削り 刷毛部分に赤彩	黒色砂粒・明褐色粒を含む 10 R 6/8赤橙色
7	壺	底径推定 9.0	内外面とも赤彩(底面を除く) 内面アバタ状剥離 外一箇磨き 内一箇ナデ	明褐色粒・灰色砂粒を含む 5 YR 6/6橙色

5号住居跡(第11図、図版3)

17~18—エ~オに検出され、6.5×5.7m
の隅丸方形を呈する。柱穴2、炉跡1(地
床炉)。

北西側は、1・2号炭焼窯に切られてい
る。

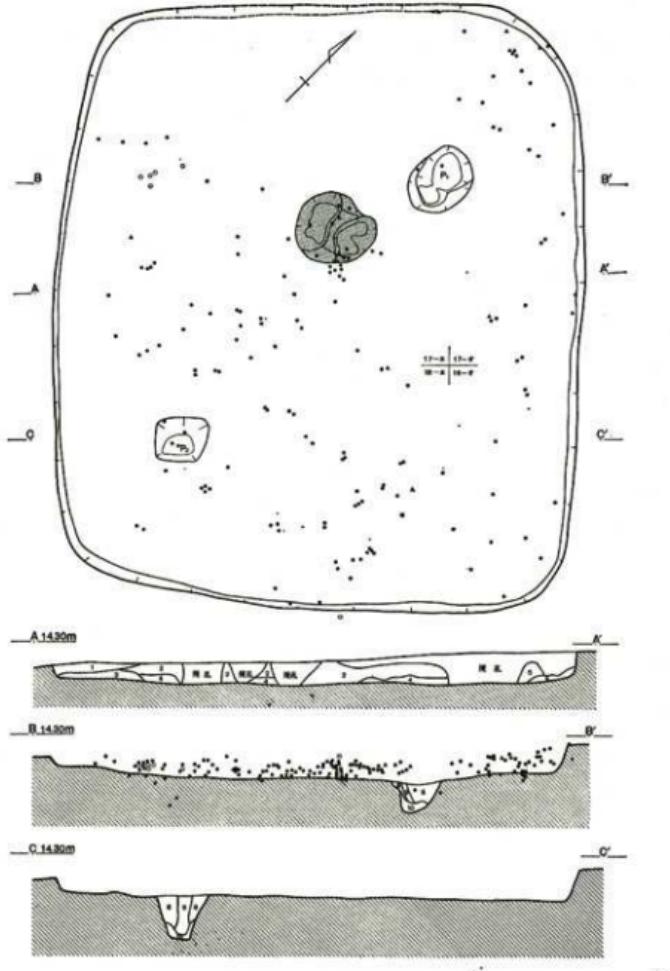
上からの攪乱をうけて床面もかなりあれ
ており凹凸が多い。



第11図 5号住居跡出土遺物

表6 5号住居跡出土遺物(第11図)観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付甕	底径推定 8.7	脚部のみ残存 内外とも粗い刷毛	灰色砂粒多量・黒色微細粒を含む 7.5 YR 7/4にぶい橙色
2	壺	頭部径推定 9.4	頭部のみ残存 断面三角形の段をもつ 外一段の部 分はナデ 他は箇磨き 内一接合部に粘土をかぶせ指による調整	白色微細粒多量・黒色砂粒 ・乳白色石粒を含む 7.5 YR 6/6橙色



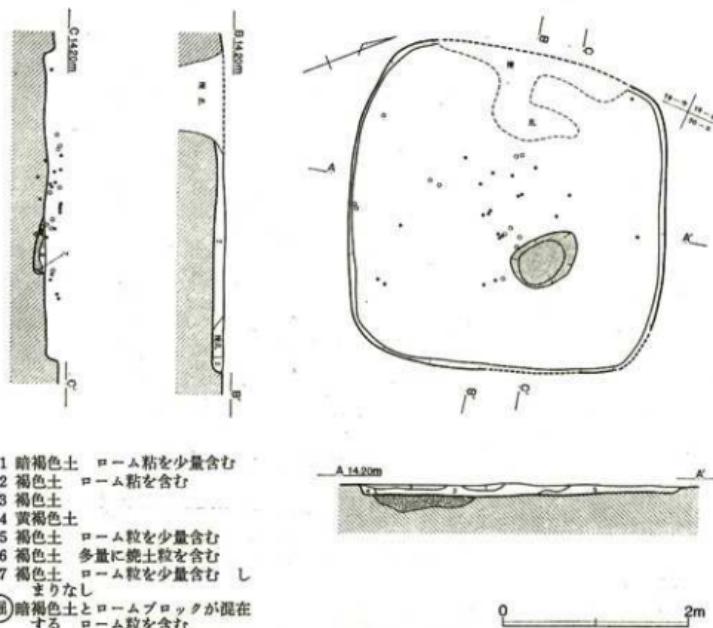
第12図 5号住居跡

6号住居跡（第13図、図版3）

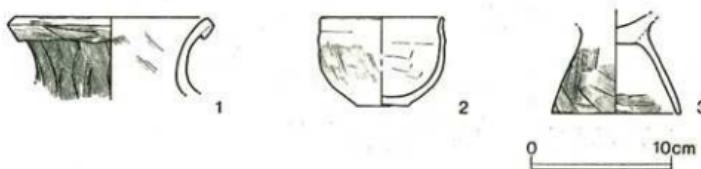
20一ウに検出され、 $3.4 \times 3.4\text{m}$ の隅丸方形を呈する。炉跡1（地床炉）。

東側は上からの擾乱をうけており、壁高も10cm程度と、遺存状態が悪く遺物の出土量も少ない。

土層断面の観察で、一部に深さ20cm程の掘り方が確認された。



第13図 6号住居跡



第14図 6号住居跡出土遺物

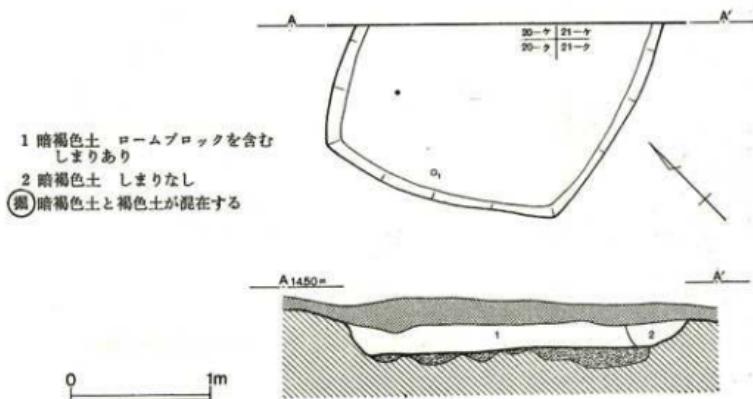
表 7 6号住居跡出土遺物(第14図)観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	壺	口径 15.0	折返しの調整が難で波をうつ 外一器面に刷毛を施した後、口唇部にもわずかに刷毛を施す 内一口唇より 2cm 程はナデ 以下は斜め刷毛 アバタ状剥離が多い	褐色粒(土器細粒か)乳白色石粒・灰色砂粒を含む 7.5 YR 7/6 橙色
2	鉢	口径 9.0 底径 3.7 器高 6.4	内外とも口縁付近はナデ 外一細かい刷毛 内一箇削り	褐色粒(土器細粒か)黑色砂粒・灰白色石粒を含む 5 YR 7/3にぶい橙色
3	台付甕	底径 9.4	脚部のみ残存 外一粗い刷毛 内一胸部側は箇削り 脚部側は接合部箇削り 以下箇ナデ 底部付近は刷毛	白色微細粒多量・黒色砂粒・明褐色粒を含む 5 YR 5/6 明赤褐色

7号住居跡(第15図、図版4)

20-1に検出され、北東側の一部が調査範囲外に出る。2.1m × 不明の隅丸方形を呈する。

床面はしまりなく、ほぼ平坦である。土層断面の観察で、深さ15cm程の掘り方が確認された。



第15図 7号住居跡

表 8 7号住居跡出土遺物(第16図)観察表

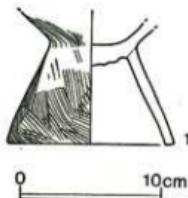
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付甕	底径 12.0	脚部のみ残存 外一粗い刷毛 内一胸部側は剥離が激しい、脚部側は箇ナデ	白色微細粒多量・乳白色石粒・褐色粒・灰色砂粒を含む 7.5 YR 7/6 橙色

8号住居跡（第17図、図版4）

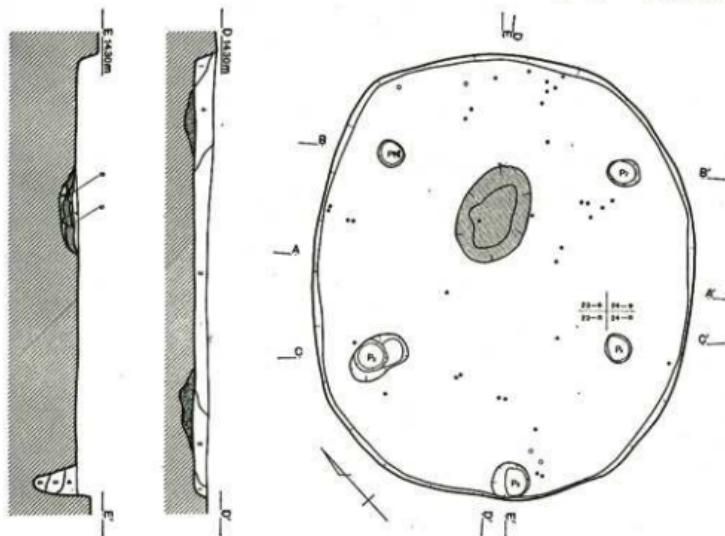
23~24—カ～キに検出され、長軸4.8×短軸4.1mの小判形（胴の張る隅丸方形）を呈する。柱穴5、炉跡1（地床炉）。

整った四本柱穴と、入口施設に用いられたと考えられる柱穴を備え、形態も他の住居跡とは異なっている。

床面は非常にしまりよく、ほぼ平坦である。土層断面の観察で、深さ20cm程の掘り方が確認された。



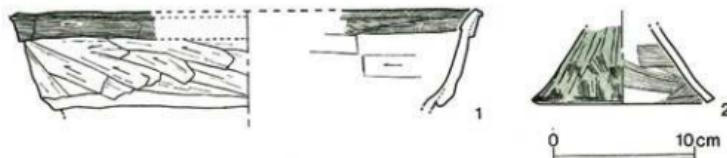
第16図 7号住居跡出土遺物



- 1 茶褐色土
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む
粘性なし
- 3 茶褐色土 ローム粒を多量に含む
粘性なし
- 4 暗褐色土 小さいロームブロック
ローム粒を少量含む しまりよし
- 5 黄褐色土 ロームブロック 粘性あり
- 6 茶褐色土 ロームブロックを多く含む
- 7 黒褐色土 燃土・灰が混じる
- 8 暗褐色土 燃土・灰が混じる
- 9 壓い灰ブロックを主体として炭化物を少量含む 燃土ブロックを含む
○ 暗褐色土 径3~4cmのロームブロックを含む 大量のローム粒を含む しまりよし

0 2m

第17図 8号住居跡

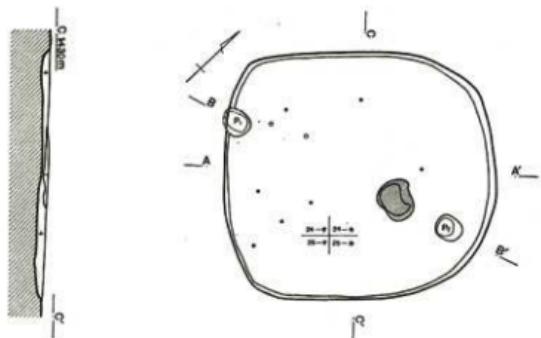


第18図 8号住居跡出土遺物

表9 8号住居跡出土遺物(第18図)観察表

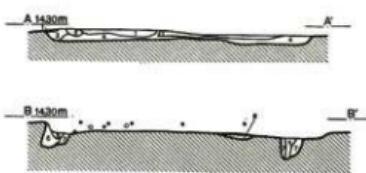
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	鉢	口径推定34.0	口縁に折返しをもつ 粘土接合部の調整粗雑 外一 面に粗い刷毛を施した後、折返し部分を貼りつけ ている	淡橙色粒(土器細粒か)・ 白色砂粒を含む 10YR7/4に近い黄橙色
2	器台	底径推定13.2	外面のみ赤彩 外一様・斜め刷毛を施した後笠磨き 内一横刷毛と木口状工具によるナデ	淡橙色粒(土器細粒か)・ 黒色微細粒を含む 10YR7/4に近い黄褐色

9号住居跡(第19図、図版5)



- 1 暗褐色土 炭化物・細かいローム粒を少量含む
- 2 赤褐色土
- 3 黄褐色土 ロームブロックを主体として赤褐色
土が混入する 粘性あり
- 4 褐色土
- 5 褐色土 ローム粒を少量含む
- 6 暗褐色土 ローム粒を少量含む 粘性あり
- 7 黄褐色土 ソフトロームを主体とし少量の暗褐
色土が混入する
- 8 淡黄灰褐色土 燃土・灰を含む

0 2m

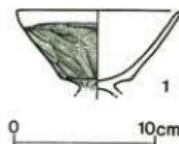


第19図 9号住居跡

24~25—オ~カに検出され、 $3.0 \times 2.7\text{m}$ の隅丸方形を呈する。柱穴 2、炉跡 1（地床炉）。

床面はしまりなく、凹凸が多い。壁高も10cm程度で、遺物も少なく、残存状態はよくない。

柱穴 P₁は、南西壁ぎわにあり、かなり内傾している。



第20図 9号住居跡出土遺物

表10 9号住居跡出土遺物（第20図）観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	高杯	口径 12.0	頸部の上に段をもつ 内外とも口縁部横ナデ 斜め刷毛 内一剥離が激しい	白色微細粒・褐色微細粒を含む 7.5 YR 8/4浅黄橙色

10号住居跡（第21図、図版5）

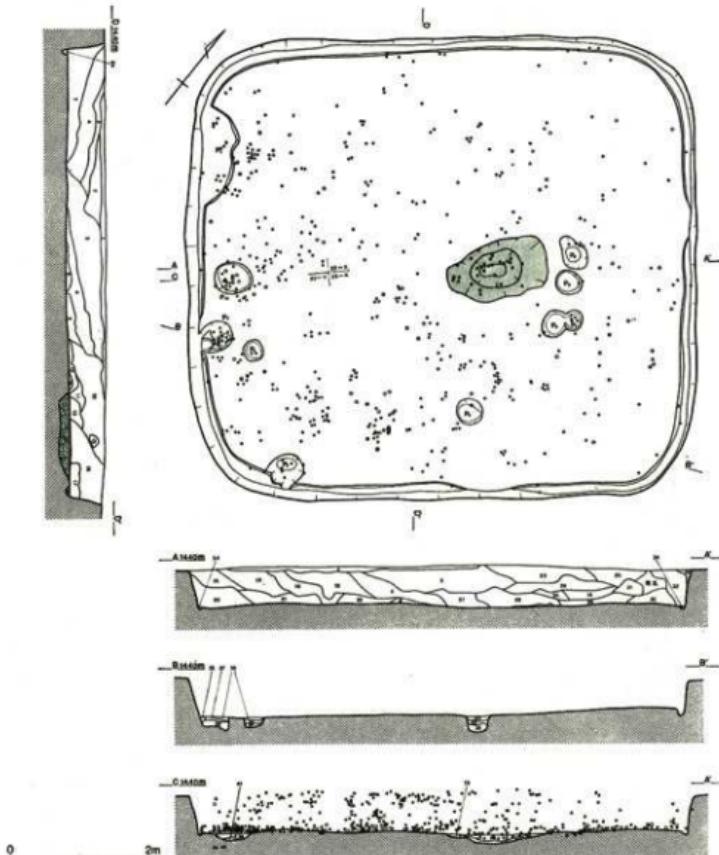
22~23—ウ~オに検出され、 $7.6 \times 6.8\text{m}$ の隅丸方形を呈する。柱穴 9（図のP₁は柱穴ではないと思われる）、炉跡 1（地床炉）。幅20cm・深さ10cm程の壁構がめぐり、北東・南東・南北側で各々1ヶ所ずつ途切れている。そのうち南西側は明らかにP₁を意識して途切れており、P₁は入口施設に伴うものであることも考えられる。

出土遺物も多く、遺存状態良好な、当遺跡の内では最大の住居跡である。

土層断面の観察で、一部に深さ15cm程の掘り方が確認された。

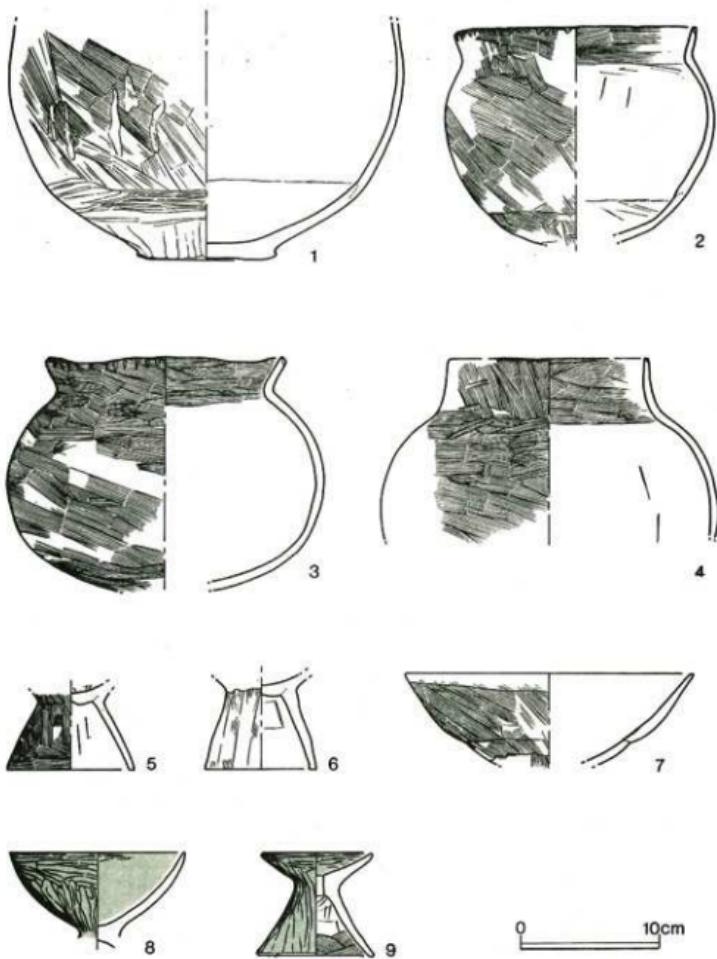
表11 10号住居跡出土遺物（第22図）観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	甕	底径 10.2	外面に煤付着 外一上→下の斜め刷毛 下半部はさらに縱窪磨きを施す 粘土帶接合部分に横窪磨き 内一細かい木口状工具によるナデ	橙色粒（土器細粒か）多量 白色微細粒・黒色微細粒を含む 10 Y R 5/3に近い黄褐色
2	台付甕	口径 17.8	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外面に煤付着 外一下→上の斜め刷毛 内一木口状工具によるナデ	橙色粒（土器細粒か）・白色微細粒を含む 10 Y R 8/3浅黄橙色
3	台付甕	口径 17.8	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外面に煤付着 外一口唇端面にも刷毛 下半部は縱・横刷毛の後斜め刷毛	淡橙色粒（土器細粒か）多量・白色微細粒を含む 10 Y R 8/4浅黄橙色
4	甕	口径推定 14.8	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一口縁部下→上、胴部右→左の刷毛 内一窪ナデ	褐色粒（土器細粒か）・白色微細粒を含む 10 Y R 5/3に近い黄褐色
5	台付甕	底径推定 9.6	脚部のみ残存 外一縦刷毛 褶部横刷毛 内一丁寧なナデ	褐色粒（土器細粒か）・黑色粒・白色微細粒を含む 2.5 Y R 6/8橙色



- 1 黒褐色土 ローム段を少量含む 砂質
ローム段 ロームブロックを含む
- 2 黒褐色土 ローム段を多量に含む
- 3 褐褐色土 ローム段を少量に含む
- 4 沼澤地のローム段を含む
クモダ苔を含む
- 5 褐色土 ローム段を多量に含む
- 6 黒色土 ローム段 ロームブロックを含む
- 7 茶褐色土 大段のローム段を多量にロームブロックを含む
- 8 黑褐色土 ソフトロームと黒色土が混在 しまりよし
し 粘性あり
- 9 红褐色土 大段のローム段を多量に含む
- 10 褐褐色土 ローム段を含む 砂質
- 11 褐褐色土 ローム段を含む しまりよし 粘性あり
- 12 褐褐色土 ローム段を含む しまりよし 粘性あり
- 13 茶褐色土 ローム段多量に含む
- 14 黑褐色土 ソフトローム主導
- 15 黑褐色土 ローム段を多量に含む 砂質
- 16 黑褐色土 ローム段を含む
- 17 黑褐色土 ローム段を含む 砂質
- 18 褐色土 ローム段を含む 砂質
- 19 褐色土 ローム段を多量に含む 粘性あり
- 20 黑褐色土 ローム段を多量に含む 粘性あり
- 21 褐褐色土 ローム段を含む しまりよし
- 22 茶褐色土 ローム含む
- 23 茶褐色土 ローム含む
- 24 黑褐色土 ローム段を含む 粘性あり
- 25 黑褐色土 ローム段を少量含む 粘性あり
- 26 不茶褐色土 ローム段合む 粘性あり
- 27 不茶褐色土 大段のローム段を含む 粘性あり
- 28 黑褐色土 大段のローム段を含む 粘性あり
- 29 黑褐色土 大段のローム段を少量に含む
- 30 黑褐色土 大段のローム段を多量に含む 粘性あり
- 31 黑褐色土 大段のローム段を多量に含む 粘性あり
- 32 黑褐色土 ローム段を少量含む
- 33 黑褐色土 ソフトロームに近い土質
- 34 黑褐色土 ハードロームのブロック
- 35 黑褐色土 粘性あり
- 36 黑褐色土 ローム段を少量含む
- 37 黑褐色土 粘性弱くしまりよし
- 38 黑褐色土 ローム段を少量含む しまりよし 粘性あり
- 39 黑褐色土 あり
- 40 黑褐色土 ロームブロックを含む
- 41 黑褐色土 ローム段を少量、礁土段多量に含む
- 42 黑褐色土 ローム段を少量含む しまりよし
- 43 黑褐色土 出砂層を少量含む
- 44 黑褐色土 大段のローム段多量に含む

第21図 10号住居跡



第22図 10号住居跡出土遺物

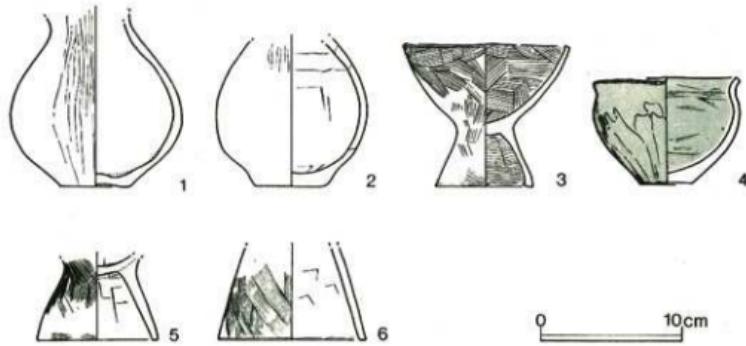
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
6	台付甕	底径推定 8.3	脚部のみ残存 外一箇削りの後 縦刷毛 内一箇ナデ	砂粒・褐色粒・黒色微細粒 を含む 10YR 8/2灰白色
7	高坏	口径推定21.2	粘土接合部の調整跡 内面の剥落が激しい 外一下 →上の斜め刷毛の後 口縁部ナデ 下半部は刷毛の 後ナデを加え さらに刷毛を施す 内一口縁部は木口状工具による横ナデ	黒色微細粒・白色微細粒・ 淡褐色粒を含む 10YR 7/3にぶい黄橙色
8	高坏	口径 13.0	内外面とも赤彩 内面の剥落が激しい 外一口縁部 横範磨きの後、脚部縱範磨き 内一口縁部に箇削り痕	赤色粒・白色微細粒・砂粒 を含む
9	器台	口径 8.2 底径 8.7 器高 7.5	外面 受部内面赤彩 中央部に穿孔 外一口縁横範 磨き 脚部縦範磨き 内一部範磨き 脚部範削り 脚部刷毛	黄白色粒・白色微細粒・灰 黑色粒を含む 5YR 7/4にぶい橙色

11号住居跡（第24図、図版6）

25~26—エ～オに検出され、3.8×3.8mの隅丸方形を呈する。柱穴2、炉跡1（地床炉）。

床面上に炭化材・炭化物・焼土が散布しており、焼失家屋である可能性もある。

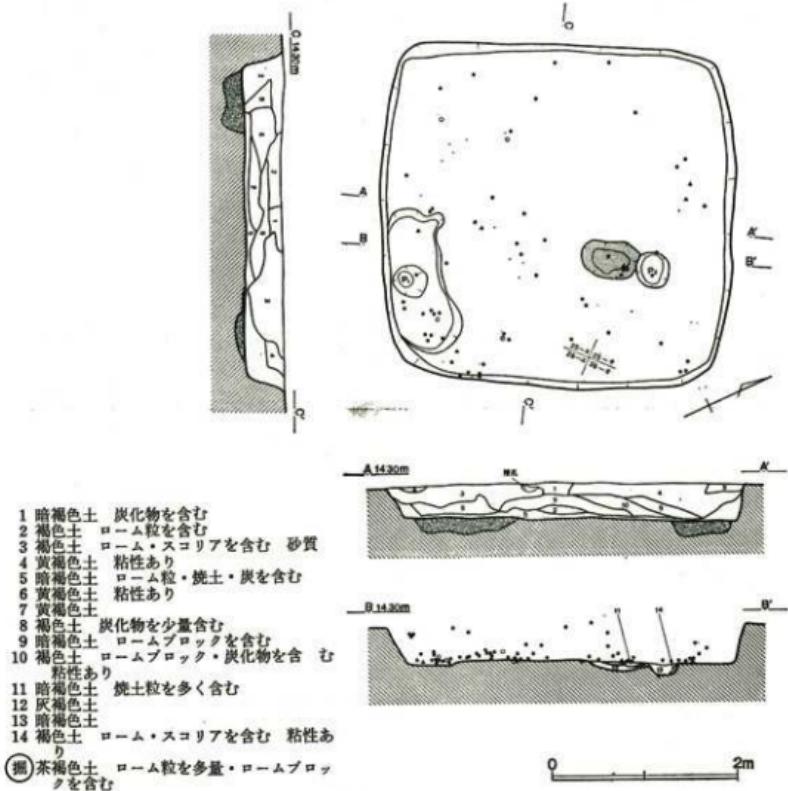
床面はしまりよく、ほぼ平坦である。土層断面の観察で、一部に深さ20cm程の掘り方が確認された。



第23図 11号住居跡出土遺物

表12 11号住居跡出土遺物（第23図）観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	小型壺	底径 5.0	内面は剥落が激しい 外一箇磨き 底面にも及ぶ 内一部磨き	白色微細粒・砂粒を含む 7.5YR 6/6橙色



第24図 11号住居跡

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
2	小型壺	底径 5.4	外面は磨耗している 外一箇磨き痕 内一箇ナデ	乳白色石粒・赤色粒・砂粒を含む 10YR7/3に近い黄橙色
3	高壺	口径 12.2 底径 6.7	台付甕製作途中で転用したものと思われる 内面に一部煤付着 完存 外一口唇部木口状工具によるナデ 口縁部上→下、胴部下→上の斜め刷毛 下半部は雑なナデも加える 内一环部右回り横刷毛 脚接合部指ナデ	黄白色粒(土器細粒か) 10YR6/3に近い黄橙色



■ 焼土 ■ 炭化物 ■ 焼土粒・炭化物粒 集中範囲

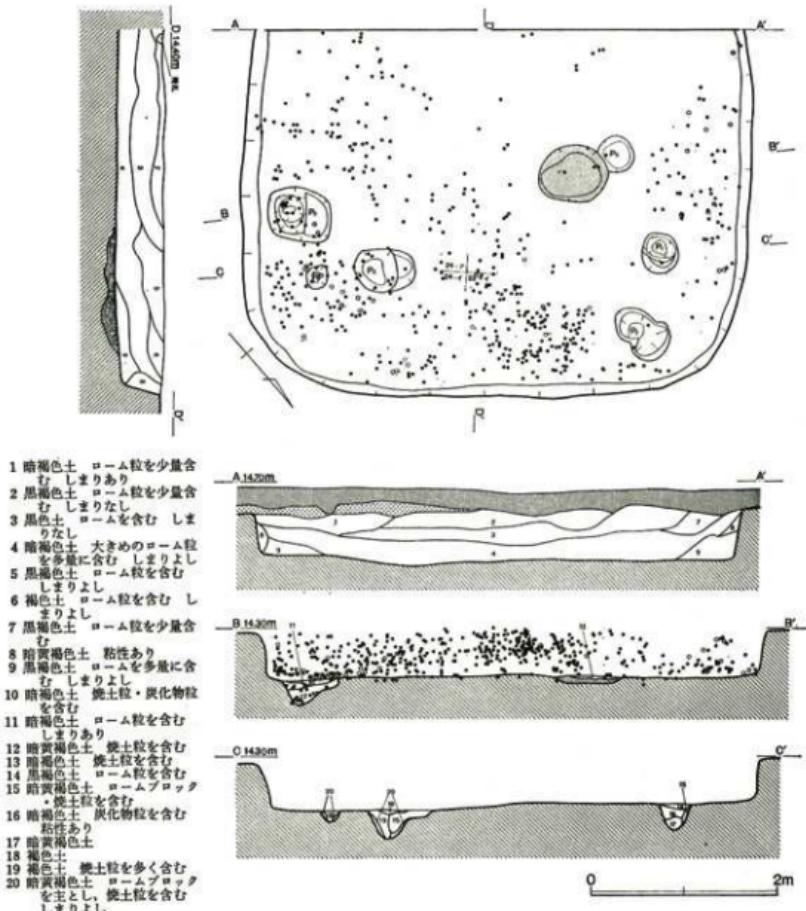
第25図 11号住居跡焼土・炭化物範囲

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
4	鉢	口径 10.7 底径 3.7	内外面とも赤彩 口唇部に木口状工具の押圧による刻み 完存 外一木口状工具によるナデの後 縦篦磨き 底面は粗いナデ 内一木口状工具によるナデ	橙色粒(土器細粒か)・砂粒・白色微細粒・黄白色粒を含む
5	台付甕	底径 8.8	脚部のみ残存 器面の剥落が激しい 外一細かい縦刷毛の後 甕部底にむけた斜め刷毛 捜部横刷毛 内一甕部底はナデ 脚部木口状工具によるナデ	橙色粒(土器細粒か) 多量砂粒・黒色粒を含む 10YR 8/4浅黄橙色
6	台付甕	底径推定10.8	脚部のみ残存 外一細かい縦刷毛の後 上→下の斜め刷毛 内一箇ナデ	明褐色粒(土器細粒か)・灰色砂粒を含む 7.5YR 6/6橙色

12号住居跡（第26図、図版7）

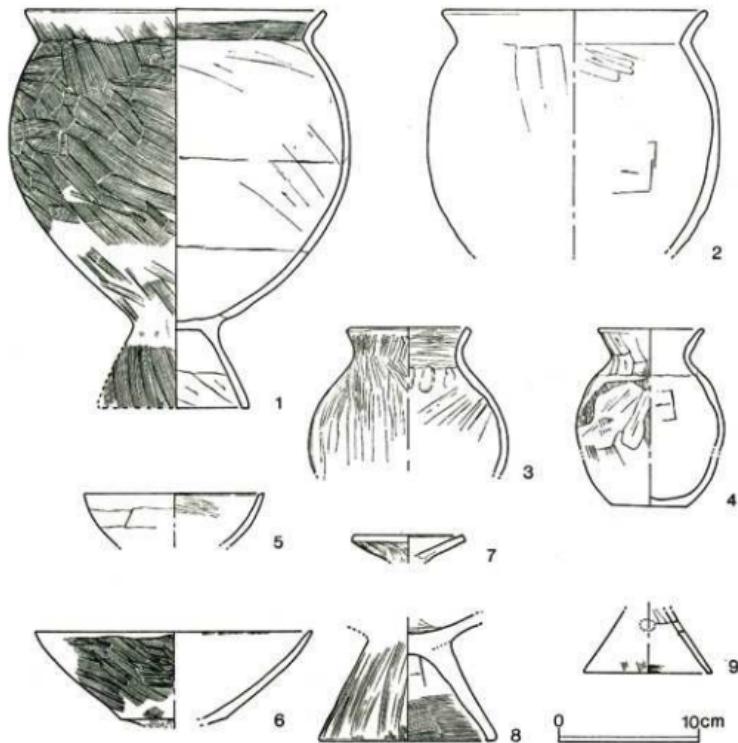
23~24-ア~イに検出され、南西側の一部が調査範囲外に出る。5.5m×不明の隅丸方形を呈する。柱穴6、炉跡1（地床炉）。

出土遺物も多く、遺存状態は良好。北隅をわずかに6号構に切られる。床面は非常にしまりよくほぼ平坦である。土層断面の観察で、一部に深さ15cm程の掘り方が確認された。



第26図 12号住居跡

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付甕	口径 22.0 底径推定 10.6	外面煤付着 ほぼ完存 外一口縁下→上の斜め刷毛の後 上半部横ナデ 脚部下→上の斜め刷毛 脚下半→脚は斜め刷毛の後ナデ 内一口縁横脚毛の後 上半部横ナデ 脚部・脚部上半木口状工具によるナデ 脚部下半窓削り後、雜なナデ	2~4mm程度の不透明石粒 多量・金雲母・白色微細粒 砂粒を含む 10YR6/4に近い黄橙色



第27図 12号住居跡出土遺物

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
2	壺	口径推定11.4	口縁部内外とも横ナデ 外一胴部範削りの後 入念なナデ 内一頸部付近範ナデ 脇部木口状工具によるナデ	不透明石粒多量・金雲母・砂粒・白色微細粒を含む 10YR4/2灰黄褐色
3	小型壺	口径推定 9.2	口唇部範磨き 外一口縁部横ナデ後、入念な範磨き 内一口縁・頸部横範磨き 頸部に指頭痕 脇部粗い木口状工具による深いナデ	白色微細粒・黒色微細粒・赤色微細粒・黄白色粒を含む 10YR7/4に近い黄褐色

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
4	小型壺	口径推定 7.8 底径推定 5.4	外一口縁～頸部窓削り 脊部斜め刷毛の後 雜なナデ 内一口縁部ナデ 脊部窓ナデ	淡橙色粒(土器細粒か) 多量・砂粒・不透明石粒を含む 7.5Y R7/4に近い橙色
5	鉢	口径推定 13.2	磨耗が激しい 一部須恵質化 外一窓削り 内一窓磨きか	赤色粒・白色微細粒多量・ 黒色粒・雲母・透明石粒を含む 5 Y R7/8橙色 一部N6/灰色
6	高 壺	口径推定 20.4	外一下→上の斜め刷毛→口縁部横ナデ 内一口肩部刷毛 体部ナデ	赤褐色粒・淡褐色粒(土器細粒か)・砂粒・黒色粒を含む 7.5Y R7/4に近い橙色
7	器 台	口 径 8.0	内外とも口縁部横ナデ 外一斜め刷毛→ナデ 内一ナデ	淡褐色粒(土器細粒か)・ 砂粒・白色微細粒を含む 7.5Y R6/4に近い橙色
8	台付甕	底 径 13.0	脚部のみ残存 外一縦刷毛→雜なナデ 接合部は木口をそのまま使用したような刷毛目 一部刷毛の上に粘土をナデツケ、内面も木口状工具によるナデ・ 削りを行なう(補修のためか) 内一窓部窓磨き 脚部上半は木口状工具によるナデ 下半は細かい横刷毛	砂粒多量・白色微細粒を含む 10 Y R4/8浅黄橙色
9	器 台	底径推定 9.4	脚部のみ残存 4箇所に穿孔が施されていたと思われる(外→内) 外一縦刷毛→ナデ 内一接合部付近ナデツケ 下端付近横刷毛	褐色粒(土器細粒か) 多量 砂粒・白色微細粒を含む 10 Y R8/3浅黄橙色

13号住居跡(第28図、図版8)

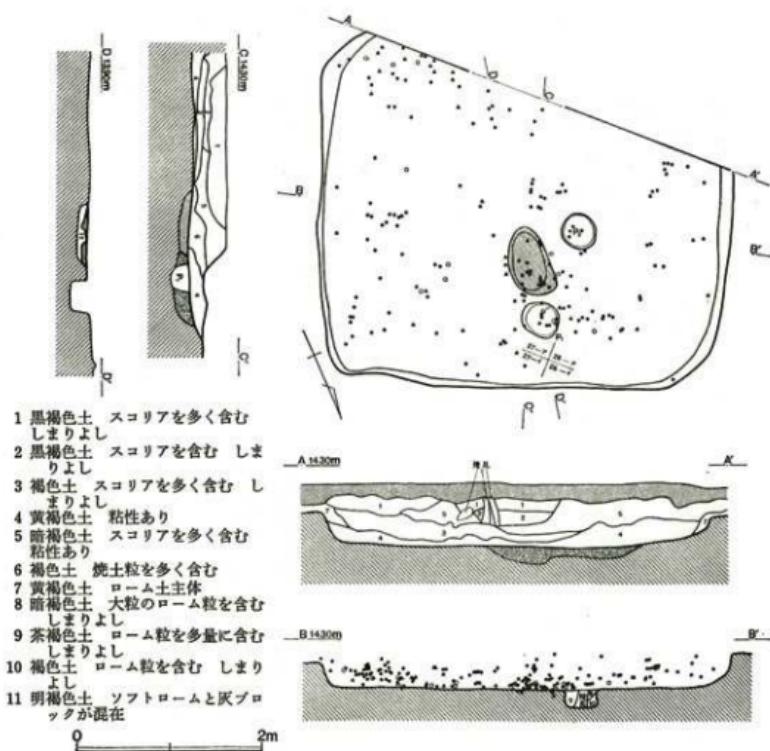
26~27~ア~イに検出され、南西側の一部が調査範囲外に出る。4.5m×不明の隅丸方形を呈する。柱穴2、炉跡1(地床炉)。

南隅より完形に近い形で甕が3点出土した他、出土遺物も多い。北東辺が9・10号土壤に、南東辺が12・13号土壤にわずかに接しているが床面までの影響はなく、遺存状態は良好である。

床面は非常にしまりよく、ほぼ平坦である。土層断面の観察で、一部に深さ20cm程の掘り方が確認された。

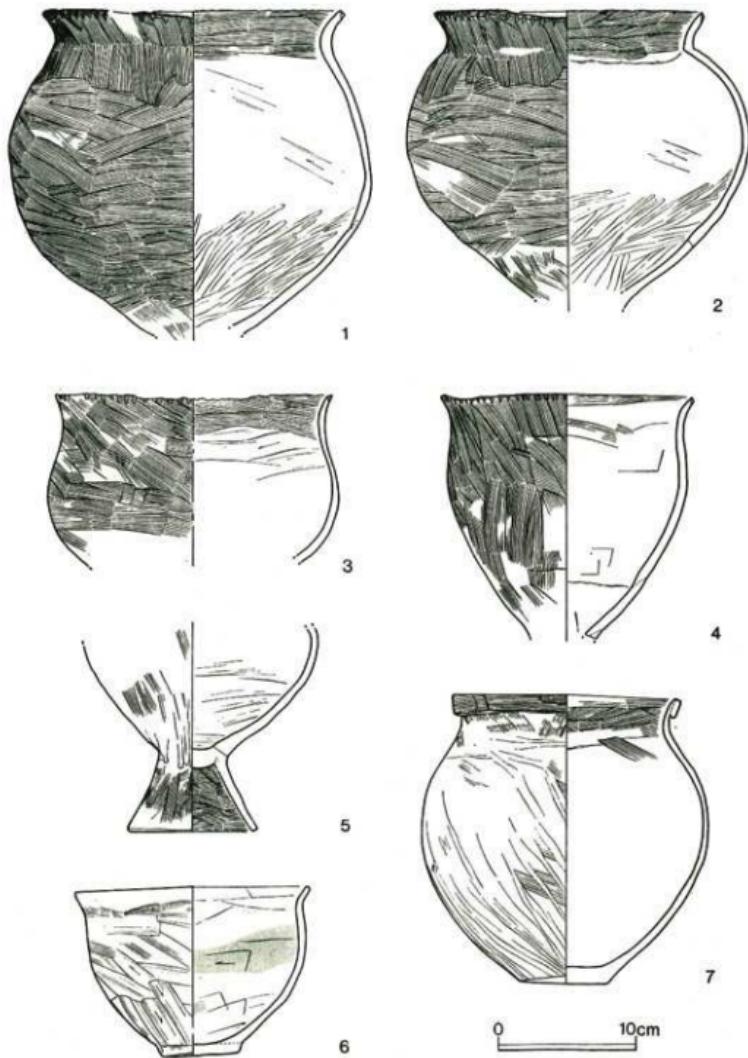
表14 13号住居跡出土遺物(第29・30図)観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付甕	口径 22.0	口部に刷毛状工具の押圧による割みと横刷毛 外一胴下半部縦刷毛→ナデ 内一頸部～胴中位は木口状工具によるナデ 以下窓磨き 全体の手法は2に類似している 内外面煤付着	橙色粒(土器細粒か) 多量 ・砂粒を含む 10 Y R8/6黄橙色

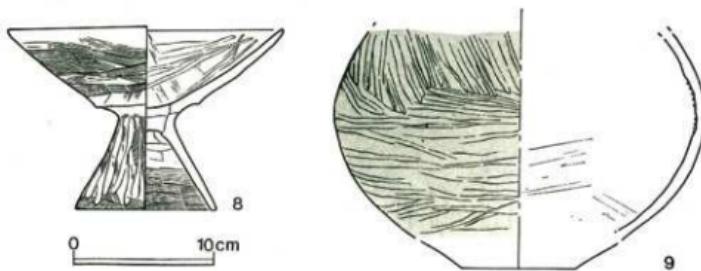


第28図 13号住居跡

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
2	台付甕	口径 19.6	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻みと横刷毛 外一胴下半部斜め刷毛の重複 内一頸部～胴中位は 木口状工具によるナデ 以下範囲き 内外面煤付着	橙色粒(土器細粒か) 多量 ・砂粒・不透明粒を含む 10YR4/8浅黄色
3	台付甕	口径推定22.0	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一斜め・横刷毛→部分的にナデ 煤付着 内一頸部以下木口状工具によるナデ	橙色粒(土器細粒か) 多量 ・砂粒・白色微細粒を含む 7.5YR5/3にぶい褐色
4	台付甕	口径 18.5	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一胴下半	橙色粒(土器細粒か) 多量



第29図 13号住居跡出土遺物(1)



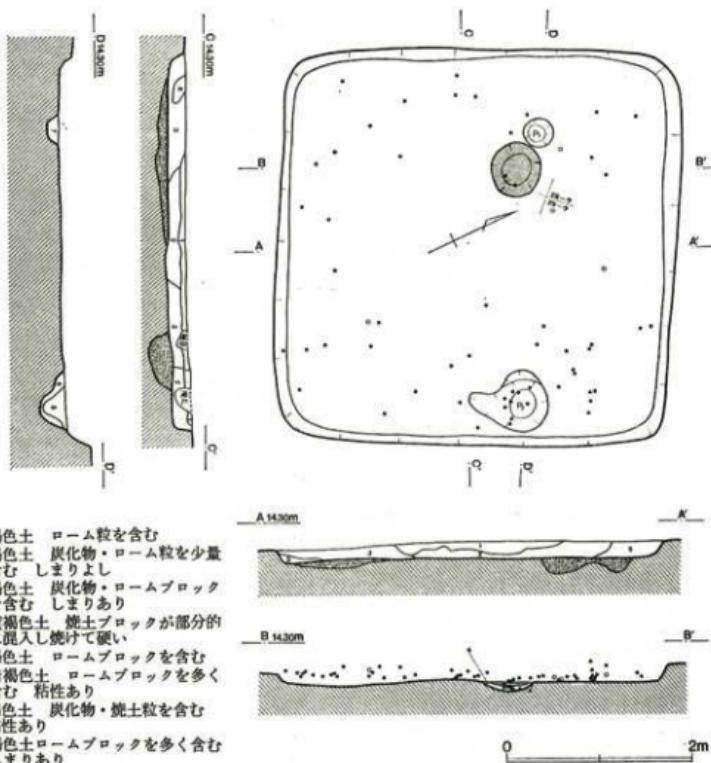
第30図 13号住居跡出土遺物(2)

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
			ナデ 内一口縁部横刷毛→木口状工具によるナデ 脚部も木口状工具によるナデ	・灰色石粒多量・砂粒・白色微細粒を含む 10YR8/4浅黄橙色
5	台付甕	底径 9.6	外一胴部は刷毛→ナデ→箠磨き 接合部入念なナデ ワケ 内一胴部は粗い木口状工具によるナデ	橙色粒(土器細粒か)多量 ・砂粒・黒色微細粒・白色微細粒を含む 10YR7/4にぶい黄褐色
6	鉢	口径 17.3 底径 5.8 器高 12.6	外一口縁部木口状工具によるナデ 以下刷毛と木口 状工具によるナデ 内一木口状工具によるナデ 頭 部~胴上半を巡る赤彩を施す	橙色粒(土器細粒か)・砂 粒・白色微細粒を含む 7.5YR8/6浅黄橙
7	甕	口径 16.8 底径 6.5 器高 21.0	折返し口縁 外一胴部斜め刷毛→箠磨き 内一胴部 木口状工具によるナデ 粗底あり	橙色粒(土器細粒か)多量 ・3~5mm程度の灰色石粒 ・砂粒を含む 7.5YR8/6浅黄橙
8	高坏	口径 19.9 底径 10.2 器高 13.2	外一坏部は口縁部横ナデ 以下斜刷毛→部分的に磨 き 脚部は斜め刷毛→箠磨き 底部付近横刷毛 内一坏部は口縁部横ナデ 以下木口状工具によるナ デ 脚部は上半部指捺ナデ	橙色粒(土器細粒か)多量 ・砂粒・黒色微細粒を含む 7.5YR6/4にぶい橙色
9	壺	胴径 27.0	外一削り→箠磨き 赤彩 内一木口状工具によるナ デ	橙色粒(土器細粒か)多量 ・黒色微細粒 10YR7/4にぶい黄橙色

14号住居跡（第31図、図版8）

28~29-イ~ウに検出され、4.3×4.3mの隅丸方形を呈する。柱穴2、炉跡1（地床炉）。

床面はしまりなく、ゆるやかな凹凸がある。土層断面の観察で、一部に深さ15~25cm程の掘り方が確認された。

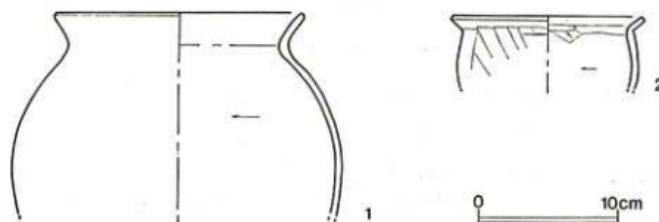


第31図 14号住居跡

表15 14号住居跡出土遺物（第32図）観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	壺	口径 18.5	内外面とも磨耗が激しく調整不明瞭 内面ナデと思われる 外面煤付着	径2~5mmの石粒多量・砂粒多量を含む 5YR7/6橙色

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
2	小型壺	口径 14.3	内外面とも口縁部横ナデ 外一頸部以下細かな木口状工具によるナデ 内一頸部窓削り 胎部ナデ	白黄色粒子多量・砂粒を含む 7.5 YR7/3にぶい橙色

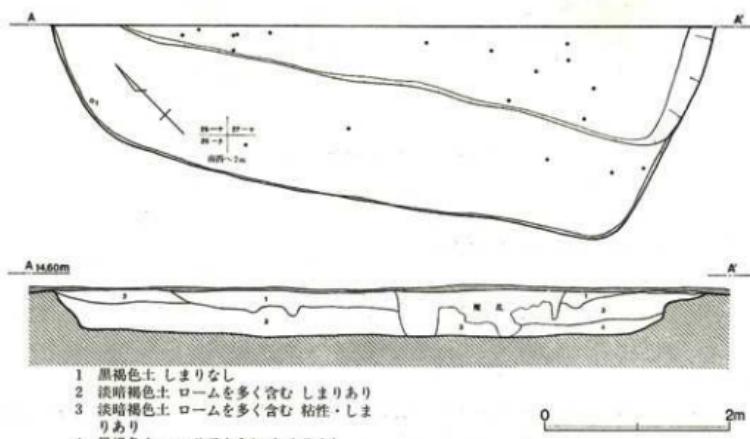


第32図 14号住居跡出土遺物

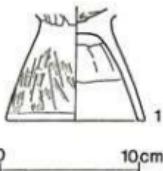
15号住居跡（第33図）

26~27—ク~ケに検出された。大半が調査範囲外に出るため、規模は明確でないが形状は隅丸方形のようである。

東側が他の造構（住居跡の溝かは判別し難い）で切られており、柱穴・炉跡も検出されない。床面はしまりなく、やや傾斜をもつ。



第33図 15号住居跡



第34図 15号住居跡出土遺物

表16 15号住居跡出土遺物（第34図）観察表

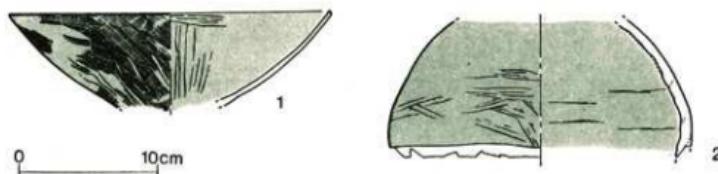
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付甕	底径 10.2	脚部のみ残存 外一斜削毛→擦部横ナデ 全体にナデを施し刷毛が深されている 内一接合部～中位指ナデ 以下木口状工具によるナデ	橙色粒（土器細粒か） 白色微細粒・砂粒を含む 7.5 YR 7/6 橙色

16号住居跡（第35図、図版9）

31～32—キ～クに検出され、4.8×4.5mの隅丸方形を呈する。柱穴4、炉跡なし。

東側を4～7号炭焼窯に切られ、南東側に攪乱をうけている。

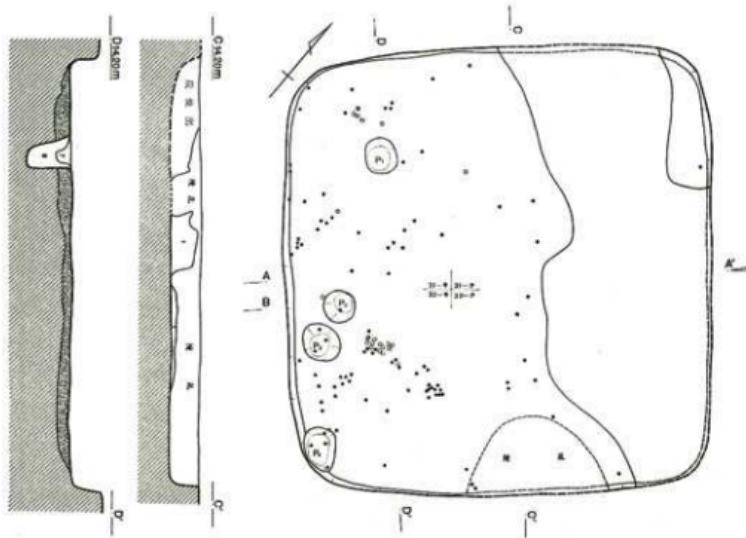
床面は非常にしまりよく、凹凸が多い。土層断面の観察で深さ15cm程の掘り方が確認された。



第35図 16号住居跡出土遺物

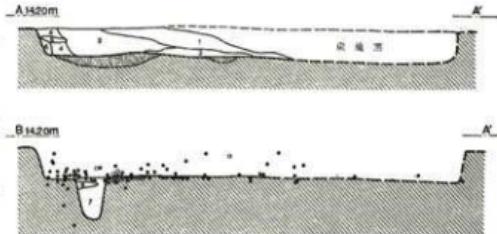
表17 16号住居跡出土遺物（第35図）観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	高壺	口径推定23.8	外面とも赤彩 口唇部木口状工具によるナデ 外一下～上の斜め刷毛→笠磨き 内一口縁部は横、以下縱にナデ→笠磨き	赤色微細粒・白色微細粒・砂粒を含む 10 R 6/8 赤橙色
2	壺	口径 22.4	外面とも赤彩 外一木口状工具によるナデ→部分的に笠磨き 内一剥落が激しく調整不明 粘土帯接合痕あり	白黄色微細粒・黒色微細粒・砂粒を含む 10 R 6/8 赤橙色



- 1 茶褐色土 ローム粒を多く含む
しまりよし
 - 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
 - 3 黒褐色土 径 1 cm 程の炭化物・ロームブロックを含む
粘性あり
 - 4 暗褐色土 ローム粒を少量含む
 - 5 黄褐色土 ロームブロック
 - 6 黄褐色土 ロームブロック
 - 7 暗褐色土 炭化物・ローム粒を含む
 - 8 淡褐色土 ロームを多く含む
- (概) 暗褐色土 ソフトロームがブロック状に混入 ローム粒を多量に含む

0 2m



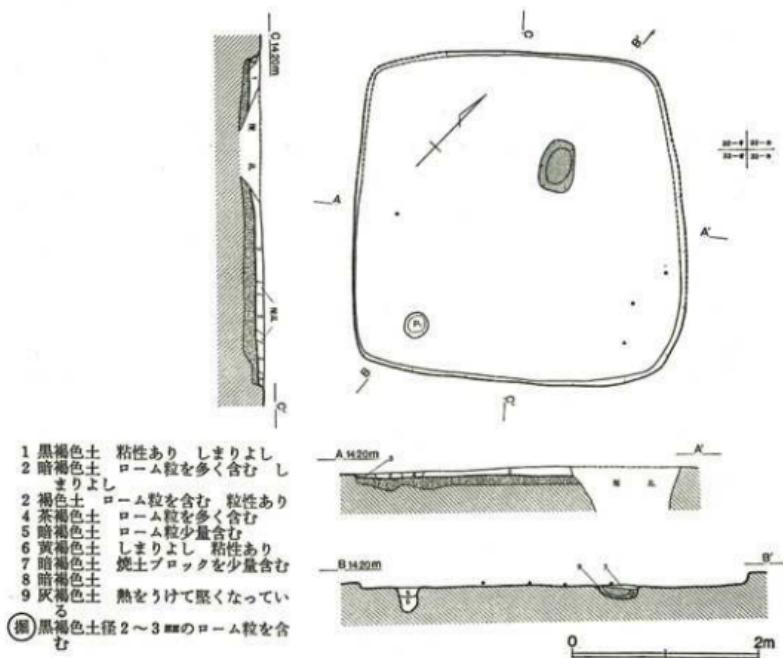
第36図 16号住居跡

17号住居跡（第37図、図版9）

32~33-オに検出され、3.5×3.5mの少しうがんだ隅丸方形を呈する。柱穴1、炉跡1（地床炉）。

床面はしまりなく、ほぼ平坦である。

2ヶ所に大きな擾乱をうけ、出土遺物も少なく、遺存状態はよくない。土層断面の観察で、深さ15cm程度の掘り方が確認された。



第37図 17号住居跡

18号住居跡 (第38図、図版10)

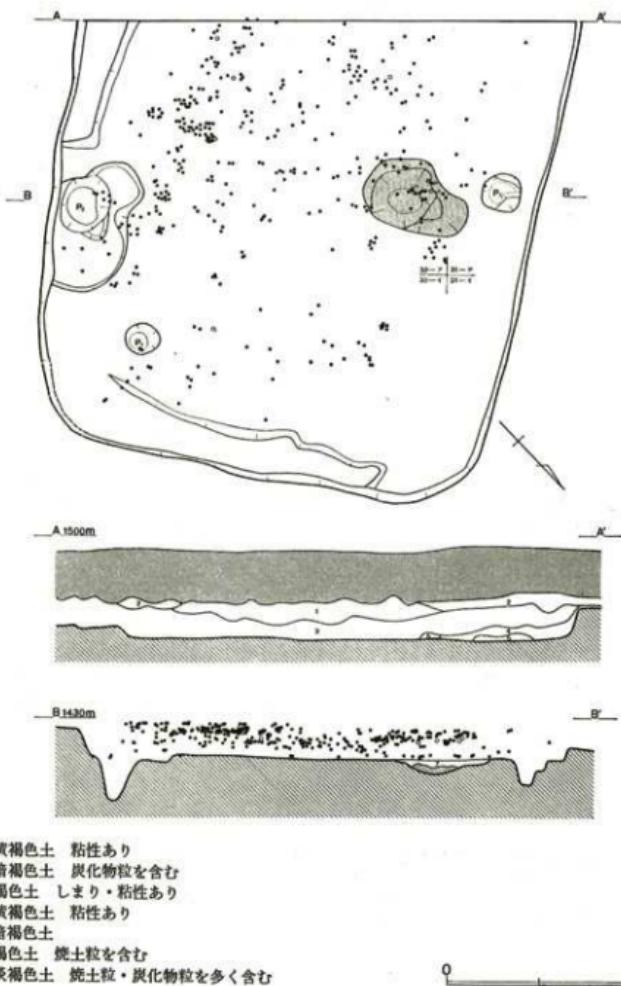
31~32—ア~イに検出され、南西側の一部が調査範囲外に出る。5.3m × 不明の隅丸方形を呈す。
柱穴3、炉跡1 (地床炉)。

北東側、南東側の壁ぎわの一部に、高さ10cm、幅50cm程度の「ベッド状遺構」がある。

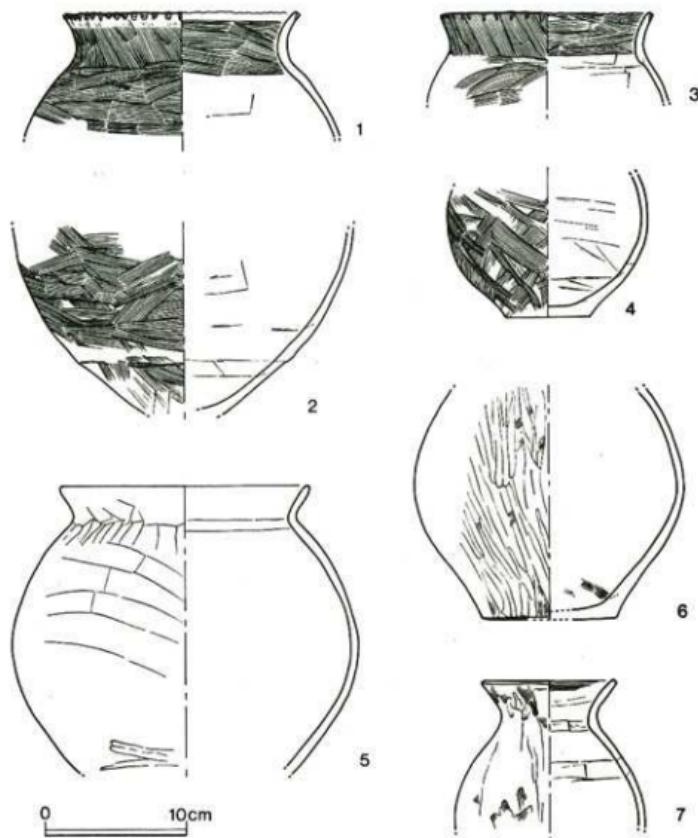
床面はしまりよく、ほぼ平坦である。

表18 18号住居跡出土遺物 (第39・40図) 銀察表

番号	器種	大きさ (cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付甕	口径推定17.0	口部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一口縁部 斜め刷毛→横ナデ 内一横刷毛→横ナデ 以下木口 状工具によるナデ	淡褐色土 (土器細粒か) 多 量・不透明石粒・砂粒を含 む 10YR8/4浅黄橙色
2	台付甕		外一横刷毛→下からの斜め刷毛 下半の粘土帯接合 部分はナデと刷毛を施し、脚部方向へのナデツケ 内一木口状工具によるナデ 煤付着	白色微細粒・径2mm程の石 粒・褐色粒を含む 5YR8/4淡橙色

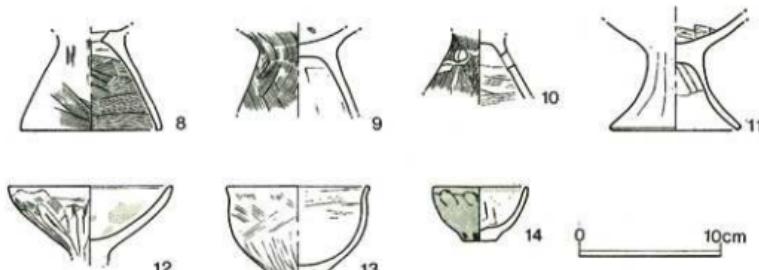


第38図 18号住居跡



第39図 18号住居跡出土遺物(1)

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
3	台付甕	口径推定15.4	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一口縁部下～上の斜め刷毛→頭部横刷毛 内一胴部木口状工具によるナデ	黒色微細粒・白色微細粒・砂粒多量・褐色粒（土器細粒か）を含む 7.5YR8/6浅黄橙色
4	壺	底径 5.1	外一斜め刷毛→一部ナデ 煤付着 内一細かい木口状工具によるナデ	褐色粒（土器細粒）多量 ・白色微細粒・不透明石粒 ・砂粒を含む 7.5YR7/3にぶい橙色



第40図 18号住居跡出土遺物(2)

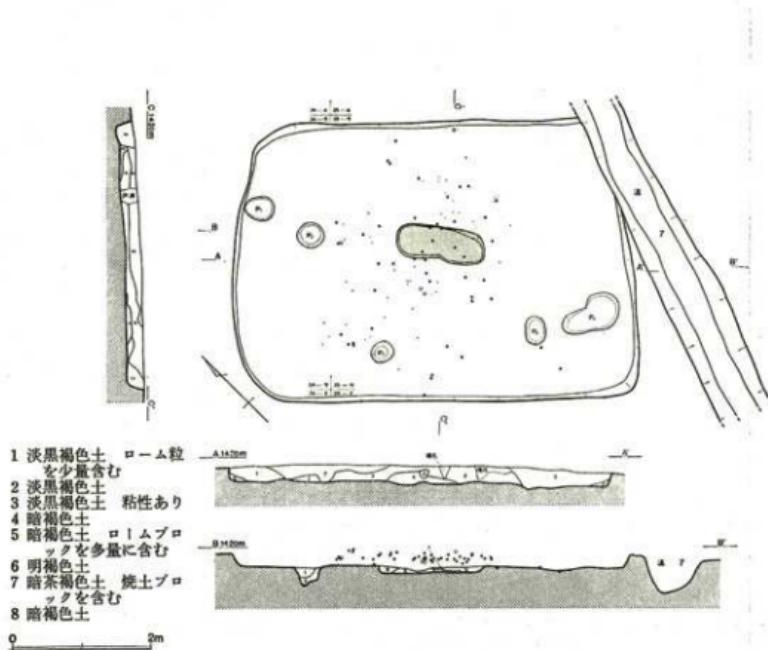
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
5	壺	口径推定18.0	内外とも縁部横ナデ 外一頸部縱方向ナデ 脊部 窓削り→板状工具によるナデ 内一頸部以下ナデ 磨耗が激しく調整不明瞭	金雲母・砂粒・不透明石粒 ・1~5mm程の石粒多量 を含む 5 YR 7/8橙色
6	壺	底径推定 9.8	外一細かい刷毛→下~上の笠磨き 内一底面周辺細かい斜め刷毛 以上は剥落激しく調 整不明瞭	白色微細粒・褐色粒(土器 細粒)多量・黑色粒・透 明石粒・砂粒を含む 7.5 YR 8/3浅黄橙色
7	壺	口径推定 9.8	口唇部ナデ→一部面取り 外一斜め刷毛→丁寧な笠 磨き 内一口縁部横刷毛→木口状工具によるナデ 頸部窓削り 以下ナデ	棕褐色粒(粘土器細粒) 黑色粒・白色粒を含む 10 YR 8/4浅黄橙色
8	台付壺	底径推定10.2	脚部のみ残存 外一窓削り→紙刷毛 据部は横・斜 め刷毛→ナデ 内一接合部ナデ 脚部を作り壺部底 面のあたる部分を指揮→壺部を密着させて底ぐ	白色微細粒・黑色微細粒・ 赤色粒・不透明石粒を含む 7.5 YR 6/3に近い褐色
9	台付壺		脚部のみ残存 外一上~下の斜め刷毛 内一壺部底 に粗底 脚接合部ナデツケ 以下窓ナデ	褐色粒(土器細粒)・白 色微細粒・砂粒を含む 5 YR 6/4に近い褐色
10	器 台		脚部のみ残存 穿孔3箇所 外一縱刷毛→穿孔→周 辺指ナデ 内一中位以下横刷毛→木口状工具による ナデ	黒色粒・白色微細粒・径1 ~2mm程の石粒を含む 10 YR 8/4浅黄橙色
11	台付壺	底径推定11.2	外一窓削り→ナデ 内一壺部底木口状工具によるナ デツケ 脚接合部~中位ナデツケ	白色微細粒・不透明石粒・ 赤色粒を含む 7.5 YR 8/3浅黄橙色

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土色調
12	高杯	口径 12.0	外一刷毛→口縁部横ナデ→箠磨き 内一口縁部横ナデ 以下ナデ 数箇所に指頭大の赤彩痕	黄褐色土粒(土器細粒か) 多量・赤色粒・白色微細粒 ・砂粒を含む 10Y R7/2に近い黄橙色
13	鉢	口径 11.4 底径 3.6 器高 6.6	外一口縁部木口状工具によるナデ 以下斜刷毛→ナデ 下半箠磨き 内一口縁部木口状工具によるナデ	赤褐色粒・白色微細粒・黑色微細粒・砂粒を含む 10Y R8/3浅黄橙色
14	鉢	口径推定 6.9 底径推定 2.4 器高 3.9	外一口縁部ナデ 脊部指頭痕 底部付近細かい刷毛 全面に赤彩 内一木口状工具によるナデ 口縁部に赤彩痕	砂粒・黑色粒・白色粒を含む 10Y R8/4浅黄橙色

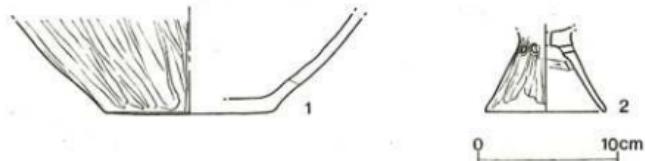
19号住居跡 (第41図、図版10)

34~35一戸に検出され、5.8×4.0mの隅丸長方形を呈する。柱穴5、炉跡1(地床炉)。

床面は硬軟の差が激しく、凹凸が多い。北東隅を7号溝に切られる。南側に接するように1号方形周溝墓がある。



第41図 19号住居跡



第42図 19号住居跡出土遺物

表19 19号住居跡出土遺物（第42図）観察表

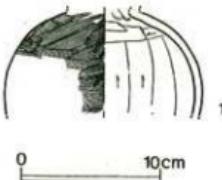
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	壺	底径推定12.4	粘土帯接合部分で割れたもの 鉢に転用したものか 外一箇削り→入念な箇磨き 内一木口状工具によるナデ	白色微細粒・褐色粒（土器細粒か）・砂粒・透明石粒を含む 7.5YR7/4に近い橙色
2	器台	底径 8.8	穿孔2個 1対で2箇所（3箇所あったと思われる） 外一箇削り→箇磨き 内一受部箇磨き 脚部中位まで箇ナデ 以下ナデ	黒色粒・砂粒・赤褐色粒・白色微細粒を含む 10YR8/3浅黄橙色

20号住居跡（第44図、図版11）

38~39~ウ~エに検出され、6.7×4.6mの隅丸長方形を呈する。柱穴4、炉跡1（地床炉）。

床面は硬軟の差が激しく、ゆるやかな凹凸がある。

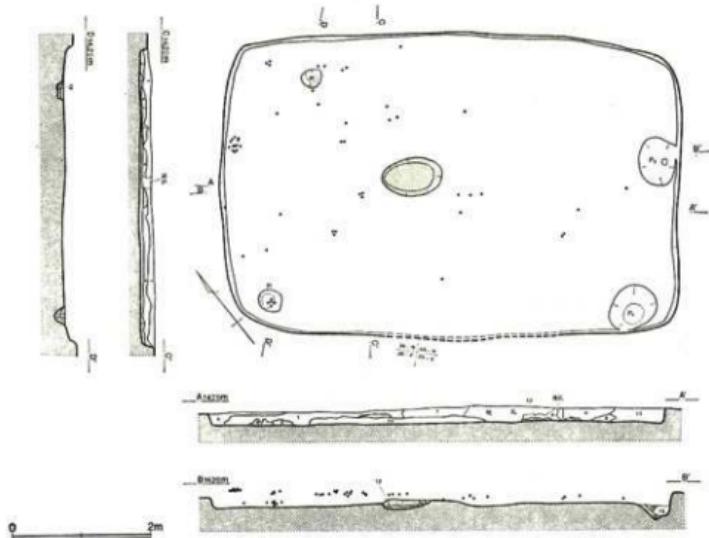
南側に接するように2号方形周溝墓がある。



第43図 20号住居跡出土遺物

表20 20号住居跡出土遺物（第43図）

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	壺	胴径 14.5	外一横・斜め刷毛→一部箇磨き 内一頸部押さえ 以下木口状工具によるナデ（縦→横）	淡橙色粒（土器細粒か）・ 黒色微細粒・白色微細粒・ 砂粒を含む 10YR8/3浅黄橙色



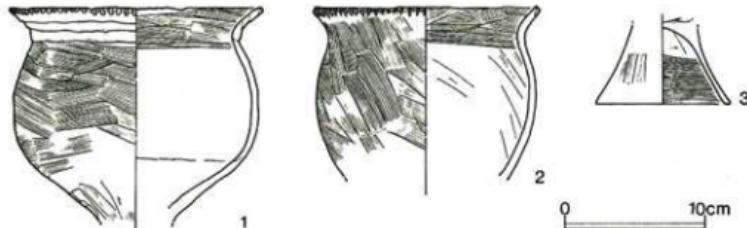
- | | | | |
|---------|------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色土 | しまりよし | 11 暗褐色土 | |
| 2 明褐色土 | | 12 明褐色土 | 焼土粒を少量含む |
| 3 男褐色土 | しまりよし | 13 明褐色土 | ローム粒・焼土粒を少量含む |
| 4 暗褐色土 | しまりよし | 14 黒褐色土 | 焼土粒を多く含む |
| 5 黄褐色土 | しまりよし | 15 暗褐色土 | ローム粒を少量含む しまりよし |
| 6 黑褐色土 | | 16 明褐色土 | ローム粒を少量化 しまりよし |
| 7 暗褐色土 | ロームブロックを含む | 17 暗褐色土 | ローム粒を少量含む |
| 8 黄褐色土 | ロームブロック | 18 褐色土 | ロームを少量含む しまりよし |
| 9 明褐色土 | ロームを含む | 19 褐色土 | ローム粒を含む 砂質 |
| 10 黄褐色土 | しまりよし | | |

第44図 20号住居跡

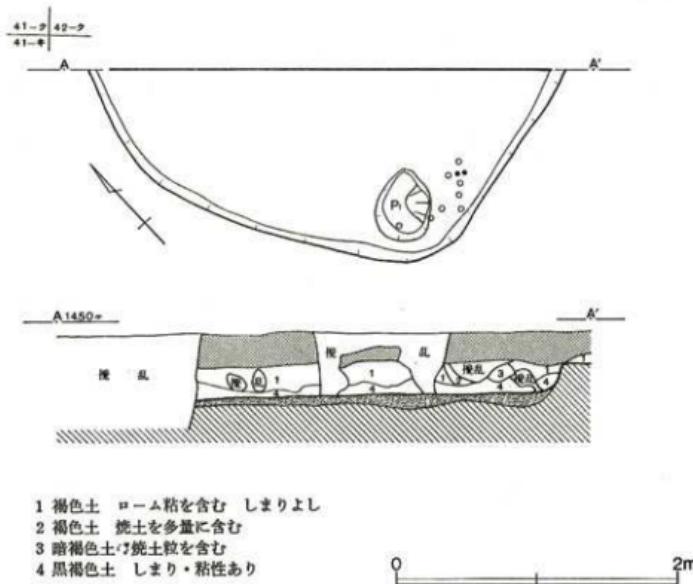
21号住居跡（第46図、図版11）

42-キに検出された。大半が調査範囲外に出るため、規模は明確でないが形状はややゆがんだ隅九方形のようである。

床面はしまりなく、ほぼ平坦である。土層断面の観察で、深さ10cm程度の掘り方が確認された。



第45図 21号住居跡出土遺物



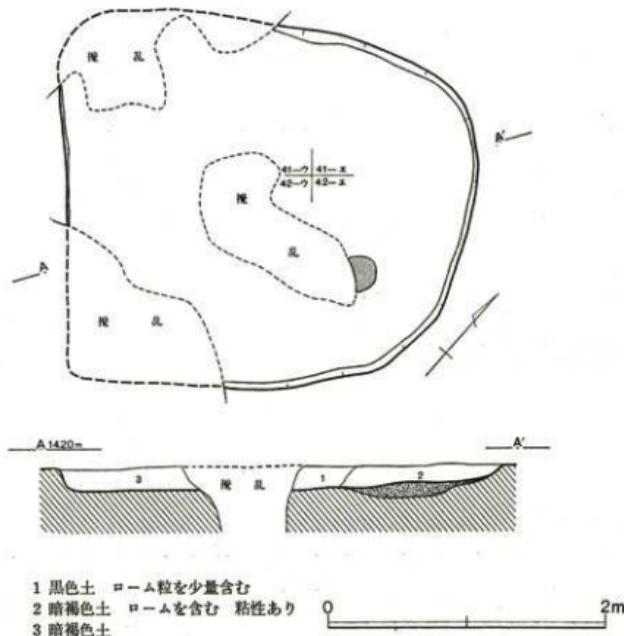
第46図 21号住居跡

表21 21号住居跡出土遺物(第45図)観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付甕	口径推定18.4	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一口縁部に3段の粘土帯痕 以下浅い刷毛 接合部近縁刷毛→箇ナデ 内一胴部丁寧なナデ 内外面摸付着	褐色粒多量・白色微細粒・砂粒・径1~2mmの石粒を含む 10YR8/3浅黄橙色
2	台付甕	口径推定16.2	口唇部のみ刻みを除き赤彩 外一斜め刷毛→口唇付近横ナデ→刷毛状工具の押圧による刻み 脚下半斜め刷毛→ナデ 内一胴部木口状工具によるナデ	褐色粒(土器細粒か)多量・白色微細粒・透明石粒・砂粒を含む 10YR8/3浅黄橙色
3	台付甕	底径 9.6	脚部のみ残存 外一箇削り→縦刷毛→ナデ 内一腰部底面ナデ 脚上半箇ナデ	砂粒多量・白色微細粒・黑色粒・乳白色石粒を含む 5YR8/4淡橙色

22号住居跡（第47図、図版12）

41～42—ウ～エに検出される $3.0 \times 2.7m$ のゆがんだ隅丸方形を呈する。柱穴なし、炉跡1（地床炉）。床面はしまりなく、凹凸が多い。土層断面の観察で、一部に深さ15cm程の掘り方が確認された。中央部と北西、南西隅に大きく擾乱をうけている。



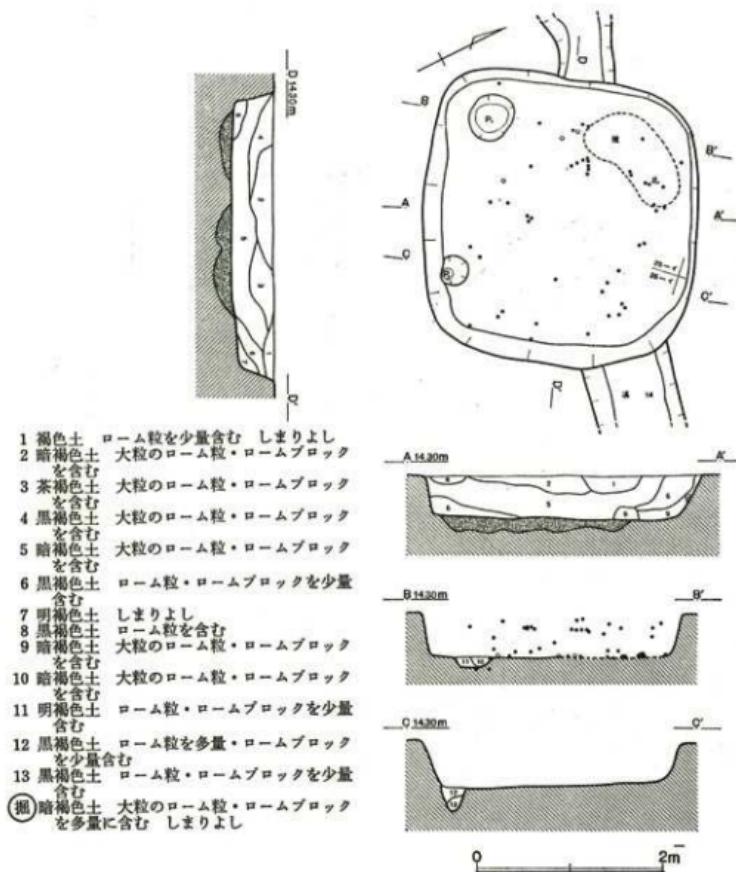
第47図 22号住居跡

23号住居跡（第48図、図版12）

25～26—イに検出され、 $3.1 \times 3.0m$ の隅丸方形を呈する。柱穴2、炉跡なし。

床面はしまりよく、北隅に擾乱をうけている。また、北西、南東の上端の一部は19号溝によって切られている。

土層断面の観察により、深さ15～20cm程の掘り方が確認された。



第48図 23号住居跡

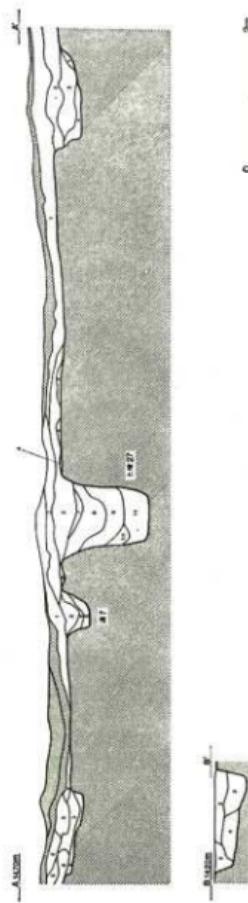
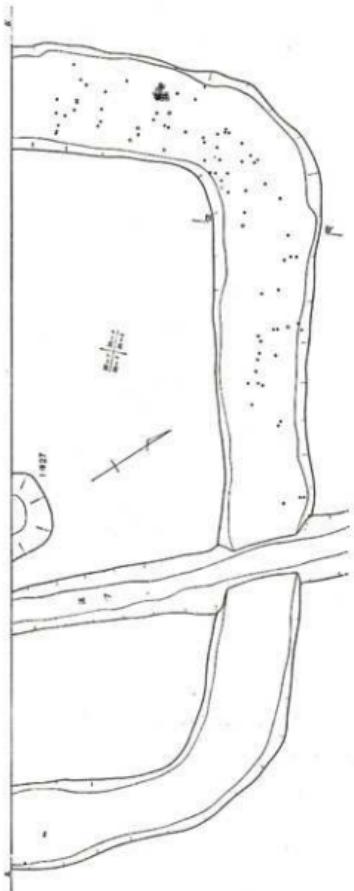
B 方形周溝墓

本遺跡からは2基検出されており、台地奥の南側に並んで相接している。いずれも半分以上が調査範囲外に出ており、主体部も検出されず、全容を知ることはできなかった。

1号方形周溝墓（第49図、図版13）

35~37-アヘイに検出され、規模は12.0m（周溝の外側立ち上がり間）である。溝は幅1.3~1.5m、深さ20~40cmで回るようである。

溝底面は軟弱で、凹凸が多い。北辺を7号溝に切られる。方台部中央に井戸状の土壙が掘り込ま

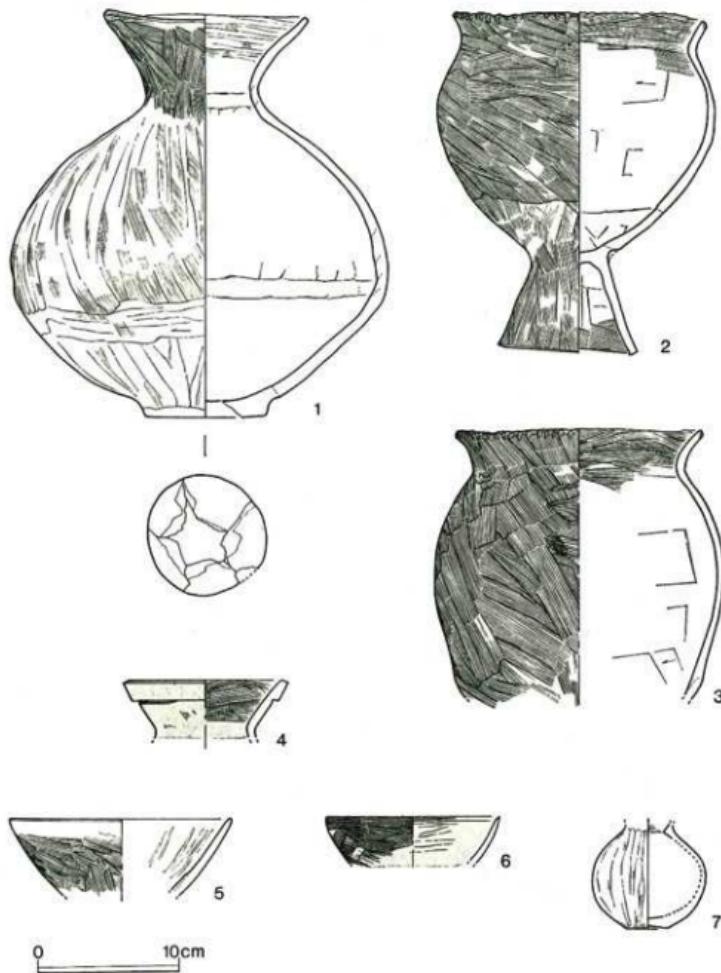


- 1 淡茶褐色土
 2 淡褐色土
 3 深褐色土
 4 黑褐色土
 5 深褐色土
 6 深褐色土
 7 茶褐色土
 8 深褐色土
 9 茶褐色土
 10 黑褐色土
 11 深褐色土
- ローム粒少量含む
 ローム粒を含む
 ロームプロック
 しまりよし

第49図 1号方形測量區

れているが、後世のものと思われる。方台部の盛土は観察できない。

出土遺物は、周溝内北隅に集中しており、底部穿孔の壺、台付甕、高坏等である。



第50図 1号方形周溝墓出土遺物

表22 1号方形周溝墓出土遺物（第50図）観察表

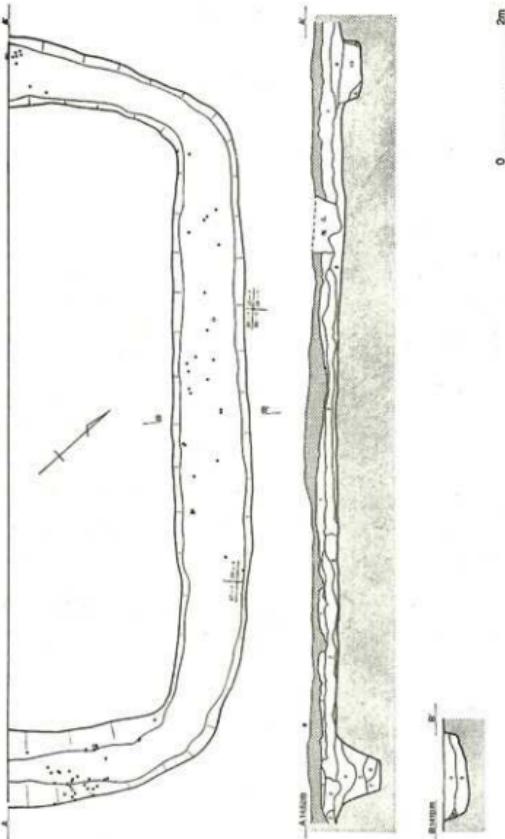
番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	壺	口径 14.9 底径 8.7 器高 29.0	外一口縁部斜め刷毛→口唇付近ナデ 脊部縦・斜め刷毛→笠磨き 最大径部分削り→横笠磨き 底部～中位に向け笠磨き 内一口縁部横刷毛→横笠磨き 脊部ナデ 粘土帯接合部指頭押圧 底部は内～外へ破碎されている ほぼ完存	淡褐色粒（土器細粒か）多量・砂粒・径1～2mmの石粒を含む 7.5Y R8/8黄橙色
2	台付甕	口径 18.4 底径 10.2 器高 24.5	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外～胴下半～脚部縦刷毛→部分的にナデ 内～脚部木口状工具によるナデ 粘土帯接合部 脚部上半木口状工具によるナデ 甕部と脚部接合部は刷毛→粘土貼付→刷毛	乳白色石粒・砂粒多量・黑色微細粒・橙色粒を含む 10Y R7/3にぶい黄褐色
3	台付甕	口径推定18.0	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外～下～上の斜め刷毛 一部煤付着 内～脚部木口状工具によるナデ	橙色粒（土器細粒か）多量・乳白色石粒・砂粒・径2mm程の石粒を含む 10Y R7/3にぶい黄橙
4	壺	口径推定12.0	内外面とも赤彩 外～刷毛→木口状工具によるナデ 内～頸部以下ナデ	径1～2mm程の石粒・砂粒を含む 10Y R8/4浅黄橙色
5	高杯	口径推定16.2	外～下～上の斜め刷毛→口縁部横刷毛 内～口縁部横ナデ 以下ナデ→部分的に笠磨き	橙色粒（土器細粒か）・砂粒・白色微細粒を含む 10Y R7/3にぶい黄橙
6	高杯	口径推定12.8	内外面とも赤彩 外～口縁部横刷毛→以下斜め刷毛 内～口唇部横刷毛 以下笠磨き	砂粒多量に含む 10Y R8/3浅黄橙色
7	小型壺	口径 8.2 底径 3.0	外～刷毛→丁寧な笠磨き 内～口縁部複雑な刷毛	淡褐色粒（土器細粒か）多量・砂粒・黑色微細粒を含む 10Y R7/2にぶい黄橙色

2号方形周溝墓（第51図、図版14）

38～40一アに検出され、規模は11.4m（周溝の外側立ち上がり間）である。溝は幅1.0m～1.2mで回り、深さは北西辺で20cm程度であるが、南に傾斜して、南東辺では60cm程になる。

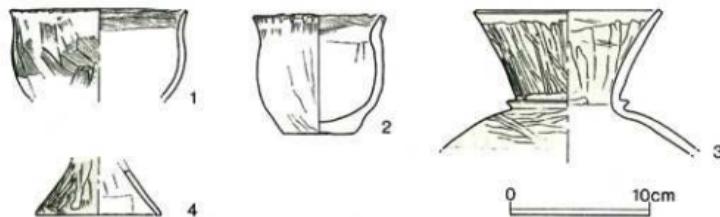
溝底面は軟弱で、凹凸が多い。方台部の盛土は観察できない。

出土遺物は、周溝内北西辺断面壁付近と南隅付近に集中しており、台付甕、鉢、赤彩を施した壺等である。



- 1 明褐色土 しまりよし
 2 前褐色土 しまりよし
 3 脳褐色土 しまりよし
 4 黑褐色土 しまりよし
 5 陰褐色土 ロームブロックを含む しまりよし
 6 黑褐色土 ロームブロックを含む しまりよし
 7 前褐色土 ロームブロックを多量に含む しまりよし
 8 明褐色土 しまりよし
 9 前褐色土 しまりよし
 10 黑褐色土 ロームブロックを含む
 11 黄褐色土 ロームを多量に含む

第51図 2号方形周溝墓



第52図 2号方形周溝墓出土遺物

表23 2号方形周溝墓出土遺物(第52図)観察表

番号	器種	大きさ(cm)	形態・手法の特徴	胎土・色調
1	台付壺	口径推定 6.5	口唇部に刷毛状工具の押圧による刻み 外一斜め・様の浅い刷毛→部分的にナデ 内一胴部木口状工具によるナデ	黒色微細粒・砂粒・白色微細粒を含む 10YR7/3に近い黄褐色
2	小型壺	口径 9.7 底径 5.1 器高 8.7	口唇部に木口状工具の押圧による深い刻み 外一口縁部浅い刷毛 以下範磨き 内一胴部ナデ	淡褐色粒(土器細粒か)多量・白色微細粒・砂粒を含む 10YR7/3に近い黄褐色
3	壺	口径推定13.8	外面と内面頸部以上赤彩 外一口縁部木口状工具によるナデ 以下斜め刷毛→入念な範磨き 突帯部ナデ 肩部範磨き 内一口縁部木口状工具によるナデ 以下雑な範磨き 肩部ナデ	白黄色粒(土器細粒か)多量・白色微細粒・砂粒を含む 10YR3/1黒褐色
4	器台	底径推定 4.6	脚部のみ残存 外面赤彩 穿孔が1箇所確認できる 外一斜め刷毛→範ナデ 内一木口状工具によるナデ	砂粒多量・赤色粒を含む 7.5YR8/6淡黄褐色

(2) 繩文時代

繩文時代の遺構としては、ファイアピット9基と、中期の土器窯1基のみである。遺物はファイアピットと同時期と思われる早期後半の土器片を中心に多数出土した。

A ファイアピット（第73図）

土層断面中のスクリーントーンは焼土塊を示す。

1号ファイアピット

28一に検出され、 $0.95 \times 0.5m$ の不整橭円形を呈する。深さ約12cm。

覆土には焼土塊を含むが、底面は焼けていない。出土遺物なし。

2号ファイアピット

12一に検出され、 $0.9 \times 0.5m$ の橭円形を呈する。深さ約15cm。

覆土には焼土粒を含むが、底面は焼けていない。出土遺物なし。

3号ファイアピット

13一に検出され、 $0.75 \times 0.5m$ の不整橭円形を呈する。深さ約22cm。

覆土には炭化物粒を含むが、底面は焼けていない。出土遺物なし。

4号ファイアピット

10一に検出され、 $0.65 \times 0.4m$ の不整橭円形を呈する。深さ約20cm。

覆土上層はよく焼けた焼土塊で、下層は熱をうけて堅く変質している。底面は焼けていない。出土遺物なし。

5号ファイアピット

17一に検出され、 $0.85 \times 0.5m$ の橭円形を呈する。深さ約12cm。

覆土上層はかなりよく焼けた焼土塊で、下層は熱をうけて堅く変質している。底面は焼けていない。出土遺物なし。

6号ファイアピット

8一に検出され、 $2.4 \times 0.6m$ の不整長方形を呈する。深さ約10cm。

覆土には焼土を含むが底面は焼けていない。

本遺跡では最も大きいファイアピットである。出土遺物なし。

7号ファイアピット

11一に検出され、 $0.8 \times 0.5m$ の橭円形を呈する。深さ約20cm。

覆土にも小焼土塊を含み、底面もよく焼けている。出土遺物なし。

8号ファイアピット

9一に検出され、 $0.9 \times 0.6m$ の橭円形を呈する。深さ約15cm。

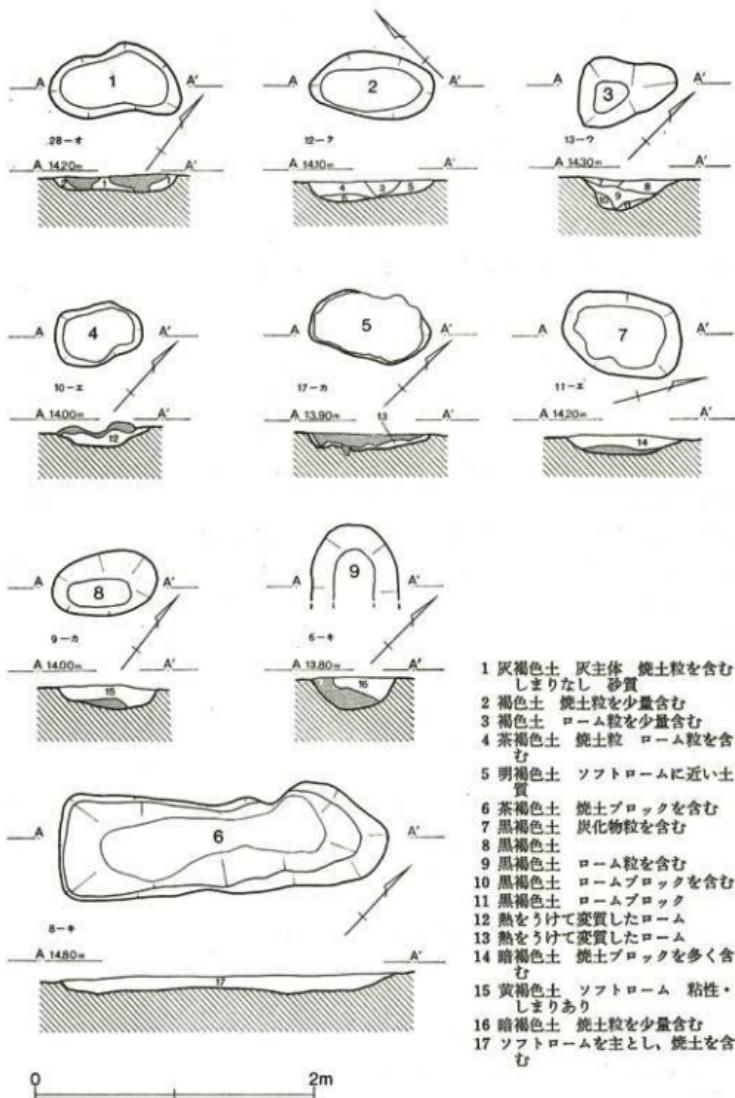
底面はよく焼けて赤化している。出土遺物なし。

9号ファイアピット

6一に検出されたが、先土器調査のため南東部は削除してしまった。

覆土に焼土粒・焼土塊を含むが底面は焼けていない。出土遺物なし。

(浜野 一重)



第53図 ファイアピット

B グリッド出土土器

本遺跡の主要遺構確認面からさらに掘り下げるに、台地先端部を主体として縄文時代早期の包含層にあたった。出土遺物は位置を記録しグリッド単位でとりあげた。

グリッド出土土器は殆どが縄文時代早期所産のもので、その大半が条痕文系土器群である。出土数は小破片までいれて 866 点であった。条痕文系土器以外の土器は、図示したものが殆どである。以下、順を追って類別に説明を加えたい。

第Ⅰ群土器（第58図1～19）

燃糸文系土器群を一括する。1はほぼ直立する口縁が外側に肥厚し、燃糸Rの側面圧痕が施される。地文は細かな縄文RLが斜位に施され、条が垂下し、施文単位が明瞭である。2は若干肥厚する口唇が外傾し、縄文RLが浅く施文される。口縁の屈曲部には指頭圧痕が残る。3は口縁が受け口状に屈曲し、口唇直下の突出部分に横走る燃糸Rを施文する。胴部は雜ではあるが、細く条間の密な燃糸Rを継位施文する。

4、5は口唇部が若干肥厚し、丸味を帯びた角頭状を呈する。4は口唇直下から無節の縄文Rを斜位施文し、5は燃糸と思われるが風化のため原体は不明である。

6は口縁部が若干括れて外傾し、やや条聞の広い燃糸Rが施文される。括れ部には撫でが施され胴部にも継の撫でが施されて部分的に燃糸文を磨消している。

7～19は胴部破片である。7は縄文RLが施文され、8～16は細く密な燃糸Rが施文される。8、10、11、15、16は3と同一個体になる可能性が高い。17は器面が荒れているため不明瞭であるが、無節Rか燃りの弱い燃糸しが施文される。18は6と同一個体である。19は燃糸R施文後、器面が撫でられている。

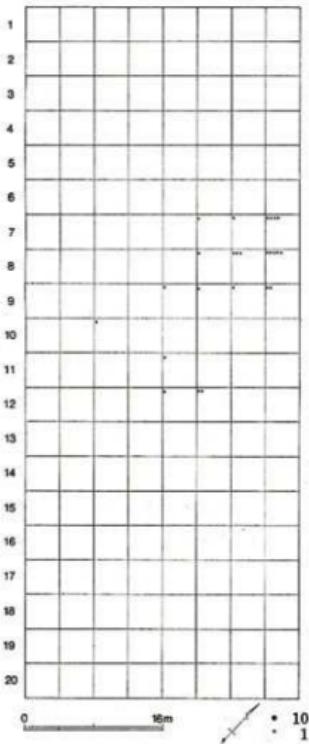
1～3は口唇上の施文ではなく、口唇直下からの密接施文であり、J型、Y型の差はあるが口縁部に燃糸側面圧痕、指頭圧痕、撫で等のアクセントを付加することで共通する。いずれも口唇上に施文がないことから燃糸文系土器群第二様式には比定されない。しかし、1の口唇部に縄文の施文される土器は第二様式に存在する。また、5は受け口状の口縁部を口唇部に想定すると、口唇部外端に横走る燃糸文が施文されることになり、第二様式の所謂井草二式の範囲で捉えられる。口唇部が肥厚すること、口縁部と胴部を何等かの形で区画することに第二様式からの強い系統性が窺えられ、1～3は第二様式から第三様式、つまり、井草Ⅱ式から夏島式への過渡的な様相を示すものとして捉えられるであろう。4、5は口唇部の形状等から夏島式に比定でき、6は燃糸の施文手法撫で手法等から稻荷台に比定される。

第Ⅱ群土器（第59図1～40）

押型文系土器群を一括する。山形押型文のみ出土しており、口縁部付近では横位、胴部で継位に施文される。いずれも暗赤褐色を呈し、胎土に細粒を多く含み、白色不透明粒子、雲母片岩粒子が含まれる。押型文系土器特有の胎土、色調を呈している。

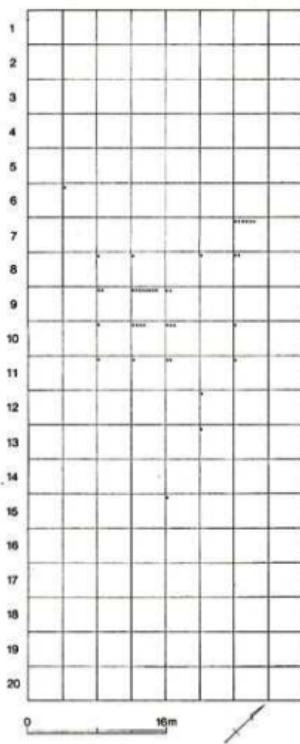
1～4は口縁部破片である。1、2は同一個体で、口縁の表裏面に一段横位の山形文が施文され、角頭状を呈する口唇上にも施文される。口縁部は大きく外反する。3、4は角頭状を呈する口縁部が直立気味に立ち上り、表面のみ山形文が施文される。

アイウエオカキク



第54図 撻糸文系土器分布図

アイウエオカキク



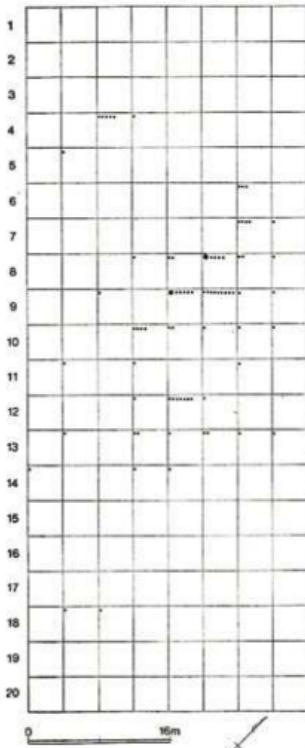
第55図 押型文系土器分布図

5～40は胴部破片であり、施文具、施文手法の相違により何個体分かが存在する。5～7は横位施文されるもので、5、7は口縁部付近、6は胴部破片である。

8～12は山が緩く浅い山形文が、やや間隔を開けて縦位に施文される。13～18は山のくっきりとした細目の山形文が、縦位に密接施文される。19～28は太目の山形文が縦位に密接施文されるもので、同一個体と思われる。色調は他のものと比較して、若干明るくなる。29～40も密接施文で、35、36、38の様に、施文が重なるものも存在する。

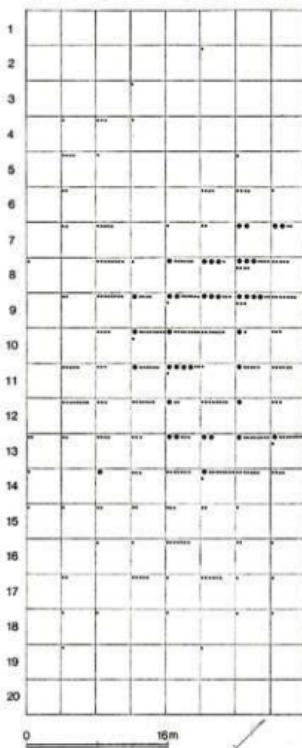
本遺跡出土の押型文土器は、口縁部で横位に胴部で縦位に直交施文するものと、間隔を若干開けて施文するものと、胴部に横位施文するものとの三タイプが存在する。間隔を開けて施文するタイプは樋沢タイプと類似するが、全体的に密接施文傾向が強く、顔付き等も類似することから、むしろ細久保タイプの一括資料として捉えられよう。大宮台地特有の在り方であり、どの段階に伴うも

アイウエオカキタ



第56図 沈線文系土器分布図

アイウエオカキタ



第57図 条痕文系土器分布図

のかは不明瞭である。

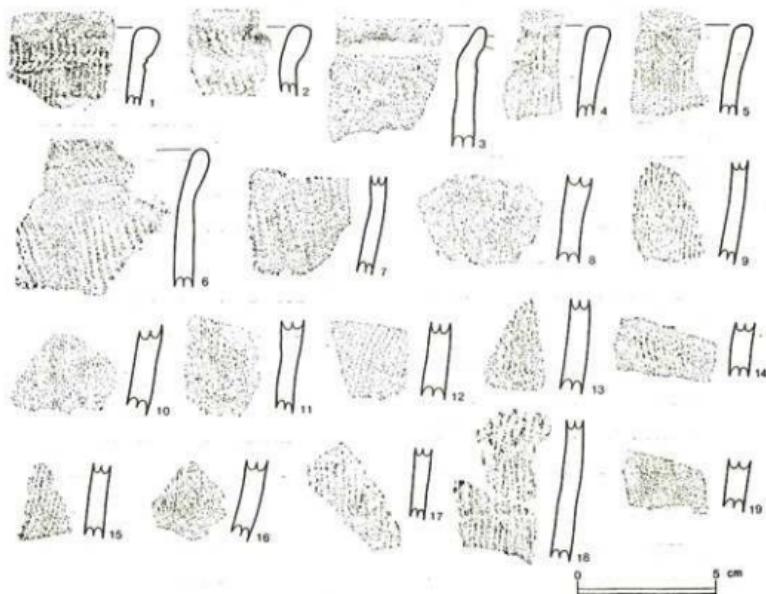
第Ⅲ群土器（第60図1～37、第61図1～23）

貝殻沈線文系土器群を一括する。量的には貝殻条痕文系土器群の次に出土量が多い。

第1類（第60図1～24）

田戸下層式土器のうち、沈線文描出のものを一括する。1、2は同一個体であり、半截竹管外側による凹線状沈線が横位にのみ施文される。器表面は砂粒が浮き出ていて、ザラついている。沈線の施文により、砂粒の移動が目立ち、この型式特有の顔付きである。裏面は丁寧に研磨される。所謂伏見式とされる土器である。

3～6は口縁部一本沈線抽出による、細く浅い平行沈線が施されるものである。それぞれは別個体であるが、いずれの口唇部にも刻み目は認められない。



第58図 グリッド出土縄文土器拓影図(1)

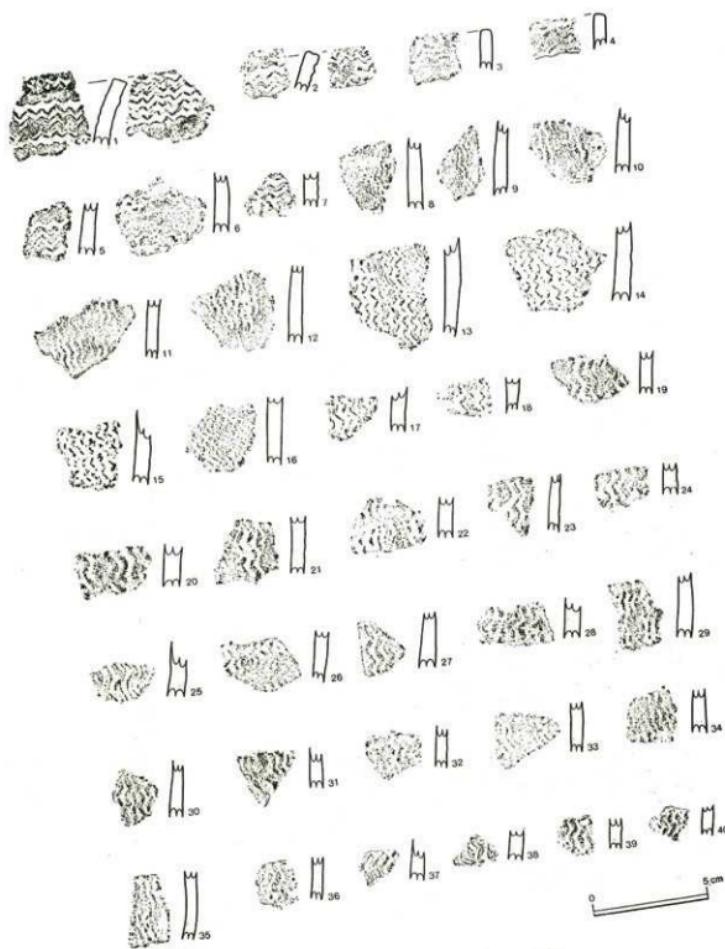
8~11は同一個体であり、細く浅い水平の平行沈線で文様帯を重層的に分割し、太目の集合沈線で鋸歯状文が抽出される。12は水平平行沈線で多段に分割された内部に、矢羽根状の沈線が充填される。

12~18は、水平、垂直、斜位の沈線を組み合わせて、三角形区画、斜格子目文等を描出するものであり、細沈線が多用される。

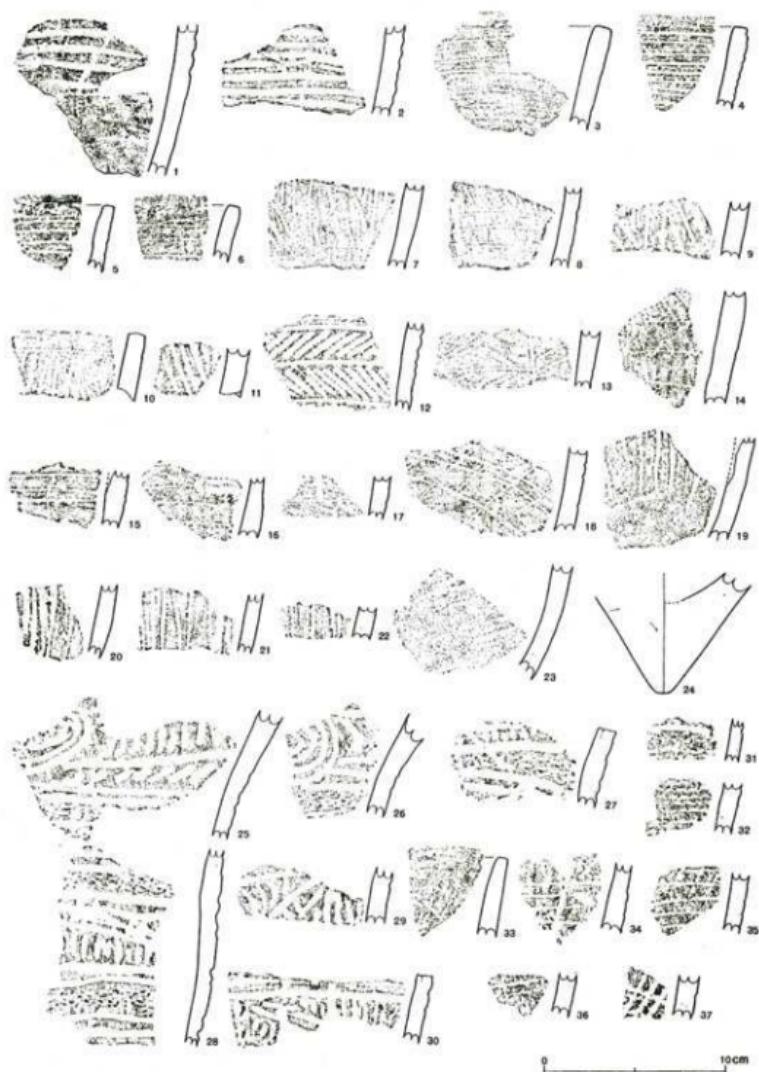
19~22は胴下半部の破片であり、集合沈線が垂下する。28は無文土器で、胎土や器面調整が1、2と類似し、同一個体になろう。24の底部も同様である。

第2類（第60図25~37、第61図1）

田戸下層式土器のうち、沈線と貝殻腹縁文とが併用されるものを一括する。25~32は同一個体である。器形は口縁部が開き、胴上半部で括れ、下半部で若干膨らみ、尖底へ移行するものと思われる。文様は太沈線のみ使用され、水平方向を基本に大きな三角形区画等が描かれ、太単沈線が充填される。また、部分的に貝殻腹縁文が水平に充填されている。胴上半部では、25、26の様に円形モチーフが見られ、田戸下層式の中でも異質である。器面調整、胎土、沈線の施文手法等、田戸下層式の特徴から逸脱するものではないが、器形やモチーフ構成に田戸上層式への移行的要素が窺える



第59図 グリッド出土攢文土器拓影図



第60図 グリッド出土縄文土器(3)

33～35は同一個体であり、水平に配される平行沈線で分割され、口縁部には貝殻腹縁による斜格子目文が描かれる。口唇部はやや先細りの角頭状を呈し、刻み目は施されない。36、37は33と別個体であるが、深い貝殻腹縁による斜格子目文が描かれる。

第61図1は角頭状を呈する口唇直下から隆起線が垂下し、水平に配される沈線で口縁部が区画される。区画内は平行線で横長の三角形区画が施され、貝殻腹縁文は斜位に充填される。胎土、口唇部形態、器面調整等は田戸下層式と若干異なり、田戸上層式に近い。

第3類（第61図2～23）

田戸上層式土器を一括する。6個体分の破片が検出された。2～8は同一個体であり、波状縁を呈し、口縁部が内彎気味に開き、胴部で括れる器形を呈する。口唇部は丸味を帯びた角頭状を呈し、口唇内端に細かな刻みが施される。口縁部は波状に合わせて平行沈線が2条巡る。胴部は括れ部の2条の沈線で文様帶が分離され、上半部に鋸歯状文、下半部に渦巻文が描かれる。文様は基本的に2本の平行沈線で描出され、平行沈線間に貝殻腹縁文が斜位、またはモチーフに沿って充填される。胎土は砂粒、小礫を多目に含み、器面調整は軟質なもので撫でた様な状態を呈する。

9は内彎する口縁部に平行沈線が施され、貝殻腹縁文が斜位に充填される。角頭状を呈する口唇部内端に、切り込む様な刻みが施される。10、11は9と同一個体である。

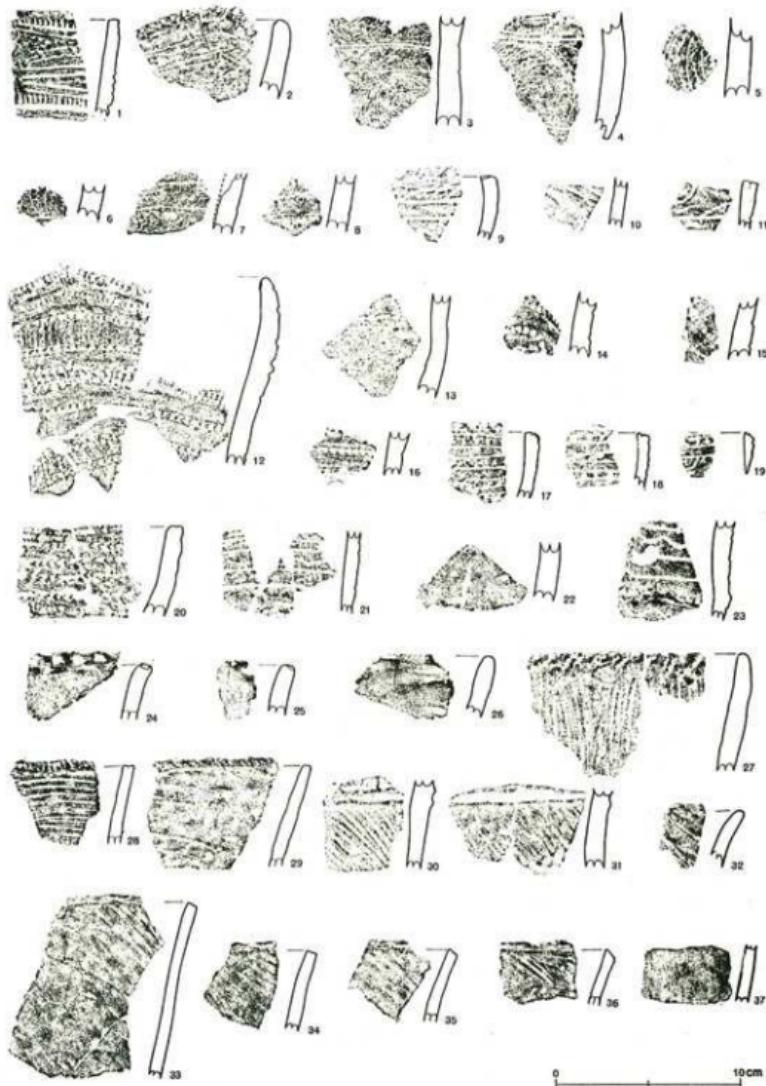
12は波状口縁土器で、胴部で括れる器形を呈する。口唇部は丸味を帯びた外削状を呈し、口唇内端に細かな刻みが施される。文様は全てベン先状施文具による連続三角押文によって描かれる。口縁部は刻みの施される低縁帶で区画され、口唇外端と、それ以下に2条の連続三角押文が巡り、貝殻腹縁文が縦位に充填される。縁帶の側縁は連続三角押文で撫で付けられる。胴部は水平の斜位の連続三角文が組み合わさせて、三角形区画を作り、連続三角押文が充填される。胎土は緻密であり、白色不透明粒子が目立つ。13～16は12と同一個体である。

17～19は若干内彎する口縁部に、間隔の狭い平行線が施され、口縁部及び平行線間に貝殻腹縁文が斜位に充填される。21は胴部破片であり、部分的に沈線による鋸歯状文が、平行沈線間に描かれる。胎土に雲母片岩を多く含む。

20は口縁部に太連続三角押文が4条巡り、その下部に細かな連続三角押文が配される。角頭状を呈する口唇部上端にも、連続三角押文が1条巡る。裏面は擦痕状の調整が認められる。

23は胴部に段を持ち、段の上下に角頭状の施文具による平行沈線、鋸歯状沈線が水平に配される。器面に擦痕状の調整痕が認められる。胎土は緻密であるが、白色不透明粒子が目立つ。23は底部付近の破片であり、無文である。

いずれも、暗赤褐色を呈し、器面調整は田戸下層式土器よりも弱い。胎土は緻密で、纖維を混入するものはない。12の様に口縁部の平行線間に貝殻腹縁文を縦位に充填する手法は、常世式、吹切沢式と共通する要素である。3、4の様に胴部が括れ、渦巻文や意匠文に沿って貝殻腹縁文を施文する手法は、特徴的である。本遺跡出土の田戸上層式はまとまった一括資料と捉えられ、隆起線を持つものが殆どないこと、切り込む様な沈線描出の土器がないこと等から、関東側の田戸上層式よりも、その平行関係にある東北系統の影響が強いものと思われる。また、近年千葉県で該期の良好な資料が出土しており、両者の関連を見て行かなければならないであろう。



第61図 グリッド出土繩文土器(4)

第Ⅳ群土器（第61図24～37、第62～65図）

貝殻条痕文系土器群を一括する。出土量が最も多く、中でも鶴ガ島台式が大半を占める。

第1類（第61図24～29、33～37、第62図1～15）

子母口式土器を一括する。24、25は同一個体で丸味を帯びた角頭状口唇部に、角頭状施文具による押し引き刺突列が施される。器面に擦痕が観察され、胎土に纖維を含まない。26は丸味を帯びた角頭状口唇部を呈し、刻目はない。器表裏面とも荒い削り状の擦痕が見られる。

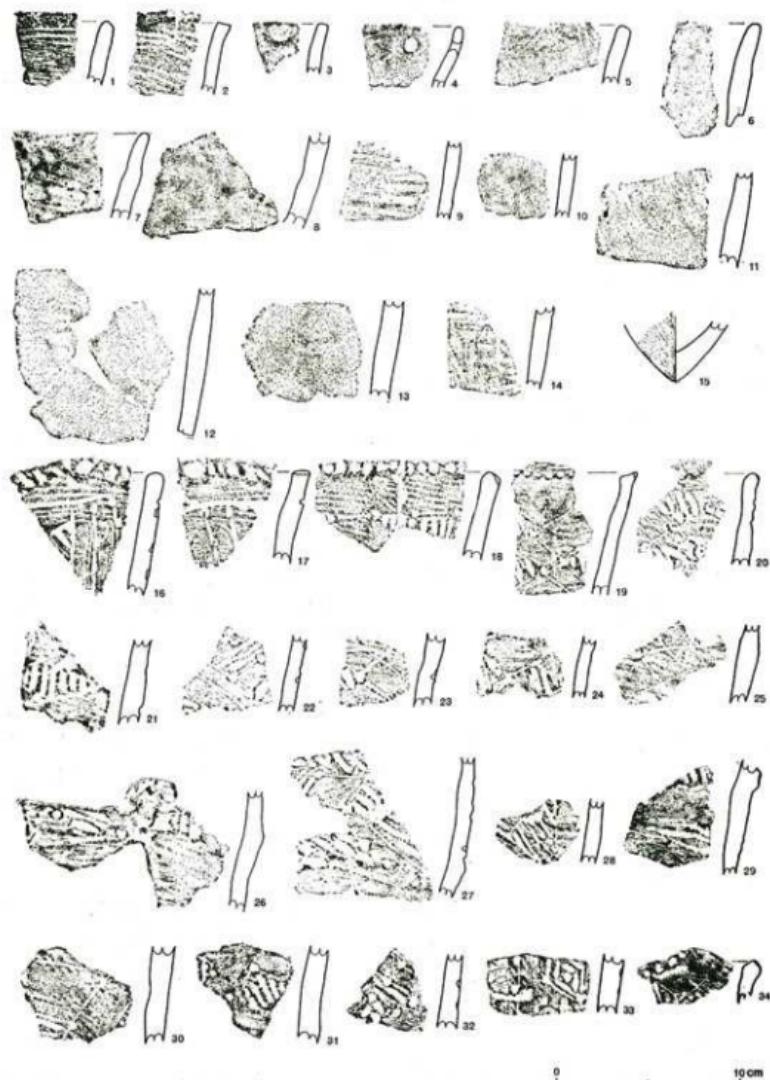
27は口唇部に指頭による成形が見られ、口唇部外端に貝殻腹縁文が刻み状に施される。表裏面は条痕が顕著に施文される。胎土は纖維を多目に含む。この土器が子母口式にノーマルに比定できないのは言うまでもない。纖維含有量の多さ、器面調整の荒さから言えば、むしろ、条痕文系土器群後半の特徴と類似する。茅山上層式以降の上ノ山式段階では、口縁部に貝殻腹縁文の付く土器が存在する。しかし、本遺跡ではその時期の土器は1点もない。茅山上層式以降の条痕文系土器と27を比較した場合、27は条痕文系土器群前半のものに近い。子母口式の新しい段階では纖維を含み、条痕文が施される土器も存在する。ここでは一応子母口式の範囲で捉えておくが、茅山上層式以降に位置付けられる可能性があることも記して置く。

28、29は角頭状を呈する口唇部に、貝殻腹縁文が刻み状に施される。28は表面に条痕、裏面に擦痕が見られ、29は表裏面ともへラ状工具による擦痕が施される。两者とも纖維を微量に含む。33～37は同一個体であり、角張った外削状口唇部が緩く外反する。纖維を少量含むが、胎土は緻密であり、全体的に堅緻な土器である。表面に条痕が微かに残るが、裏面は丁寧に撫でられている。第5図1は角頭状で若干外削状を呈する口唇部に、貝殻腹縁による刻みが施される。器面調整は表面が条痕、裏面が擦痕である。胎土に若干の纖維を含む。2も角頭状の口唇部を呈するが、刻みは認められない。器面調整は1と同様である。3、4は表裏面とも擦痕が施されるもので、口唇部は丸味を帯びる。3は口縁付近に指頭成形痕が残る。纖維を微量に含む。5、11～13は同一個体であり、口唇部は丸味を帯びた角頭状を呈し、刻みはない。胎土は砂粒を多く含み、纖維が少量含まれる。表裏面とも擦痕が施される。器面がかなり乾燥した段階で施されたものである。6は若干先細りする口縁が緩く外反し、表裏面とも荒い擦痕が施される。胎土は微量の纖維を含み、長石類の小礫を多く含む。7、8は同一個体で、胎土があまり乾燥しない段階で擦痕が施される。小礫を多く含み、若干の纖維を含む。9、14は表面に条痕、裏面に擦痕が施されるもので、両者とも器面がかなり乾いた段階で器面調整が行われている。15は尖底部であり、器面に擦痕が認められる。胎土は緻密で若干の纖維を含む。

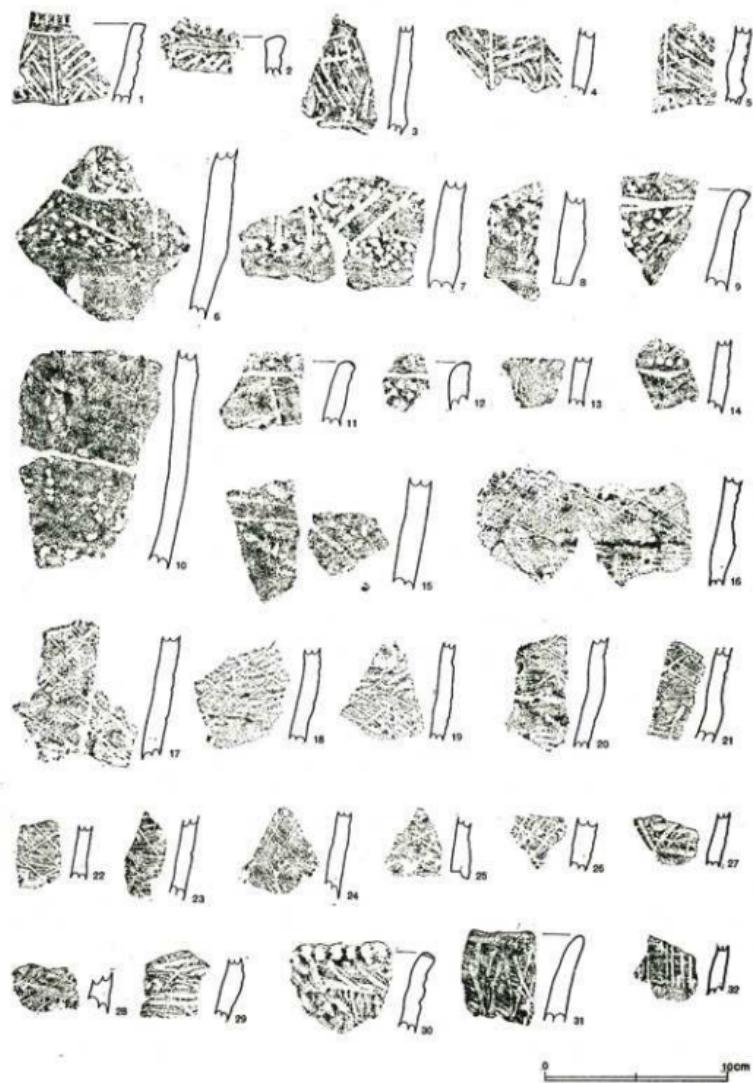
本遺跡出土の子母口式土器は、文様要素に刺突文と貝殻腹縁文が使用され、非常に無文化傾向の強い土器群である。第4図27は別として、纖維含有量は少なく、裏面に条痕の施される例は殆どない。口唇部を角頭状に成形し、貝殻腹縁や、絡条件底痕の押捺、刺突列を施す手法はこの段階での特徴的な手法であり、木の根A式段階より以前に位置付けられよう。

第2類（第61図30～32）

野島式土器を一括する。有文土器が3点検出された。30、31は同一個体であり、間隔の狭い2条の細隆起線で文様帶下端が区画される。この区画線に向けて、文様帶を分割する細隆起線が垂下し



第62図 グリッド出土網文土器(5)



第63図 グリッド出土幾文土器(6)

30の一部には区画内充填の浅く細い沈線が見られる。32は先細りで外反する口縁部に、細い斜沈線が施文されるもので、表面に擦痕、裏面に細かな条痕が施されている。口唇部に刻みはない。繊維を若干含む。

第3類（第62図16～34、第63図）

鶴ガ島台式土器の有文土器を一括する。

A種（第62図16～34）…細沈線で区画し、太短沈線を充填するものである。16～18は口縁部に無文帶を区画するもので、19、20、34は無文帶が区画されないものである。波状縁と平縁が存在し、16、17の様に2～3本の沈線が垂下して、文様帶が分割される。区画はかなり雑然としており、21、22、26～28の様に、桿状区画の変化したものと、19、20、23～25の様に斜格子目状の区画のものが存在する。区画内は太短沈線が充填されるが、31～33の様に押し引いて結節状に施文されるものもある。いずれも施文法は雜であり、円形竹管文も不規則に施文されている。繊維は少量含まる。

B種（第63図1～5）…同種の沈線で文様が描出されるものである。1～5は同一個体である。波状縁を呈し、口縁部無文帶が区画される。口唇は角頭状を呈し、刻みが施される。文様帶は3、5で見られる様に段部を境に二段構成をとる。使用される沈線はやや太目で、押し引き状に施され最後の部分で刺突状に突き刺される。また、部分的に刺突が施される。文様構成は縦に垂下する沈線で分割、区画が行われ、集合沈線が異方向に組み合わされて充填される。胎土に繊維を少量含み裏面に条痕が顕著に認められる。

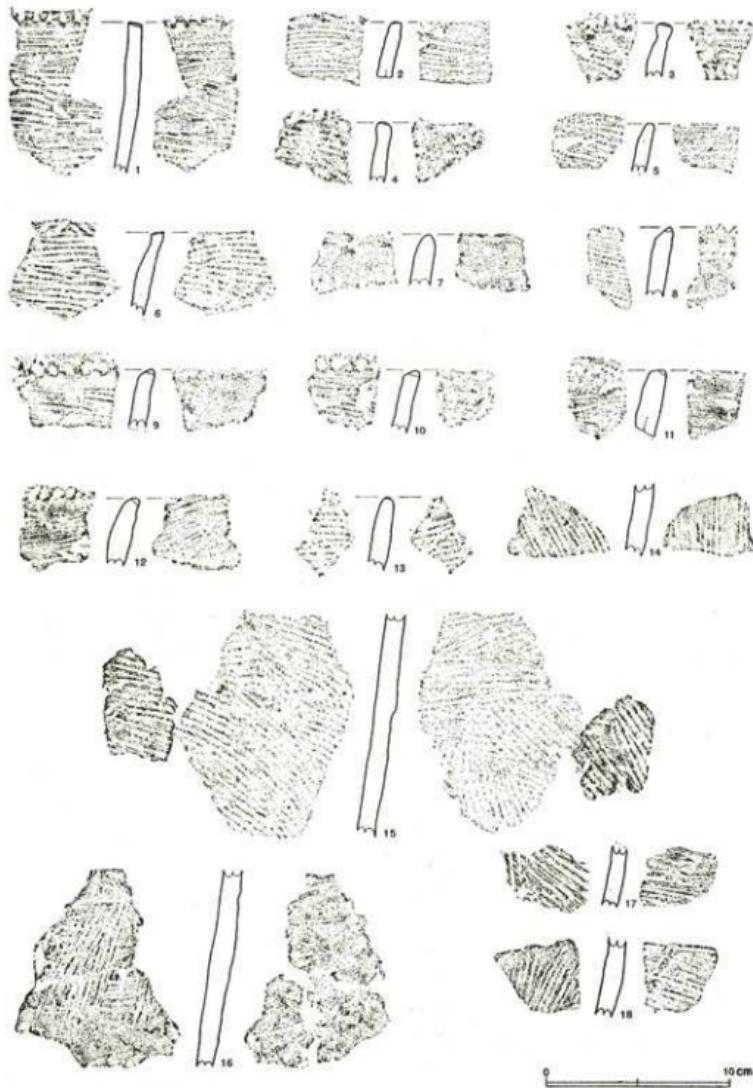
C種（第62図6～15）…太沈線で分割、区画し、刺突文を充填するものである。6～15は同一個体であり、小波状縁を呈し、文様帶が1段のものと思われる。口縁部無文帶が区画され、2本平行の太沈線で文様帶が桿状に区画される。区画内は沈線と同一施文具による押し引き刺突文が充填される。風化が著しく、器面調整は不明である。胎土は緻密であり、繊維を少量含む。

D種（第63図16～29）…同一施文具で斜格子目文を描出するものである。格子目文は16～22の様にやや粗いものと、23～26の様に細いもののが存在する。また、27、28の様に植物の茎状のものによる太目の沈線で描出されるものもある。16、17、20、24の様に器表面の条痕が磨消されるものと、条痕が残されるものがある。いずれも裏面には荒い条痕が認められ、胎土に繊維を含む。

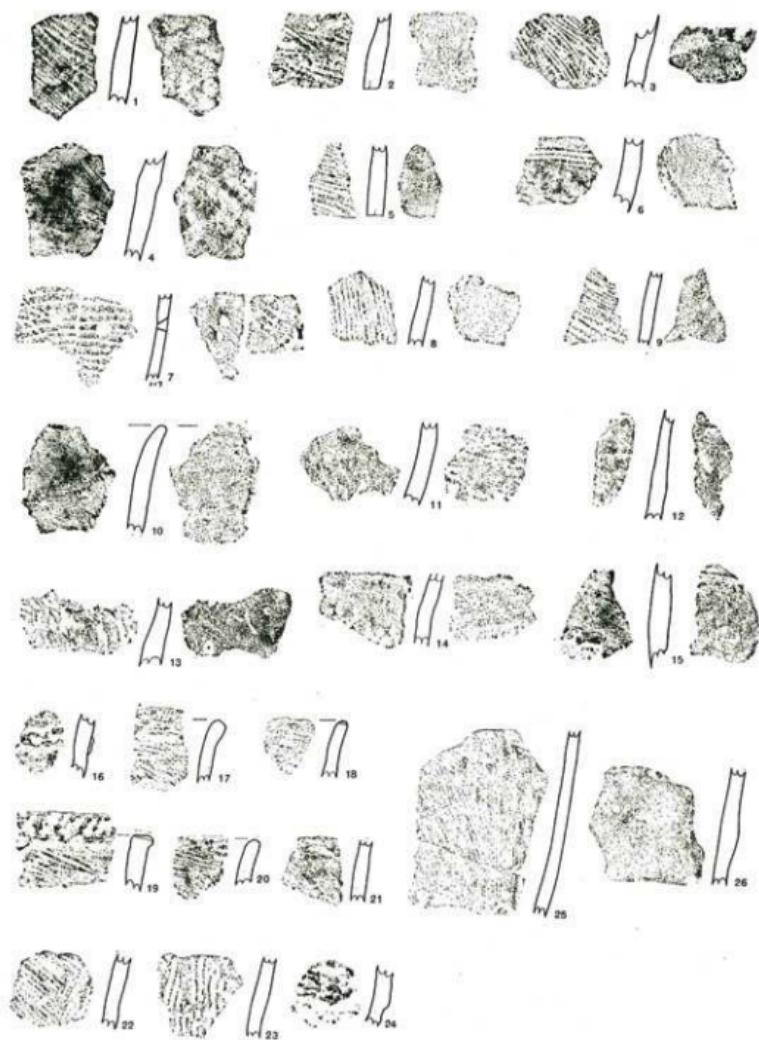
E種（第63図30～32）…その他のものをまとめる。30は口縁部に文様帶が区画され、植物の茎状の施文具による太沈線が斜位に施文される。また、その下には同一施文具による斜位の太短沈線が施文される。口唇は、丸状施文具の押捺による小波状を呈する。繊維を多目に含み、裏面に条痕は見られない。31は沈線による雜な文様が描かれるもので、部分的に格子目状になる。表裏面とも条痕が施され、繊維を少量含む。若干先細りする口唇部には、刻みは施されない。32は半截竹管状施文具による平行沈線が垂下する。文様帶を分割するために垂下する沈線と思われる。表裏面に条痕が認められる。

B種は文様構成が野島式に類似するが、文様帶が二段になることや、沈線の施文方法から、鶴ガ島台式である。また、E種は帰属が不明であり、一応この類に含めたが、野島式になる可能性もある。

第4類（第64図、第65図1～15）



第64図 グリッド出土織文土器(?)



0 10 cm

第65図 グリッド出土縄文土器(8)

条痕文系土器群前半期の、文様を持たない無文土器を一括する。

A種（第64図1～18）…表面に条痕が施文されるものである。条痕は口縁部付近で表裏とも横位に施文され、以下次第に斜位から縦位に施文される。7は表面が縦位で、裏面が横位である。1～6は口唇上に刻みが施されるものである。8～13は若干内削状を呈する口唇部の外端に刻みが施される。この手法は、鶴ガ島台式の特徴的な手法である。いずれも、纖維が少量含まれる。

B種（第65図1～9）…表面に条痕が施され、裏面に擦痕が認められるものである。口縁部破片はない。条痕が顕著なものは1、3、5、7、8であり、6は部分的に条痕が見られる。裏面は無文ではなく、擦痕が観察される。纖維は少量含まれるが、9は殆ど含まない。

C種（第65図10～15）表裏面とも条痕の施されないものである。11、12は器面がある程度乾いた段階で、器面調整されたものであり、他は荒い削り状の調整が見られる。纖維は若干含まれる。

A種は他に多量に出土しており、口縁部を中心にして図示した。一部を除いて、おおよそ鶴ガ島台式の粗製土器と思われる。B種はその一部が第1類の特徴を類似し、C種も第1類が多く含まれるであろう。

第5類（第65図16～26）

条痕文系土器群後半期の土器群を一括する。16は低隆帯が貼付され、押捺が加えられる。纖維を多量に含み、裏面に条痕文が認められる。17、18は口唇部に貝殻背压痕が押捺され、表面に条痕が施文される。胎土に多量の纖維を含む。19は口唇部上端に貝殻腹縁による刻みが施される。貝殻腹縁文が口唇部を押し潰す様に施文され、口唇部は肥厚する。表面に条痕が施され、纖維を多量に含む。

20～26は粗製土器であるが、22、23は条痕が顕著である。25は条痕が磨消されており、26は擦痕状を呈する。いずれも胎土に纖維を多量に含み、混入物が少ないため、第4類との識別は容易である。

第5類は16の様に潰しの施される隆帯や、19の様に貝殻腹縁文による刻みで口縁を潰す手法、貝殻条痕の磨消手法、純粹に近い胎土であること、また、胎土に纖維を多量に含むことから、条痕文系土器群の中でも、最終末に近い様相を示している。16は下吉井式の新しい段階に比定され、19の手法も、花積式段階に見られるものと類似する。

（金子 直行）

C グリッド出土石器（第66・67図）

石錐（1～3） 3点とも欠損しており全体の形状は不明である。1・3は基部の抉部が残存している事から、凹基無茎である。

石核（4） 石質は良質のチャートである。形状は上面から見ると整った二等辺三角形を呈し、断面は上面を底辺とした三角形になる。剥離はほとんど上面の自然面を打面とし下面に向かって行なわれている。

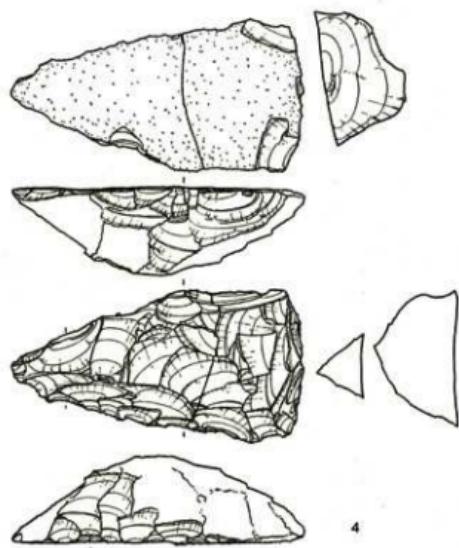
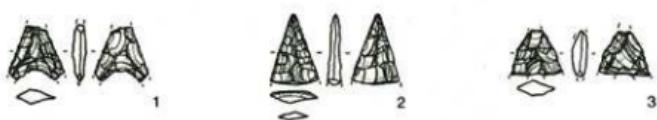
打製石斧（5・6） 5は表裏両面に大きく自然面を残しており、加工は裏面の周縁及び刃部に施されている。6は正面は原礫面をそのまま残している。裏面は打削面を中心部に残し周縁調整を施している。

磨製石斧（7・8） 7は裏面に研磨以前の剥離面が部分的に見られる。刃部は正面は研磨が施されているが、裏面は剥離面がそのままになっている。8は刃部を大きく欠損している。

（西井 幸雄）

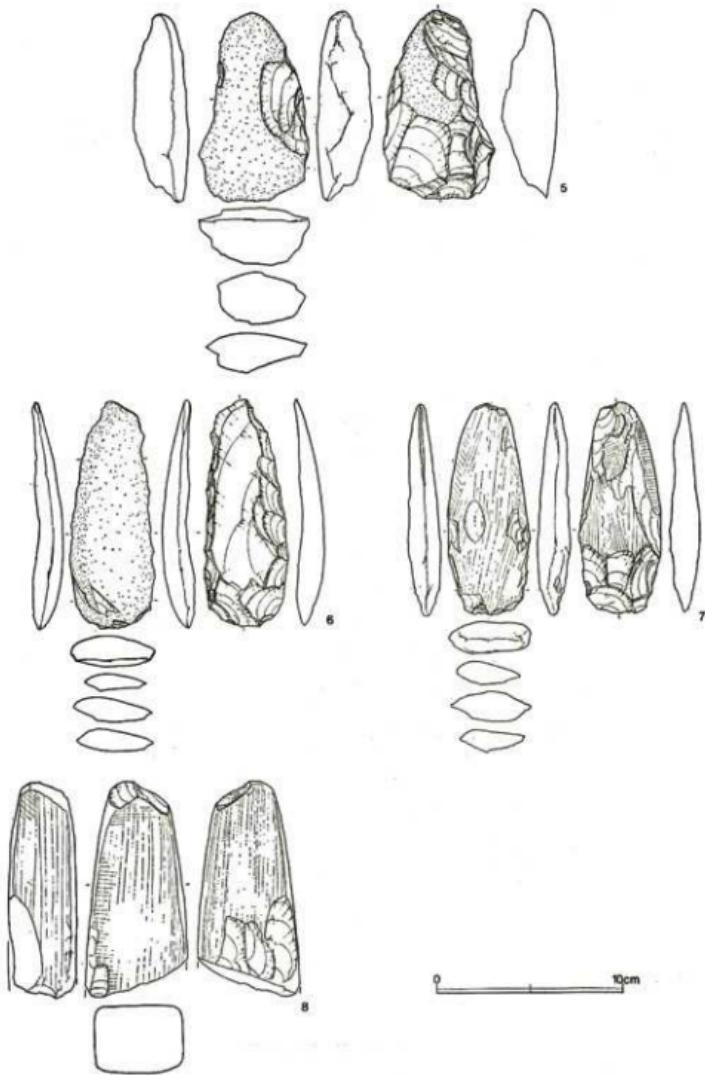
表24 グリッド出土石器（第66・67図）一覧表

番号	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
1	石錐	チャート	—	—	—	0.55
2	石錐	チャート	—	—	—	0.70
3	石錐	黒耀石	—	—	—	0.60
4	石核	チャート	8.0	4.15	2.4	74.67
5	打製石斧	砂岩	10.2	6.0	3.0	197.70
6	打製石斧	砂岩	12.3	4.6	1.75	95.36
7	打製石斧	砂岩	11.5	4.5	1.8	117.49
8	磨製石斧	砂岩	—	—	—	—



0 5cm

第66図 グリッド出土石器実測図(1)

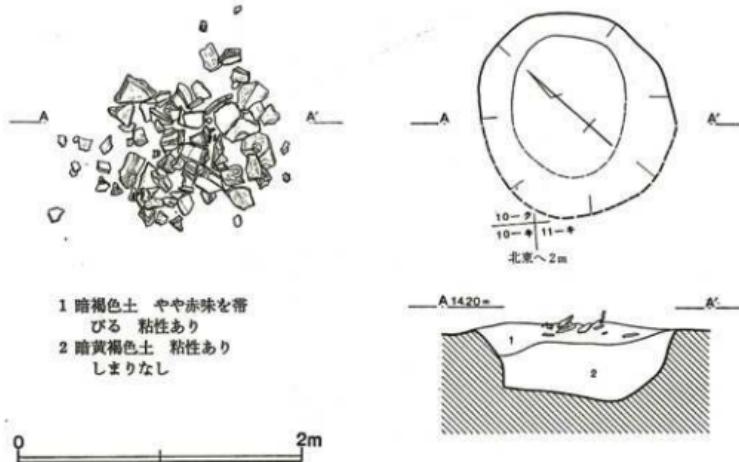


第67図 グリッド出土石器実測図(2)

D 土器溝り（第68図、図版15）

グリッド10—1内で、土器が集中して検出され、遺構として確認された。形状はほぼ円形を呈し、径約1.4m、深さ約50cmである。

土層は2層観察されるが、出土した土器の大部分は第1層の暗褐色土中からのもので、すべて縄文中期勝板式土器に相当する。



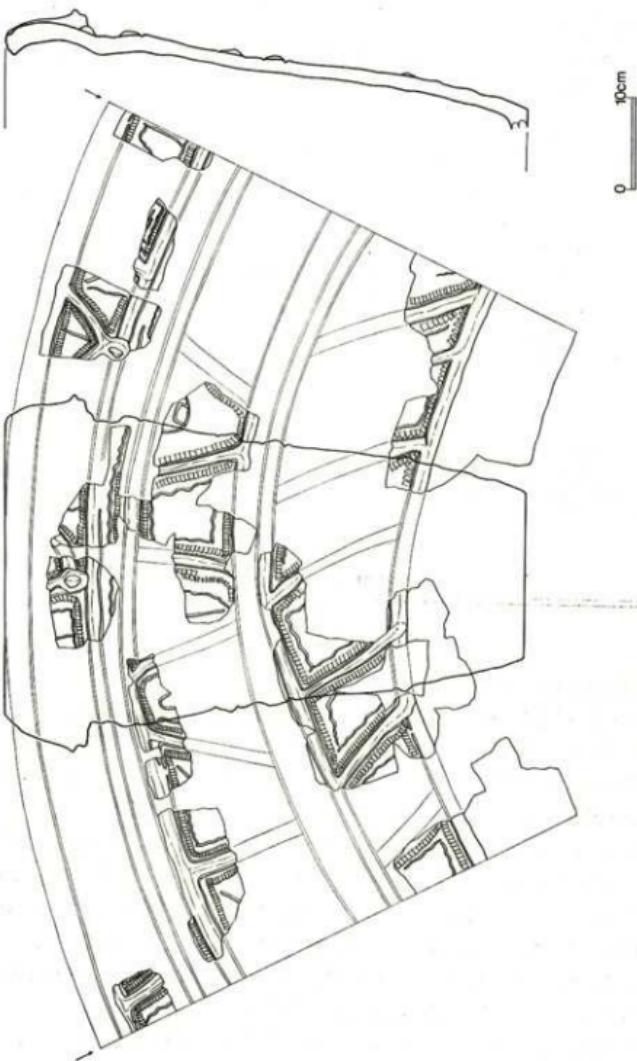
第68図 土 器 溝 り

土器溝り出土土器（第69・70図）

第69図-1は大型の深鉢で、推定口径約32cm、現存高約59cmを測る。器形はキャリバー型を呈する。胴部には無文部をはさんで2段の文様帯をもつ。口縁部の三角区画文端部には小突起を有する。胴部文様帯は三角形・平行四辺形の区画文から成っている。隆帯に沿って、半月状の爪形文、波状沈線が施されている。

第70図-1～6は無文地に角押文が多用される。1は隆帯に沿って角押文が直線的に施され、2は波状口縁頂部より隆帯が垂下し、隆帯に沿って角押文が施される。3は横位に巡る1条の角押文が施されている。1～3は隆帯の特徴・胎土・竹管文の施文等から同一個体と推定される。4～6は隆帯に沿って角押文が施される。7は梢円形状の隆帯に沿って爪形文が施される。8は口縁下に横位に1条の爪形文が施される。9は隆帯に沿って縦位に爪形文が施される。10は三角形もしくは四角形に区画する隆帯に沿って半月状の爪形文が施される。

11～13は梢円区画をもち隆帯上には刻目が密に施されている。区画内には沈線に沿って爪形文が加えられている。14は胴部破片で2条の沈線が施される。15～18はいすれも無文で15・16は口縁下より波状、もしくは直線的に隆帯が施される。17は口縁下に指頭圧痕が施され、その下に1条の沈線が



第69図 土器添り出土土器



第70図 土器洞り出土土器拓影図

施されている。18は口縁下に1条の沈線が巡り斜位に隆帯が施される。

土器溝りの土器は横帯区画文系の系統からなり、比較的単純な土器様相をもつ。隆帯に沿う竹管文の有り方から概ね3様相の施文が想定された。第70図1～3は土器溝りの内にあってはやや古手の特徴をもつものと思われる。他の土器群は特徴から藤内1式段階（埼玉中期編年第Ⅶ期）に相当するものと思われる。

（石川俊英）

(3) 先土器時代

先土器時代の調査は発掘区の北側を中心として行なわれ、遺物が検出されたグリッドの周囲を面的に広げる方法を採った。遺物の分布は集中が2ヶ所確認された。出土層位は、当遺跡における層序のⅢ層上面及び、Ⅲ層中（第3図層序図を参照）である。

石器分布（第71図）

石器の集中は1ヶ所確認された。分布の範囲は8一キを中心とし先土器調査区の南東部に広がっている。製品はナイフ形石器5点、搔・削器4点、礫器1点、すり石1点が出土した。碎片が多く集中する。

礫分布（第71図）

礫は石器の集中に重複し散在するものと、12・13一ヶ所を中心に集中し、礫群を成すものが見られた。礫群の周囲からは剥片類はまったく検出されず、すり石2点が近接して出土している。これは本遺跡における石器集中と礫群の関係を考える際の材料になると思われる。

石器

向原遺跡から出土した石器は総数202点で、その内訳はナイフ形石器5点、搔・削器4点、剥片25点、石核6点、礫器1点、すり石5点（接合により4点）、敲石2点（接合により1点）、碎片153点である。

ナイフ形石器（第72図1～5）

形状の整ったものは1だけである。2～5は調整加工が見られることから広義でのナイフ形石器と考えておきたい。1は頁岩製であり、2～5はチャート製である。1と同一母岩と思われる資料は剥片が何点か見られるが、本遺跡での主体的な石材はチャートであり、客体的存在と言える。2・4は接合はしないが同一母岩と思われる。2は上部からの打撃による割れ円錐が見られる。石材の制約か作りは粗雑である。3は正面に節理面を残し、調製加工を両側縁に施している。一見台形様に見える。5は剥片を折断し右側縁に調製加工を施したものである。折断した一方の剥片と接合した。

搔・削器（第72図6・7、第73図8・9）

良好は資料ではなく、剥片の一部に刃部加工を施したものである。6は左側縁に細かい剥離が見られる。刃部加工を施したものか、使用による刃こぼれか判断に苦しむが、ここでは一応搔・削器としておいた。7～8はチャート製で同一母岩と思われる。



第71図 先土器遺跡分布図

剥片（第73図10～12、第64～77図、第78図34）

剥片は25点出土している。ほとんどが縦長剥片であるが、形状の整ったものは少ない。

石核（第78図35、第79・80図 第81図40）

剥片類が貧弱なのに対し石核は6点と多い。石質は全てチャート製であり、36～38は同一母岩と思われる。35は下面に自然面を残し上面から交互剥離を行なっている。縦断面は三角形状を呈している。36、37、40は多方向からの剥離が行なわれており、サイコロ状を呈している。38は剥片を素材にしていると思われる。39は多方向からの剥離が行なわれ偏平である。縦断面は逆三角形を呈す。

すり石（第83～85図）

42は遺物集中から離れ单独で出土した。正面上面に擦痕が見られる。43・44は石器集中からは離れているが、2点は近接して出土している。43は正面下端及び左側面に擦痕が見られる。44は裏面全体に擦痕が見られる。45・46は石器集中内より出土した。2点が接合し棒状の偏平隕になる。下端部の表裏に擦痕が見られる。

敲石（第86・87図）

石器集中より2点出土し接合した。表裏の下端に窪みがあり、右側縁下端に敲打痕が見られる。

接合資料（第76図26・27、第81図5、15～17、第82図）

接合資料は剥片を折断したもの（26・27、5・17、15・16、30・31）と剥片の接合したもの（5・17と16・17、30・31と32）と見られた。5・17は剥片を折断（5）レナイフ形石器にしている。

母岩別資料

本遺跡から出土した石器の材質はチャートが主体であり、いくつかの母岩に分けられた。チャートの材質は悪く節理が多い。そのため剥片と石核の認識の難しいものが多い。碎片としたものほとんどは、どこが主要剥離面だから分らないものであった。なお碎片は母岩分類が難しいため行なわなかった。

次に比較的資料の多い第10・11母岩の分布を見ることにする。

第10母岩（第89図）

石質チャートである。同一母岩と思われるものにナイフ形石器が2点、搔・削器が3点と所謂製器が多い。接合例も3点あり、分布も石器集中の内に良くまとまっている。

第11母岩（第89図）

石質はチャートで第10母岩に似ている。同一母岩と思われるものに石核が3点あり、節理による分割が行われたものと思われる。分布は石器集中の内にまとまっている。

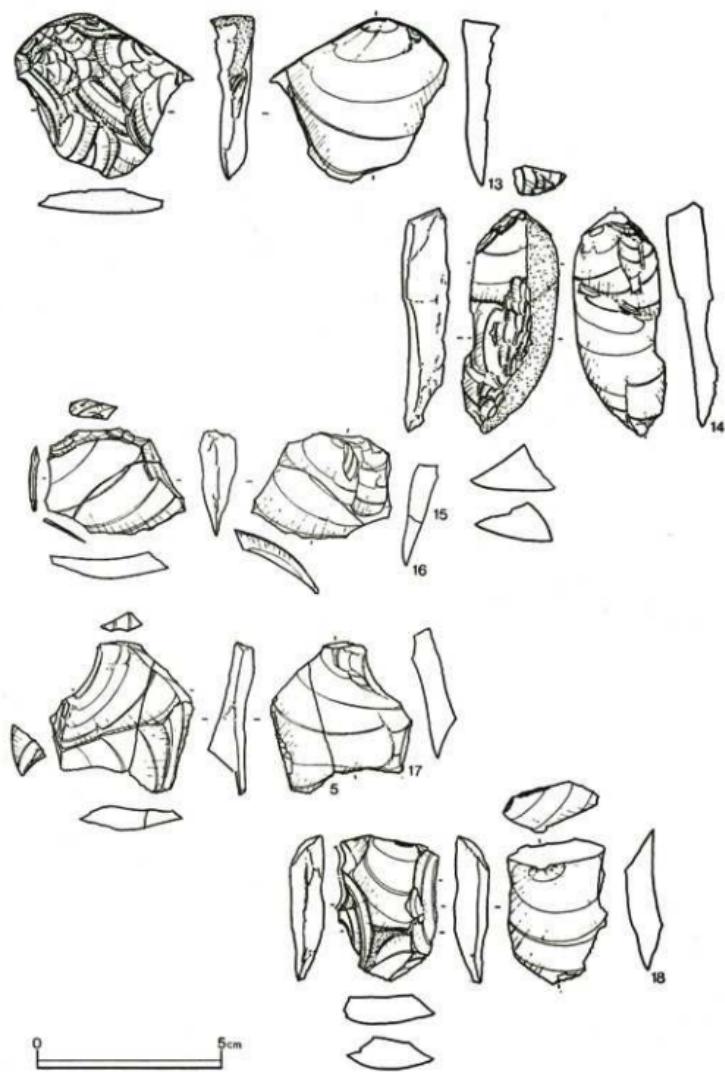
向原遺跡からは石器集中と疎群が近接して接出された。石器集中からはチャートを主体にして、良好な製品は少ないが、石核・剥片と多数の碎片が検出された。この事は本石器集中の性格を物語っているのかもしれない。良好な製品が少ないため本石器群の時期を確定するのは難しいが、1のナイフ形石器の形態などから武藏野台地第Ⅳ層下部の石器群に似た様相があると思われる。しかし資料的限界が大きく、この地域での資料増加を待って今後検討を行ないたいと思う。



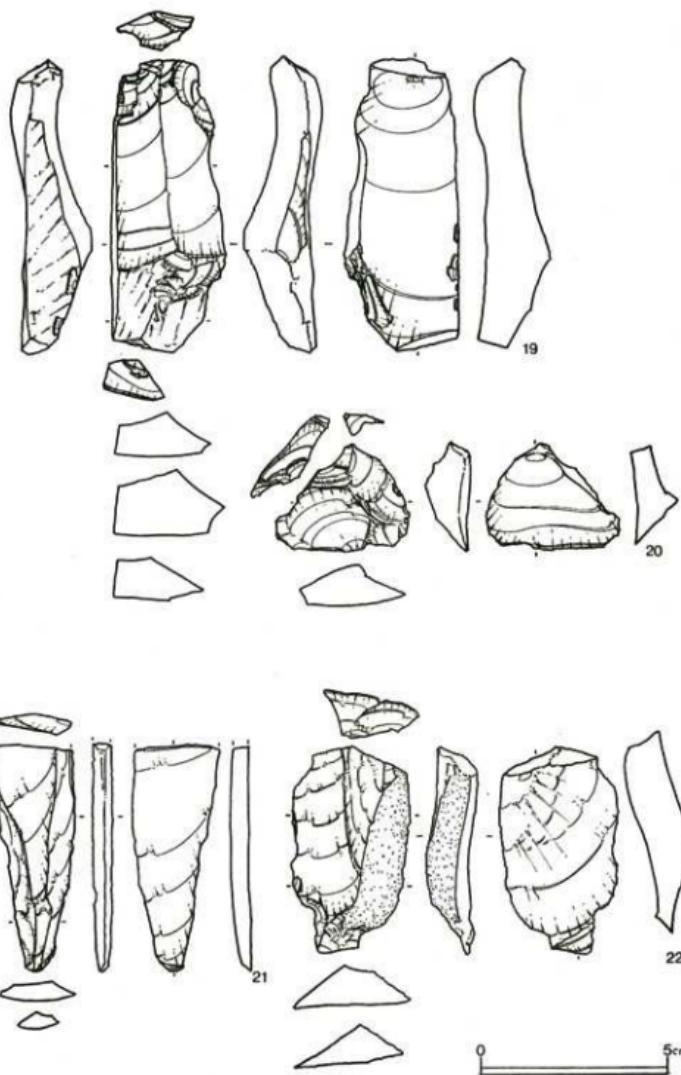
第72図 石器実測図(1)



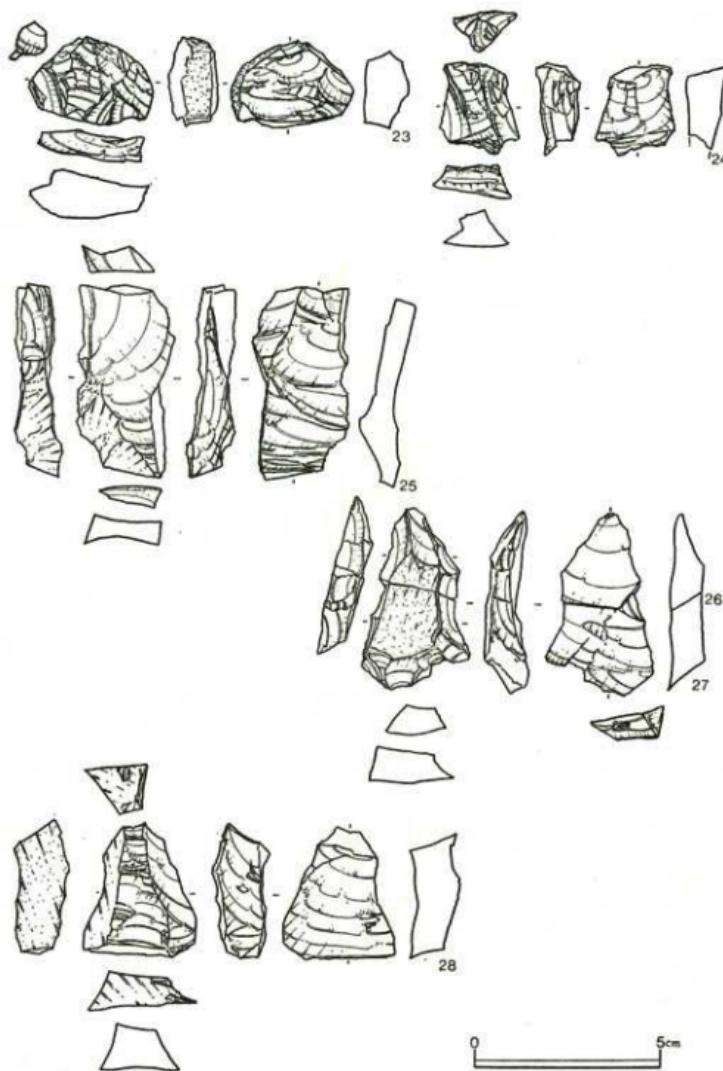
第73図 石器実測図(2)



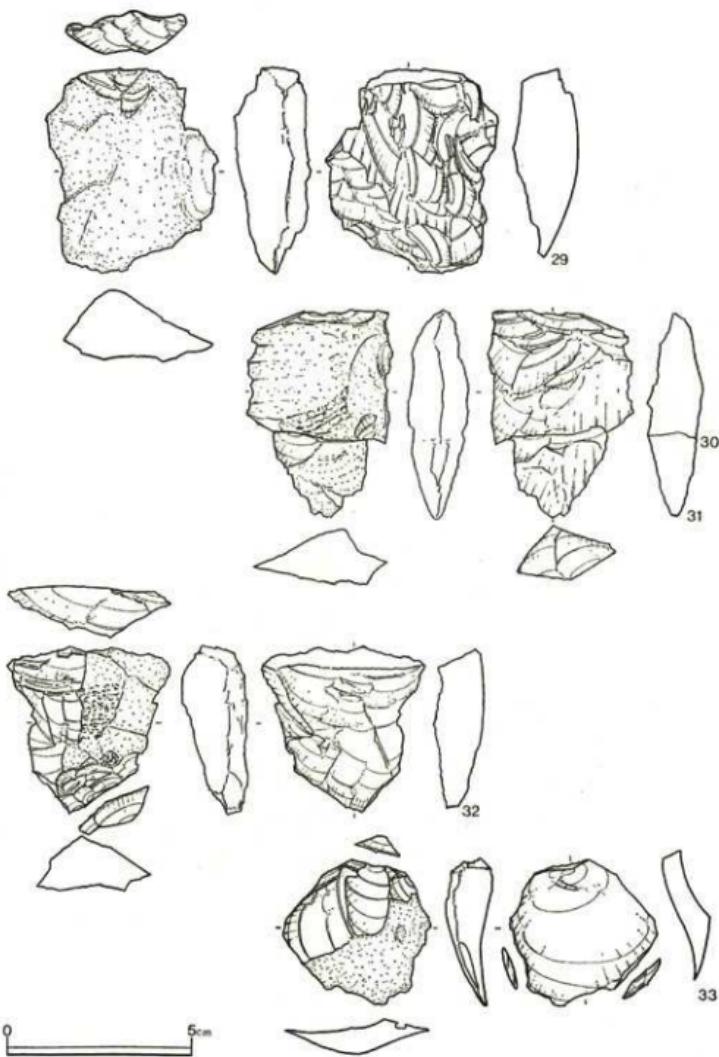
第74図 石器実測図(3)



第75図 石器実測図(4)

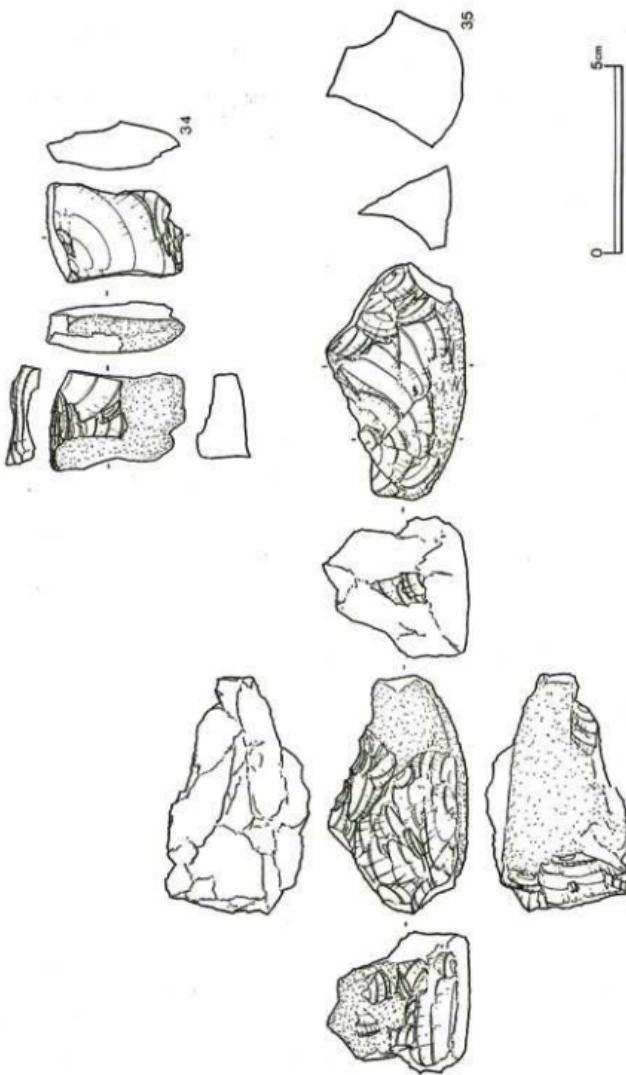


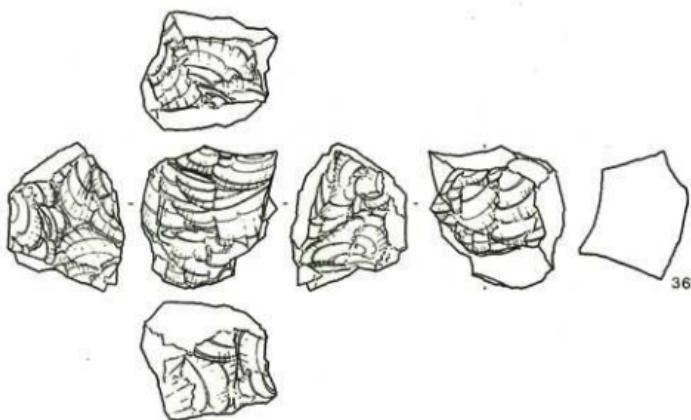
第76図 石器実測図(6)



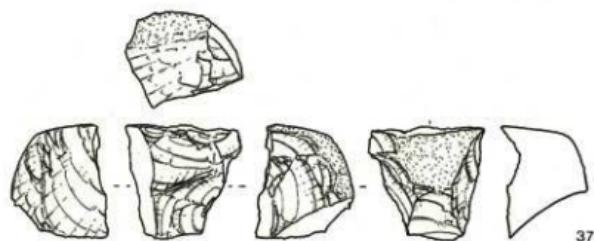
第77図 石器実測図(6)

第78圖 石器實測圖(7)





36

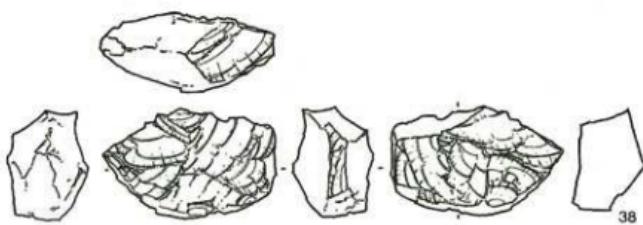


37

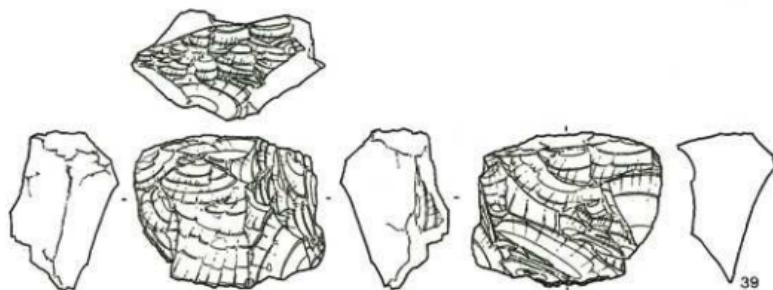
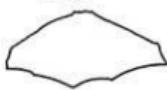


0 5cm

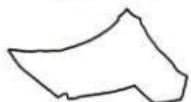
第79圖 石器實測圖(8)



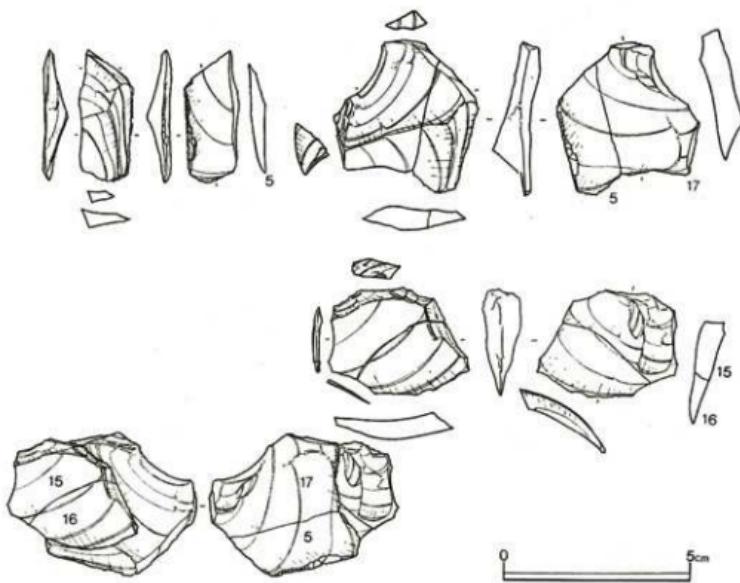
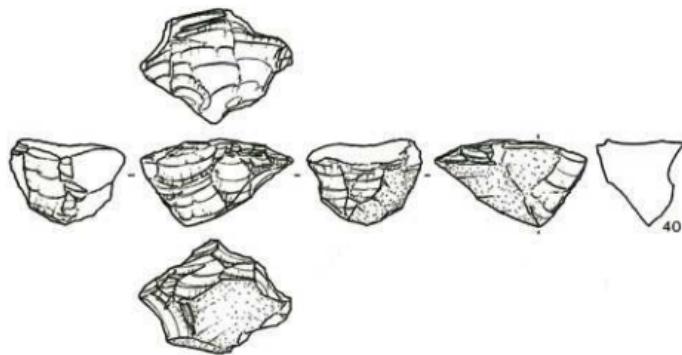
38



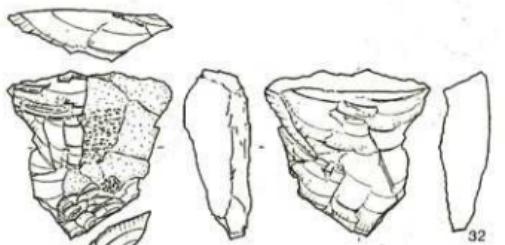
39



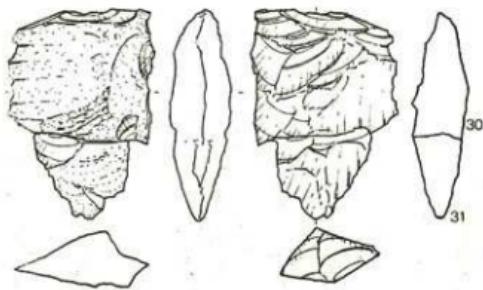
第80図 石器実測図(6)



第81図 石器実測図10

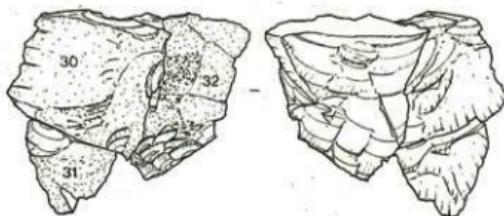


32



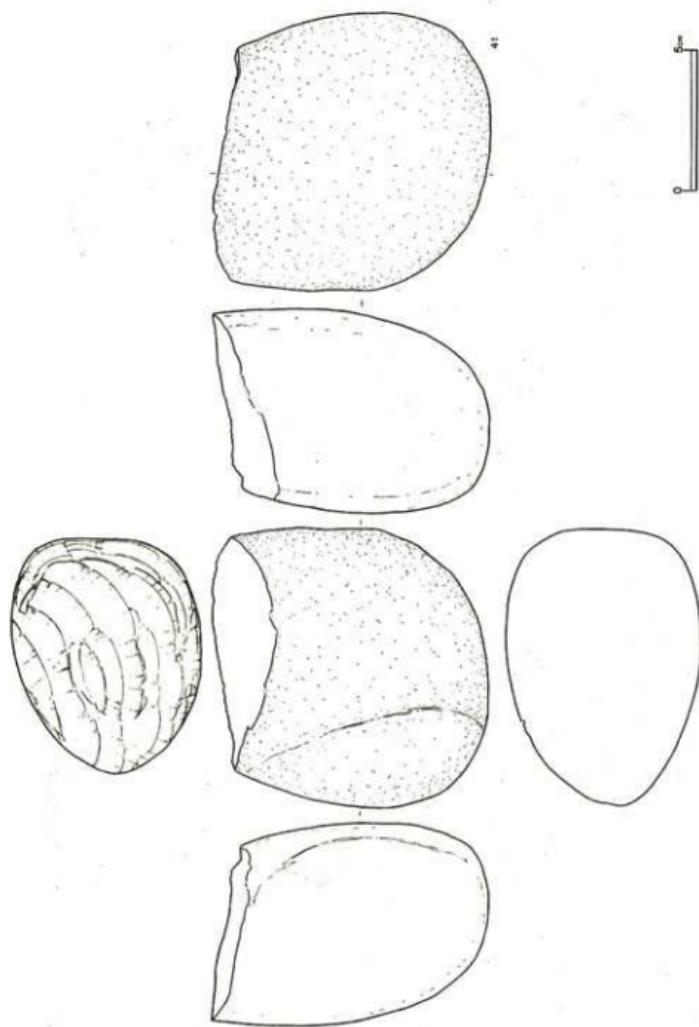
30

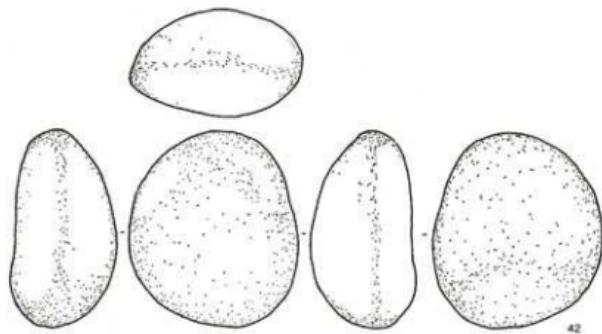
31



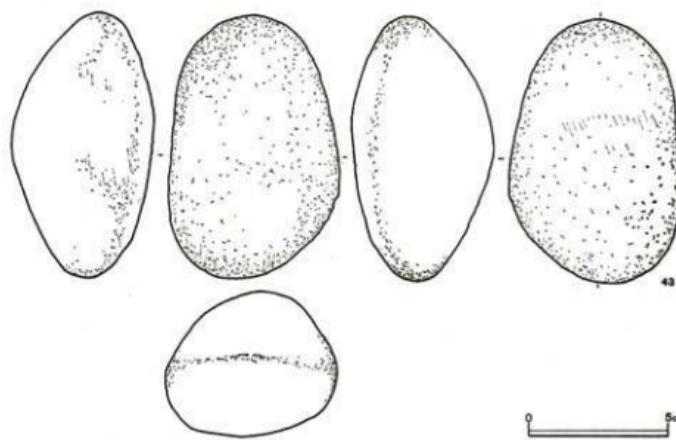
第82図 石器実測図1

第53圖 石鑿穿孔圖





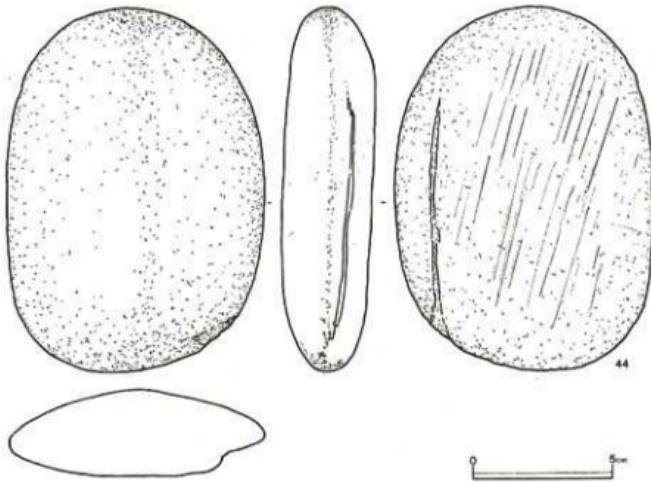
42



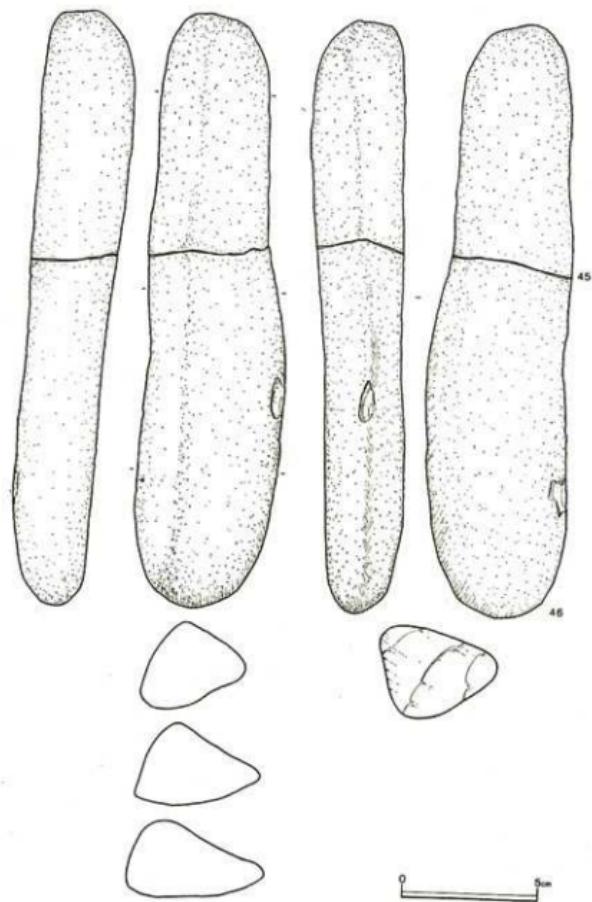
43



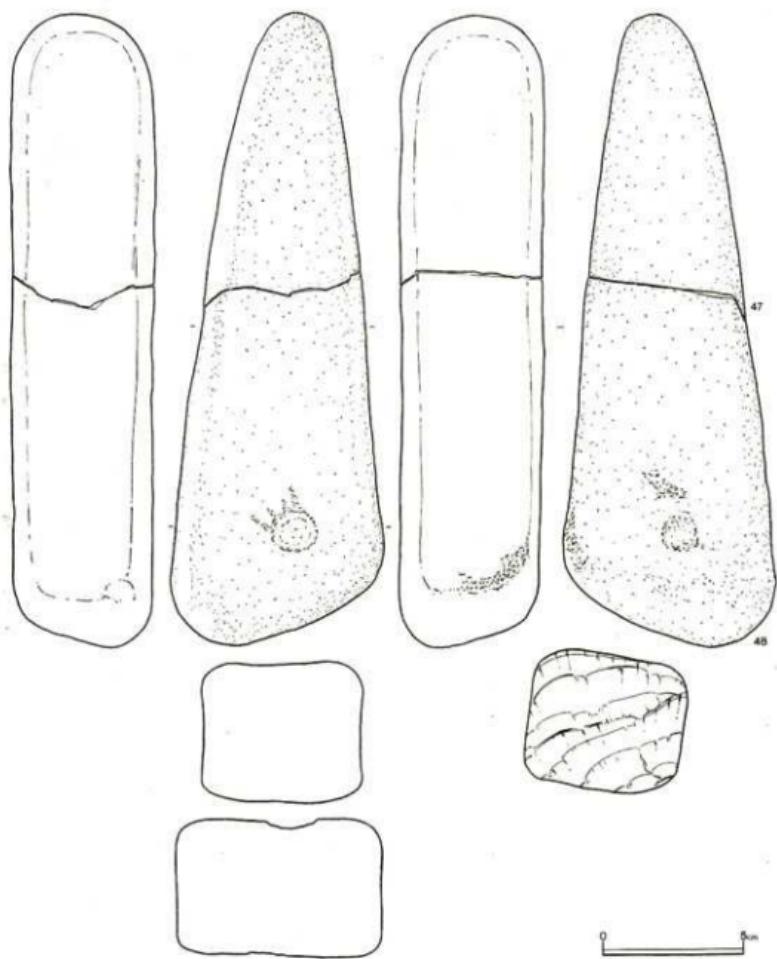
第84図 石器実測図03



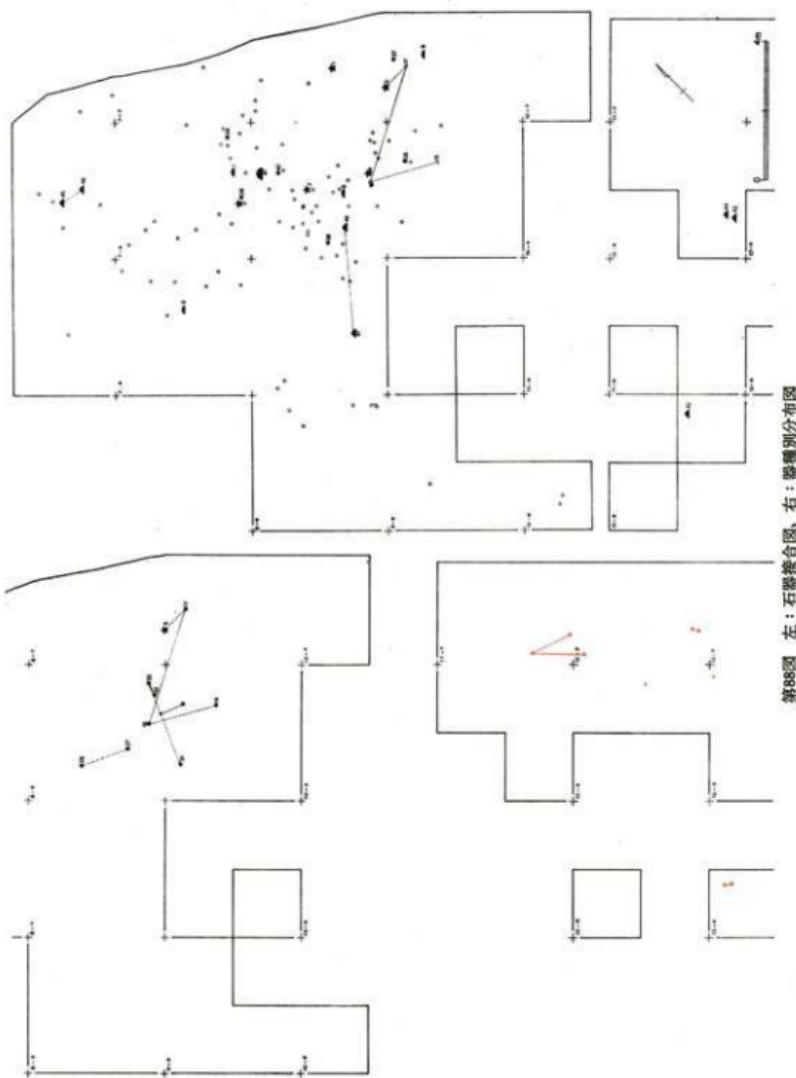
第85図 石器実測図44



第86图 石器实测图



第87圖 石器実測図08



第88圖 左：石器接合圖、右：器種別分布圖

第89图 左：第11层岩屑分布图、右：第10层岩屑分布图

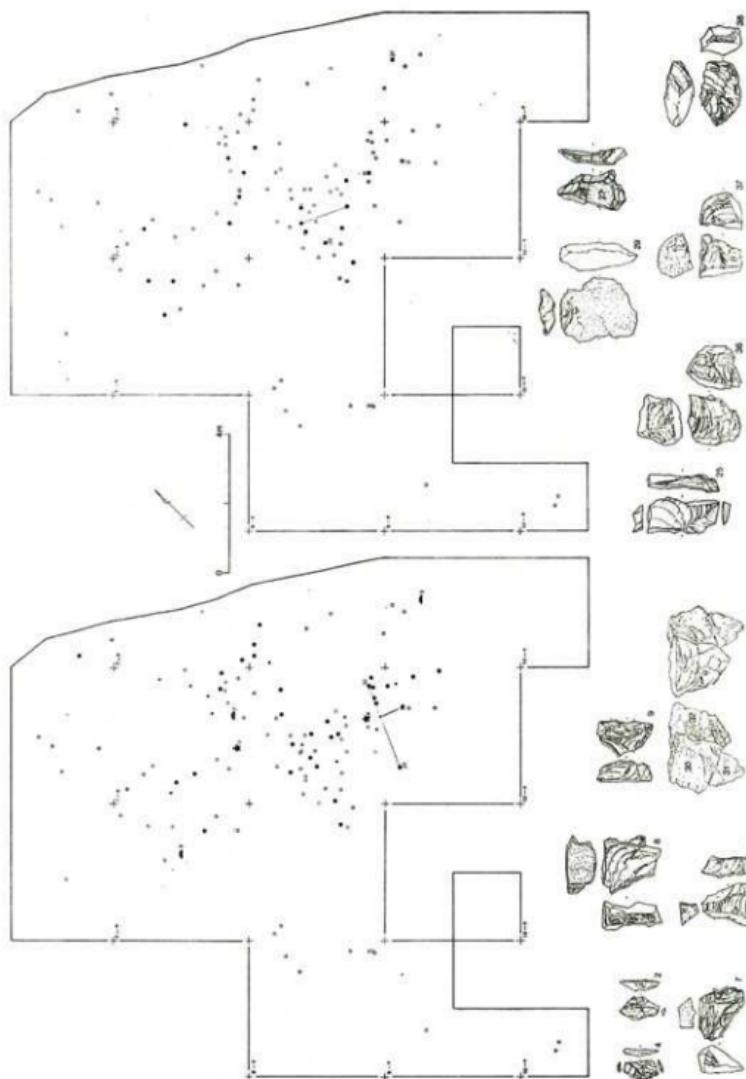


表25 石器一覧表

番号	グリッド	北-南 cm	西-東 cm	標高(m)	石質	器種名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	母岩 No.	備考
1	8-ク-4	42	155	13.766	頁岩	ナイフ形石器	(4.4)	2.0	1.55	8.84	1	
2	7-キ-4	162	160	13.197	チャート	〃	2.95	1.8	0.9	2.47	11	
3	8-ク-2	165	0	13.372	〃	〃	2.65	1.7	0.5	1.55	9	
4	8-キ-3	142	47	13.323	〃	〃	2.5	1.5	0.6	1.85	11	
5	8-ク-4	198	98	13.426	〃	〃	3.6	1.5	0.7	2.65	4	Na17と接合
6	8-キ-4	72	190	13.506	〃	插・削器	4.05	4.0	1.2	13.49	外	
7	7-キ-3	148	53	13.376	〃	〃	3.3	3.9	2.1	19.49	11	
8	7-カ-2	200	50	13.291	〃	〃	4.4	4.2	2.25	31.99	11	
9	9-ク-1	105	195	13.356	〃	〃	4.1	2.7	1.7	15.10	11	
10	10-オ-1	12	77	13.349	頁岩	剥片	1.8	2.7	1.45	8.19	1	
11	8-キ-2	58	2	13.421	〃	〃	3.9	3.9	1.1	12.00	1	
12	7-カ-3	170	123	13.556	〃	〃	2.1	3.7	0.9	4.65	1	
13	8-キ-2	85	110	13.259	チャート	〃	4.5	4.9	1.3	19.08	2	
14	7-カ-3	105	162	13.301	〃	〃	6.15	2.6	1.3	15.46	2	
15	8-キ-3	155	80	13.361	〃	〃	3.0	3.8	1.2	1.07	4	Na5.16.17と接合
16	8-キ-3	152	22	13.466	〃	〃	3.0	3.8	1.2	1.07	4	Na5.15.17と接合
17	9-ク-1	60	162	13.791	〃	〃	(4.1)	(4.0)	(1.3)	6.80	4	Na15.16.5と接合
18	8-ク-1	170	115	13.651	頁岩	〃	4.0	2.7	1.0	11.17	5	
19	6-キ-4	50	95	13.326	〃	〃	8.0	3.1	2.3	51.87	5	
20	7-キ-4	132	132	13.371	〃	〃	3.0	3.7	1.2	8.54	5	
21	7-ク-4	62	162	13.356	安山岩	〃	6.2	2.5	0.7	8.72	7	
22	10-オ-1	113	105	13.499	〃	〃	5.7	3.3	1.6	22.25	8	
23	8-キ-4	172	152	13.361	チャート	〃	2.5	3.4	1.4	10.71	9	
24	8-カ-3	90	132	13.431	〃	〃	2.5	2.2	1.3	5.10	9	
25	7-キ-3	10	195	13.271	〃	〃	5.3	2.7	1.4	17.73	10	
26	8-キ-1	155	105	13.601	〃	〃	5.0	3.0	1.4	11.76	10	Na27と接合
27	8-キ-4	88	156	13.358	〃	〃	5.0	3.0	1.4	11.76	10	Na26と接合
28	8-カ-3	70	145	13.266	〃	〃	3.6	3.1	1.6	13.70	11	
29	8-カ-3	97	188	13.274	〃	〃	5.7	4.8	2.2	41.52	10	
30	8-キ-3	145	142	13.396	〃	〃	5.7	4.0	1.7	21.00	11	Na31.32と接合
31	9-ク-1	45	105	13.416	〃	〃	5.7	4.0	1.7	6.10	11	Na30.32と接合
32	8-キ-3	165	118	13.355	〃	〃	4.6	4.6	1.8	26.13	11	Na30.31と接合
33	10-オ-1	105	78	13.412	頁岩	〃	4.0	4.1	1.4	8.22	外	
34	6-キ-4	158	163	14.071	〃	〃	3.65	2.7	1.4	16.37	外	
35	9-キ-2	55	85	13.294	チャート	石核	3.8	6.4	3.9	85.12	4	
36	7-キ-4	172	180	13.259	〃	〃	3.9	3.7	3.1	47.49	10	
37	9-ク-1	22	182	13.791	〃	〃	3.1	3.2	2.7	25.04	10	
38	8-キ-4	25	45	13.317	〃	〃	3.0	4.8	2.2	29.17	10	
39	7-キ-3	132	155	13.274	〃	〃	4.2	5.3	3.0	51.55	外	
40	8-キ-2	80	50	13.566	〃	〃	2.4	4.1	3.2	24.43	外	
41	8-キ-2	195	190	13.278	砂岩	疊器	10.2	10.1	7.3	110.52		
42	11-エ-3	30	140	13.816	〃	寸り石	7.2	6.2	3.9	212.73		
43	12-ク-4	165	115	13.848	〃	〃	9.6	6.2	5.2	2380.42		
44	12-ク-4	140	125	13.846	〃	〃	13.3	9.5	3.5	5640.33		
45	6-キ-4	45	175	13.206	〃	敲石	22.1	5.5	4.0	540.38		No46と接合
46	6-キ-3	105	5	13.171	〃	〃						No45と接合

番号	グリッド	北 cm	南 cm	西 cm	東 cm	標高(m)	石 質	器 種	名	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 量(g)	母岩 No	備 考
47	8-カ-2	100	180	13.371	砂岩	蔽	石	石	22.8	7.6	5.3	133.24	No.48と接合		
48	8-キ-4	78	90	13.331	"		"						0.04	No.47と接合	外
49	9-キ-2	118	6	13.575	安山岩	碎	片						0.72		
50	9-オ-1	138	124	13.641	頁岩		"						18.29		
51	9-オ-4	130	86	13.612	チャート		"								
52	6-カ-4	60	183	13.351	"		"						3.73		
53	6-カ-4	69	182	13.341	"		"						5.67		
54	6-カ-3	114	164	13.271	"		"						3.53		
55	7-カ-2	20	165	13.451	灰岩		"						14.65		
56	7-カ-2	105	132	13.546	チャート		"						8.96		
57	7-カ-2	152	37	13.446	"		"						3.73		
58	7-カ-2	175	133	13.251	"		"						16.07		
59	7-カ-3	63	120	13.481	"		"						0.09		
60	8-カ-1	55	200	13.481	"		"						0.45		
61	8-カ-1	125	175	13.486	"		"						6.65		
62	8-カ-1	75	20	13.351	チャート		"						3.50		
63	8-カ-4	95	42	13.416	"		"						3.00		
64	8-カ-3	175	20	13.571	安山岩		"						7.50		
65	6-キ-1	180	195	13.156	頁岩		"						6.45		
66	6-キ-4	20	170	13.256	チャート		"						3.09		
67	6-キ-4	33	173	13.251	"		"						3.03		
68	6-タ-4	100	33	13.191	チャート		"						6.56		
69	6-タ-4	195	80	14.131	安山岩		"						0.59		
70	7-キ-1	43	42	13.631	砂岩		"						30.0		
71	7-キ-1	90	87	13.466	チャート		"						1.16		
72	7-キ-1	118	112	13.391	頁岩		"						0.82		
73	7-キ-1	126	28	13.546	チャート		"						0.09		
74	7-キ-1	165	34	13.511	"		"						1.05		
75	7-キ-1	168	33	13.536	"		"						2.19		
76	7-キ-1	185	65	13.411	"		"						1.16		
77	7-キ-4	155	162	13.316	"		"						7.10		
78	7-キ-3	148	25	13.336	安山岩		"						0.22		
79	7-キ-3	168	128	13.501	チャート		"						0.24		
80	7-キ-3	185	65	13.511	"		"						17.47		
81	7-キ-3	184	66	13.511	"		"						2.82		
82	8-キ-1	72	93	14.121	"		"						1.00		
83	8-キ-2	35	60	13.486	"		"						3.76		
84	8-キ-1	97	50	13.326	安山岩		"						1.33		
85	8-キ-1	122	90	13.661	チャート		"						3.00		
86	8-キ-1	128	175	13.536	"		"						2.21		
87	8-キ-1	122	200	13.841	"		"						3.22		
88	8-キ-1	156	172	13.601	"		"						3.79		
89	8-キ-1	168	70	13.541	"		"						4.15		
90	8-キ-3	30	38	13.821	"		"						1.05		
91	8-キ-4	42	197	13.541	"		"						9.04		
92	8-キ-4	65	170	13.526	"		"						4.45		
93	8-キ-3	62	3	13.411	"		"						7.60		
94	8-キ-4	75	90	13.381	"		"								
95	8-キ-3	87	28	13.386	"		"								

番号	グリッド	北-南 cm	西-東 cm	標高(m)	石質	器種名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量(g)	母岩 No.	備 考
96	8-キ-3	133	39	13.541	チャート	片				1.44		
97	8-キ-3	152	80	13.356	"	"				0.71		
98	8-キ-3	163	120	13.361	"	"				0.25		
99	8-キ-3	168	75	13.366	"	"				0.52		
100	8-キ-4	187	80	13.486	"	"				0.44		
101	8-キ-3	185	40	13.376	"	"				0.76		
102	8-キ-3	195	37	13.451	"	"				0.31		
103	8-キ-3	198	58	13.446	"	"				0.46		
104	8-キ-3	198	60	13.446	"	"				1.65		
105	9-キ-2	35	152	13.371	"	"				5.12		
106	9-キ-2	85	170	13.361	"	"				1.25		
107	9-ク-1	10	100	13.386	"	"				0.18		
108	9-キ-1	153	178	13.421	"	"				0.89		
109	8-キ-2	15	198	13.420	"	"				2.47		
110	8-キ-2	43	132	13.352	"	"				0.66		
111	8-キ-2	32	150	13.329	"	"				27.44		
112	8-キ-3	153	55	13.354	"	"				13.51		
113	8-キ-3	175	92	13.358	"	"				0.44		
114	9-キ-2	50	195	13.250	"	"				1.35		
115	8- - 3	58	72	13.387	"	"				2.51		
116	8-キ-1	180	135	13.386	"	"				2.97		
117	8-キ-2	186	2	13.325	"	"				0.45		
118	8-キ-4	82	135	13.343	"	"				1.37		
119	8-キ-4	30	73	13.363	"	"				8.17		
120	8-キ-1	195	155	13.327	"	"				3.42		
121	8-キ-1	155	152	13.316	"	"				1.41		
122	8-キ-3	160	167	13.325	"	"				0.61		
123	9-キ-2	60	140	13.384	"	"				0.87		
124	9-キ-2	105	120	13.400	"	"				0.18		
125	8-キ-2	122	143	13.326	"	"				2.65		
126	9-キ-2	6	149	13.375	"	"				0.45		
127	9-キ-2	15	113	13.380	"	"				0.18		
128	9-キ-2	32	103	13.373	"	"				3.04		
129	8-キ-4	53	8	13.308	"	"				10.19		
130	8-キ-2	15	125	13.305	"	"				0.17		
131	8-キ-2	15	105	13.307	"	"				5.16		
132	8-キ-4	70	42	13.299	"	"				1.22		
133	8-キ-4	7	3	13.290	"	"				3.77		
134	8-キ-3	175	17	13.310	"	"				0.07		
135	8-キ-2	65	93	13.299	"	"				0.93		
136	8-キ-3	113	10	13.274	"	"				0.74		
137	9-キ-2	45	3	13.304	"	"				0.12		
138	8-キ-3	180	113	13.346	"	"				0.13		
139	8-ク-4	0	73	13.441	"	"				0.69		
140	8-キ-1	200	110	13.276	"	"				0.85		
141	7-キ-3	123	20	13.319	"	"				3.83		
142	9-キ-2	30	100	13.371	"	"						
143	7-キ-3	188	80	13.329	"	"						

番号	グリッド	北 cm	南 cm	西 cm	東 cm	標高(m)	石 質	器 種	名	長 (cm)	さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	さ 重 (g)	母岩 Na	備 考
144	8-キ-3	82	52	13.274	チャート	砂	片							0.75		
145	7-キ-3	70	48	13.332	"	"								0.90		
146	7-キ-3	120	180	13.365	"	"								6.57		
147	9-キ-2	70	110	13.327	"	"								0.16		
148	8-ク-4	88	30	13.396	"	"								1.37		
149	9-キ-2	5	40	13.302	"	"								1.18		
150	7-ク-3	103	103	13.370	砂	岩								0.54		
151	8-キ-3	43	70	13.281	チャート									0.86		
152	7-キ-3	113	132	13.328	"	"								9.17		
153	8-キ-4	23	73	13.286	砂	岩								0.26		
154	7-キ-3	187	50	13.295	チャート									4.29		
155	7-キ-3	185	87	13.221	"	"								0.38		
156	8-キ-3	195	113	13.326	"	"								0.15		
157	9-キ-2	46	128	13.310	"	"								0.29		
158	7-キ-3	78	115	13.312	"	"								1.12		
159	9-キ-2	70	80	13.294	安	山	岩							8.45		
160	7-キ-3	140	95	13.247	チャート									1.99		
161	8-キ-2	43	105	13.268	"	"								0.82		
162	8-ク-1	15	63	13.343	"	"								7.18		
163	7-キ-4	143	103	13.259	"	"								3.81		
164	7-キ-2	160	190	13.296	"	"								7.38		
165	7-キ-3	192	127	13.298	"	"								0.37		
166	7-キ-4	103	130	13.252	"	"								1.45		
167	8-キ-4	58	122	13.244	"	"								1.16		
168	7-キ-4	38	97	13.248	"	"								6.62		
169	9-キ-2	52	83	13.291	"	"								7.96		
170	8-ク-1	15	32	13.311	"	"								2.30		
171	8-ク-1	60	10	13.242	"	"								0.15		
172	7-キ-3	28	143	13.325	"	"								2.50		
173	7-ク-4	127	35	13.268	"	"								0.28		
174	8-キ-3	187	52	13.230	"	"								7.96		
175	8-キ-3	135	113	13.279	"	"								1.04		
176	7-キ-3	20	185	13.288	"	"								0.13		
177	8-ク-1	5	45	13.311	安	山	岩							0.13		
178	8-ク-4	158	22	13.300	チャート									1.40		
179	7-ク-4	178	20	13.266	"	"								8.91		
180	8-オ-3	90	154	13.204	"	"								0.01		
181	8-オ-3	168	164	13.428	安	山	岩							9.91		
182	8-オ-3	165	168	13.435	粘	岩	板							2.61		
183	8-オ-3	154	170	13.510	砂	岩								17.03		
184	8-オ-3	100	170	13.445	メノウ									16.32		
185	7-キ-4	182	123	13.489	"	"								1.31		
186	8-オ-2	154	110	13.424	チャート									13.16		
187	8-オ-2	112	158	13.419	"	"								24.64		
188	7-キ-3	2	97	13.182	"	"								0.51		
189	7-キ-3	28	178	13.179	"	"								0.15		
190	7-キ-3	92	65	13.159	"	"								1.31		
191	8-キ-3	0	123	13.219	"	"								0.29		

番号	グリッド	北-南 cm	西-東 cm	標高(m)	石質	器種名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	母岩 No.	備考
192	8-キ-3	165	140	13.252	チャート	片				6.86		
193	8-キ-3	142	55	13.244	粘板岩	〃				10.11		
194	8-キ-3	28	50	13.214	チャート	〃				0.81		
195	8-ク-4	190	25	13.239	ク	〃				1.16		
196	8-キ-1	160	28	13.221	ク	〃				4.88		
197	8-キ-3	108	83	13.194	ク	〃				0.15		
198	8-キ-3	130	63	13.189	ク	〃				0.45		
199	8-ク-1	32	122	13.240	ク	〃				5.44		
200	7-キ-3	132	64	13.164	ク	〃				0.69		
201	8-キ-3	128	20	13.185	ク	〃				1.03		
202	8-キ-1	168	80	13.470	ク	〃				16.00		

表26 確一覧表

番号	グリッド	北-南 cm	西-東 cm	標高m	重量g	備考	番号	グリッド	北-南 cm	西-東 cm	標高m	重量g	備考
1	12-キ-2	190	155	13.908	9.28		31	10-オ-1	12	77	13.349	8.19	
2	12-ク-4	90	50	13.857 (176.52)	9.11と接合		32	10-オ-4	22	48	13.813	13.70	
3	12-ク-4	95	50	13.87	107.13		33	6-カ-4	37	183	13.356	16.58	
4	12-ク-4	98	45	13.868	54.96		34	6-カ-4	42	181	13.341	4.32	
5	12-ク-4	100	50	13.869	2.52		35	6-カ-4	69	182	13.341		
6	12-ク-4	102	50	13.844	50.00		36	6-カ-4	74	182	13.316	16.60	
7	12-ク-4	192	105	13.846	159.15		37	6-カ-3	114	164	13.271		
8	12-ク-4	198	108	13.85	86.77		38	7-カ-2	195	513	13.276	9.61	
9	12-ク-4	200	105	13.807 (176.52)	2.11と接合		39	6-キ-4	33	173	13.251	3.09	
10	12-ク-4	98	52	13.864	61.31		40	7-キ-1	5	45	13.381	0.88	
11	13-ク-1	44	45	13.79	79 (176.52)	2.9と接合	41	7-キ-1	5	57	14.126	12.01	
12	13-ク-1	46	47	13.797	32.30		42	7-キ-1	5	50	14.101	337.57	
13	13-ク-1	50	44	13.794	6.27		43	7-キ-1	10	35	13.411	30.53	
14	13-ク-1	38	33	13.784	16.10		44	7-キ-1	52	122	13.426	3.66	
15	13-ク-1	39	30	13.777	9.29		45	7-キ-1	55	125	13.416	9.60	
16	13-ク-1	45	30	13.773	9.74		46	7-キ-1	163	152	13.311	0.64	
17	13-ク-1	40	45	13.782	28.62		47	7-キ-1	163	155	13.311	1.36	
18	13-キ-2	115	153	13.819	184.98		48	7-キ-4	155	32	13.411	2.50	
19	13-ク-4	135	162	13.832	70.94		49	8-キ-1	58	96	13.356	2.72	
20	13-ク-4	145	155	13.85	37.29		50	8-キ-4	82	70	13.371	1.92	
21	13-ク-4	153	153	13.846	34.82		51	8-キ-3	80	15	13.406	0.38	
22	13-ク-4	150	143	13.849	41.37		52	8-キ-4	108	87	13.476	4.23	
23	13-ク-4	155	140	13.837	84.58		53	8-キ-3	140	57	13.436	0.66	
24	13-ク-4	158	127	13.898	12.87		54	8-キ-4	150	108	13.501	6.69	
25	13-ク-4	165	120	13.879 (90.48)	26と接合		55	8-キ-3	152	22	13.466	1.07	
26	13-ク-4	181	114	13.809 (90.48)	25と接合		56	8-キ-3	143	147	13.366	1.08	
27	14-カ-2	53	167	13.882 (66.64)	28と接合		57	8-キ-3	120	175	13.375	0.25	
28	14-カ-2	57	172	13.91 (66.64)	27と接合		58	9-キ-2	40	50	13.371	1.05	
29	13-ク-2	188	95	13.811	107.00		59	9-キ-1	40	123	13.356	0.76	
30	9-オ-1	177	158	13.403	12.63		60	7-ク-1	18	65	13.536	6.18	

番号	グリット	北-m	南-m	西-m	東-m	標高cm	重量g	備考	番号	グリット	北-cm	南-cm	西-cm	東-cm	標高m	重量g	備考
61	7-ク-3	180	143	13.656	47.62				67	8-ク-4	85	75	13.766	(317.88)	63.61	と接合	
62	7-ク-4	190	155	13.746	122.66				68	8-キ-2	195	190	13.278		1102.92		
63	8-ク-3	56	65	13.756	(317.88)	61.07	と接合		69	4-キ-2	15	125	13.305		10.19		
64	8-ク-3	56	68	13.751	(317.88)	63.07	と接合		70	8-キ-2	110	72	13.309		0.55		
65	8-ク-3	67	5	13.766	10.16				71	9-ク-1	182	90	13.369		2.39		
66	9-ク-2	10	2	14.136	4.77												

(4) その他の遺構出土遺物

A 炭焼窯跡

炭焼窯跡は、3箇所で8基が検出された。1～3号窯跡と4～7号窯跡は各々重複し、単独で存在するのは8号窯跡のみである。8基とも形状・構造を同じくする半地下式窯で、ほぼ同時期に操業されたものと考えられる。

1～3号炭焼窯跡（第90図、図版17）

14～16—ウ～オで検出された。2・3号窯跡は切り合っており、1・2号窯跡は近接していて同時に存在とは考えられない。土層観察等から新旧関係を推察すると古い順に3→2→1号窯跡となる。

これらの窯は確認面では少量の炭の散布が見られたのみで、広範囲の攪乱もあって形状の確認は困難であった。調査を進めるうちに、多量の木炭・焼土が検出され、炭焼窯跡と判明したものである。

窯体は3基とも隅丸の長方形状を呈し、焚口部で括れて、前庭部は橢円形状となる。

規模は1号窯が全長7.4m、最大幅は炭化室奥壁で2.1m、2号窯が全長8.3m・最大幅1.9m、3号窯は窯体長5.1mである。いずれも焚口付近は徐々に狭まって幅1.1m程度となり、内側1m付近は燃焼部のため壁面上部が赤変していた。

窯底は燃焼部付近で最も深く、炭化室へ向ってわずかに浅くなり、焚口方向も緩く段がついて浅くなる。窯体内は焼土の上に厚く木炭層が乗り、上部は暗褐色土を主とするやや軟質の土層が堆積しており、数回の改修を行なって操業していたことが伺われる。

天井部は崩落しているが、覆土の暗褐色土層下面が焼けて赤変している部分もあり、これが天井部であったと思われる。

また、5号住居跡の覆土上に、ロームブロックを含むやや固い層が、前庭部から地表面まで緩やかな傾斜で堆積しており、1～3号炭焼窯への入口と考えられる。

煙道は炭化室奥壁周辺に設けられるものが多いが、検出されていない。あるいは天井部に設けられていたものであろうか。

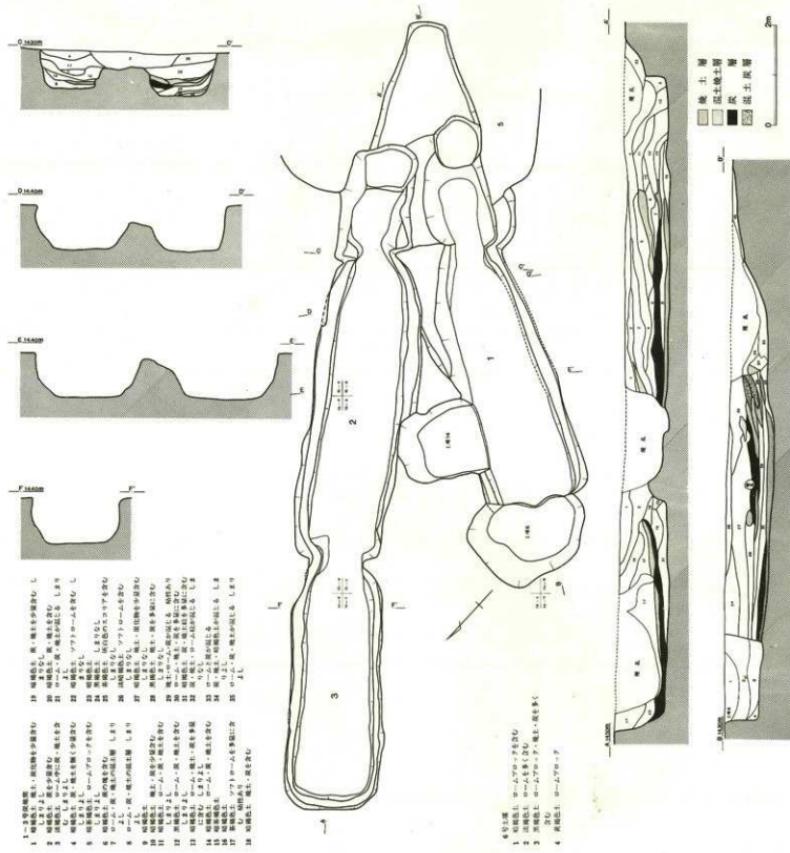
窯の方向はいずれも北西を向く。

4～7号炭焼窯跡（第91・92図、図版18・19）

30・31—キ・クに、16号住居跡を切る形で基重複して検出された。4号あるいは5号炭焼窯跡への入口と思われる貼り床状の固い面が、16号住居跡の東西土層断面に、東に向かって緩やかに下降しているのが確認されている。

前庭部は共用されているが、焚口の残存状態や土層の観察から、新旧関係は古い順に5→7→6→4号窯跡と推察される。各窯には多少の時間差が認められる。

4・5号窯跡の窯尻が調査区域外にあるため全容は不明であるが、検出された部分は形状を同じくしており、規模も4基ともほぼ同じと程度考えられる。6・7号窯は、窯体長6.3～6.9m・最大幅2.4mの隅丸長方形状を呈し、焚口部付近で幅を狭め0.7～1.1mとなる。深さは前庭部付近で、1.2～1.3mと最大値をもち焚口部で段がついて浅くなり、窯体は燃焼部が深く、窯尻へ向って徐々



第90回 1~3号出版業者

に浅くなる。

全体的に窯床はほぼ平坦で、壁はやや段をもって垂直に立上りオーバーハングする。窯尻部の壁は斜上方に立上る。煙道は検出されなかった。

窯体内には木炭と焼土が互層となって厚く堆積していた。木炭層直上のローム質土の下面が赤紫色～赤色に焼けており、これが天井部の崩落したものと思われる。またこの互層は、大きな改修を含む複数次の操業の結果であると考えられ、6・7号窯で2～3回、4・5号窯で5～6回の操業が推察できる。

窯の方向は4号窯が東北東を向き、順次西へ傾いて7号窯は西北西を向く。出土遺物なし。

8号炭焼窯（第93図、図版19）

7・18—イ・ウに単独で検出された。全長9.6m・窯体長6.3m・最大幅2.1mの隅丸長方形状を呈し、燃焼部付近で大きく括れて幅1.3m程になる。焚口はやや高く、前庭部は崖んでおり、入口は1段上って緩やかに外部へつながる。斜面部に浅く階段上に削られた跡が見られた。窯床はほぼ平坦で、燃焼部でやや深く、窯尻へ向かって緩やかに高くなっている。

煙道は窯尻付近の左側壁上部にあり、内面は良く焼けて赤変し、炭が厚く付着していた。

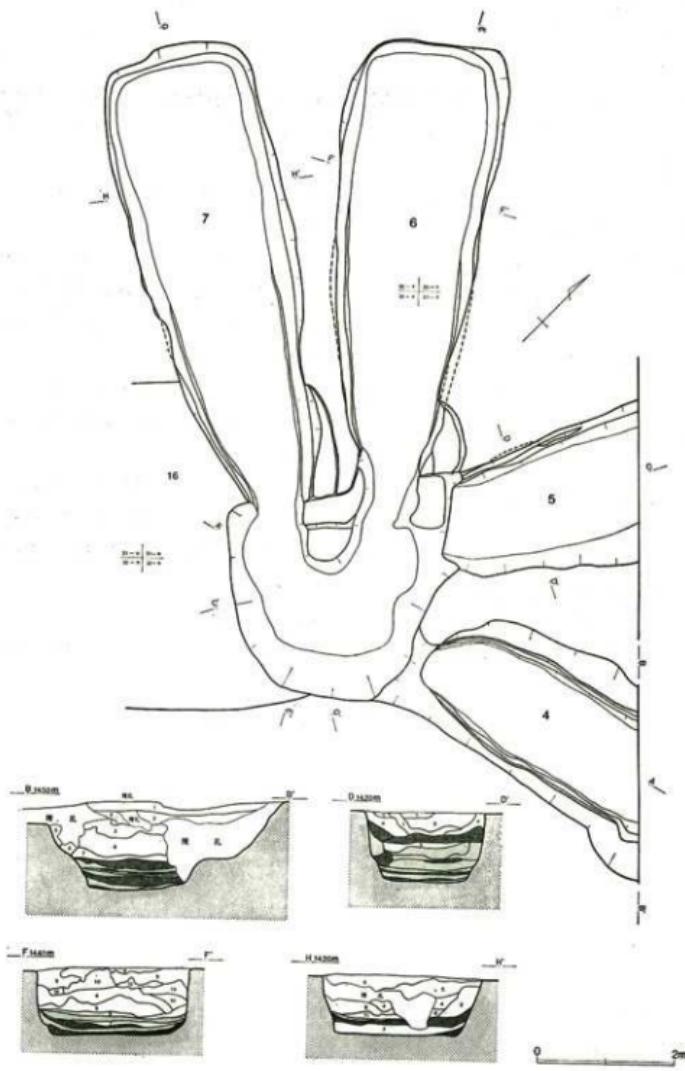
窯壁には窯床から25cm程の高さに窯体内を1周する形でわずかに段がある。上方は丸みをもってオーハングしており天井部へつながっていたものと思われる。

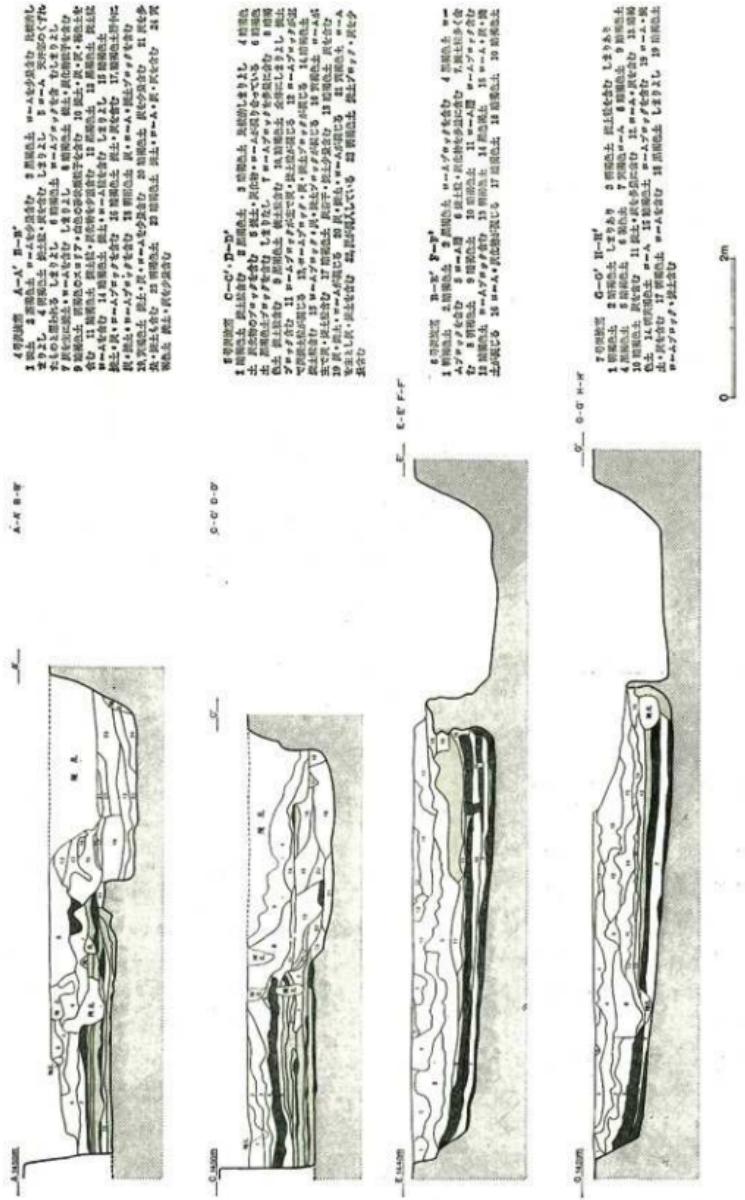
覆土は黒褐色土・暗褐色土の下にローム質の土が厚く堆積し、下面に熱をうけて赤変した部分があつて、これが天井部の崩落したものであろう。この下に最終焼成時のものと思われる木炭層が、15cm程の厚さではぼ炭化室全体に広がっているのが認められた。この下に固い焼土層があり、改修も含めて最低3回程の操業が行なわれたことが推測できる。

焚口の左側は、約25cmの高さで50×35cm程のテラス状になっていた。

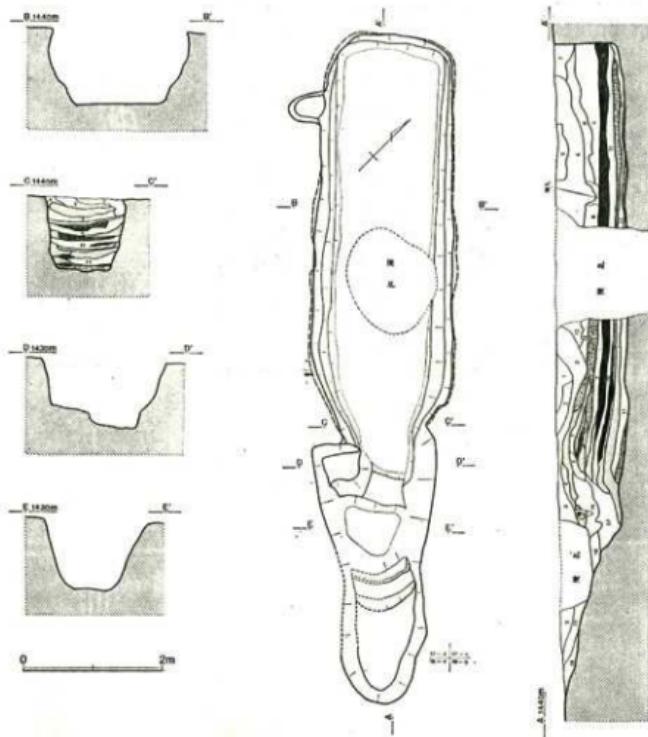
窯の方向は北西を向く。出土遺物なし。

（大和 修）





第92図 4~7号炭焼窯跡土層断面図



- 1 茶褐色土 ロームブロック・灰白色スコリアを含む しまりあり
- 2 暗褐色土 ロームブロック・灰白色スコリアを含む しまりあり
- 3 暗褐色土 ロームブロック・炭・焼土を少量含む しまりあり
- 4 黒褐色土 炭・焼土少量・灰白色スコリアを含む しまりあり
- 5 黄茶褐色土 ロームブロック・灰白色スコリアを含む しまりあり
- 6 黑褐色土 灰白色スコリアを含む しまり 粘性あり
- 7 茶褐色土 灰白色スコリアを含む しまりあり
- 8 暗茶褐色土 ソフトロームブロック・灰白色スコリアを含む しまりあり
- 9 黄茶褐色土 粘性あり
- 10 暗赤褐色土 燃土・炭を含む
- 11 暗赤褐色土 しまりよし
- 12 暗赤褐色土 焼けたロームを主とし細かい炭を含む
- 13 暗褐色土 ローム中に焼土・炭の細い粒を含む
- 14 暗茶褐色土 ロームブロック・炭・焼土粒を少量含む
- 15 暗褐色土 燃土ブロックを多く含む しまりよし
- 16 暗褐色土 ロームブロック・炭・焼土粒を少量含む
- 17 暗褐色土 炭少量・焼土粒多量に含む
- 18 暗褐色土 ロームブロック中に黄褐色ロームを含む しまりよし
- 19 暗褐色土 しまりよし ロームを主とし炭・焼土粒を含む
- 20 暗褐色土

第93図 8号炭焼窯跡

B 土壙

土壙は48基検出されているが、そのうちで遺存状態が良好な17基を載せる。出土遺物はほとんどなく、時期の判別が困難なため一括してとりあげた。なお1号土壙として扱った遺構は調査により住居跡と判明したため、欠番となる。

2号土壙（第94図）

40一オに検出され、 $0.8 \times 1.4\text{m}$ の小判型を呈する。深さ 1.6m 。底面は平坦でしまりなし。底面迄掘り下げるとき湧水する。最下部より木片が出土している。

8号土壙（第94図）

22一クに検出され、 $1.4 \times 1.2\text{m}$ の楕円形を呈する。深さ 25cm 。底面は軟弱で凹凸が激しい。出土遺物なし。

11号土壙（第94図）

27一オに検出され、 $1.9 \times 1.3\text{m}$ の不整形を呈する。深さ 50cm 。北側と東側に段をもち、底面はしまりよく凹凸がある。出土遺物なし。

18号土壙（第94図）

37一キに検出され、 $1.4 \times 1.2\text{m}$ の楕円形を呈する。深さ 50cm 。南側に段をもち、底面はしまりよく平坦である。出土遺物なし。

19号土壙（第94図）

36一カに検出され、 $1.6 \times 1.1\text{m}$ の不整楕円形を呈する。深さ 50cm 。北側と南側に段をもち、底面はしまりよく凹凸がある。出土遺物なし。

20号土壙（第94図）

37一キに検出され、径 1.0m の不整円形を呈する。深さ 20cm 。底面はしまりなく、ほぼ平坦である出土遺物なし。

21号土壙（第95図）

36一キに検出され、 $1.3 \times 0.8\text{m}$ の不整楕円形を呈する。深さ 30cm 。底面は東に傾斜し、しまりなく凹凸がある。出土遺物なし。

24号土壙（第75図）

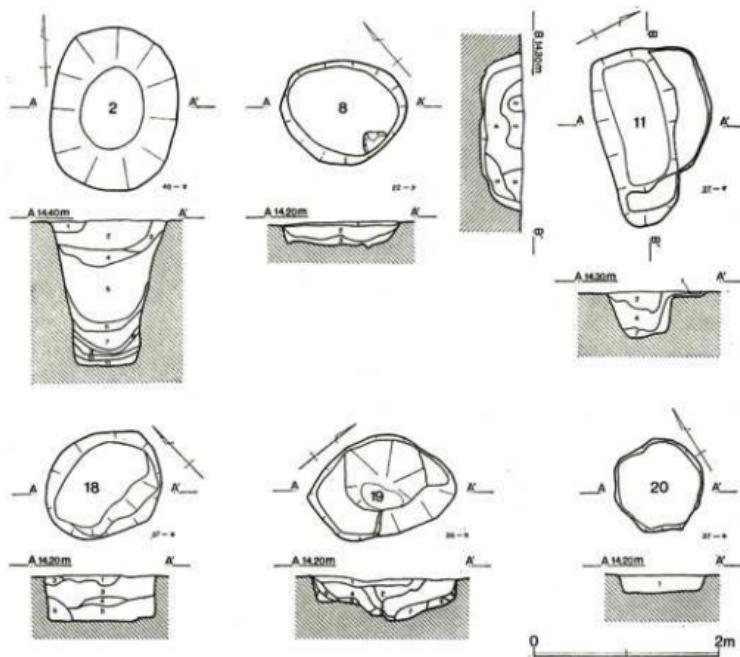
36一キに検出され、 $2.5 \times 2.1\text{m}$ の不整円形を呈する。深さ 70cm 。北側にゆるやかに段をもち、底面はしまりはよいが凹凸が激しい。23号土壙を切る。出土遺物なし。

25号土壙（第95図）

34一カに検出され、 $0.9 \times 0.7\text{m}$ の楕円形を呈する。深さ 37cm 。底面はしまりなく、ゆるやかに座んでいる。出土遺物なし。

39号土壙（第95図）

27一キに検出され、 $1.9 \times 0.65\text{m}$ の隅丸方形を呈する。深さ 45cm 。北側に段をもち、底面はしまりよく平坦である。出土遺物なし。



2号土壤

- 1 灰褐色土
- 2 黒色土 ローム粒を多く含む 粘性あり
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土 ローム粒を多く含む しまりよし
- 5 明褐色土
- 6 暗褐色土 ローム粒を含む
- 7 茶褐色土 ソフトロームに近い土質
- 8 斑褐色土 鉄分を含んだ土がブロック状に混入
- 9 明褐色土 ソフトロームに近い土質 水分を多量に含む
- 10 黑褐色土 水分を多量に含む 粘性あり
- 11 茶褐色土 ローム粒を含む 水分を多量に含む

8号土壤

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒
- 3 黄褐色土 ロームブロックを多く含む

11号土壤

- 1 黄褐色土 粘性あり
- 2 暗褐色土 ローム粘を含む
- 3 褐色土 スコリアを含む
- 4 褐色土 スコリア・焼土粒を多く含む
- 5 褐色土 ローム粒を含む
- 6 斑褐色土 焼土粒少量含む
- 7 黄褐色土 粘性強し

18号土壤

- 1 淡褐色土
- 2 淡褐色土 ローム粒を含む
- 3 黑褐色土 ロームブロック・ローム粒を含む
- 4 黑褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 5 黄褐色土 ローム粒を多量に含む
- 6 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む

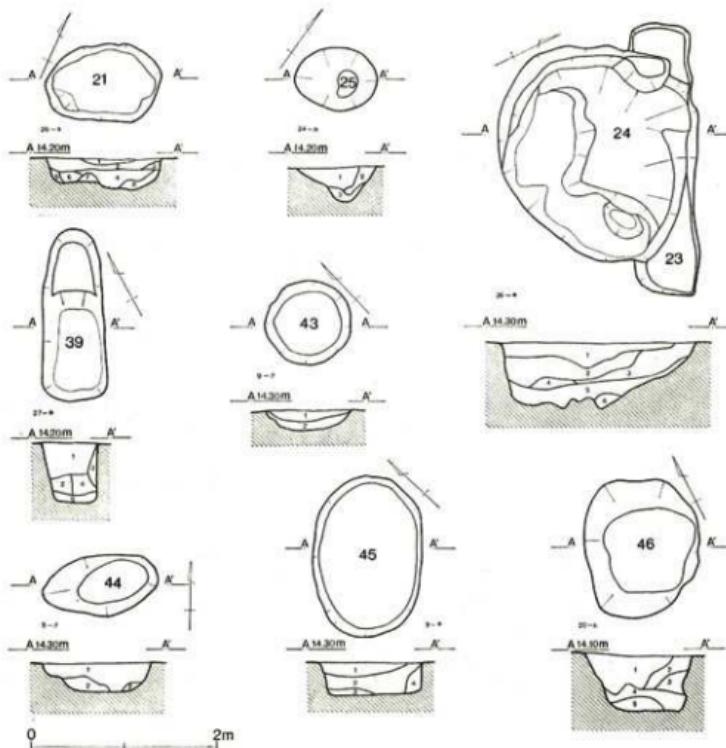
19号土壤

- 1 淡褐色土
- 2 黄褐色土 ローム粒を含む
- 3 黄褐色土

20号土壤

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む

第94図 土 壤 (1)



21号土壤

- 1 褐色土 砂質
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 前褐色土 ロームブロックを含む
- 4 后褐色土 ローム粒を多く含む
- 5 黄褐色土 ローム
- 6 暗黄褐色土 水分を含む 粘性強し
- 7 黄褐色土 しまりよし
- 8 黑褐色土

23・24号土壤

- 1 前褐色土 ローム粒含む
- 2 黑褐色土 ローム粒を多く含む
- 3 黑褐色土 少量のローム粒を含む
- 4 黑褐色土 ロームブロックを少量含む
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む 粘性あり
- 6 暗黄褐色土 ローム粒を多く含む

25号土壤

- 1 黑褐色土 ローム粒・炭化物・焼土粒を含む
- 2 黑褐色土 大粒のローム粒・ロームブロックを含む

- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 4 黑褐色土 大粒のローム粒を含む
- 5 明褐色土 ロームブロックを含む

43号土壤

- 1 暗褐色土 炭化物を含む
- 2 暗褐色土 炭化物・焼土を含む
- 3 黑褐色土 炭化物を多量に含む

44号土壤

- 1 褐色土

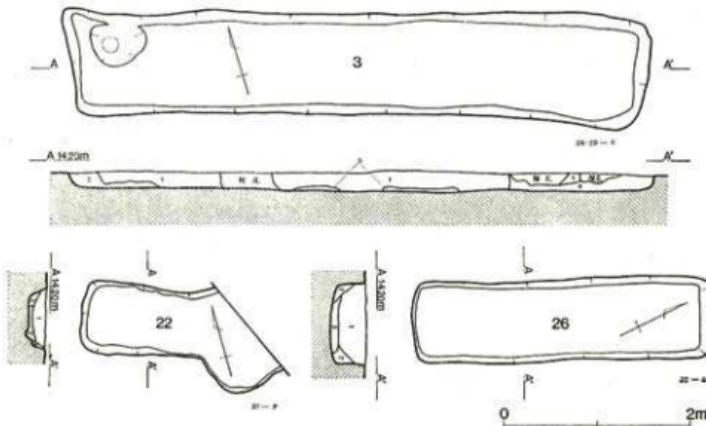
45号土壤

- 1 暗褐色土 ローム粒多量・ロームブロックを含む
- 2 黑褐色土 ローム粒を多量に含む
- 3 褐色土 ローム粒を含む
- 4 黄褐色土 ソフトロームに近い土質

46号土壤

- 1 褐色土 大粒のローム粒・ロームブロックを含む
- 2 褐色土 大粒のローム・粒ロームブロックを含む
- 3 暗褐色土 大粒のローム粒を含む 粘性あり
- 4 余褐色土 ロームブロックを多量に含む
- 5 茶褐色土 ハードロームに近い土質

第95図 土 壤 (2)



3号土壤

- 1 茶褐色土 炭・焼土粒を含む
- 2 暗褐色土 炭・焼土の細かい粒を含む
- 3 炭化物
- 4 暗褐色土 炭・焼土やや粗い粒を含む

26号土壤

- 1 暗褐色土 ローム粒を多量に含む
- 2 暗褐色土
- 3 淡暗褐色土 ロームを多く含む しまりよし

22号土壤

- 1 黒褐色土 ローム粒を含む しまりよし
- 2 黑褐色土 ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土

第96図 土 壤 (3)

43号土壤 (第95図)

9一ヶに検出され、径0.9mの円形を呈する。深さ20cm。底面はしまりなく、ゆるやかな傾斜をもつ。出土遺物なし。

44号土壤 (第95図)

9一ヶに検出され、1.25×0.65mの椭円形を呈する。深さ30cm。両側にゆるやかな段をもち、底面はしまりなくほぼ平坦である。出土遺物なし。

45号土壤 (第95図)

9一ヶに検出され、1.75×1.2mの椭円形を呈する。深さ40cm。底面はしまりよく、平坦である。出土遺物なし。

46号土壤（第95図）

20—エに検出され、 $1.5 \times 1.25\text{m}$ の不整形を呈する。深さ60cm。底面はしまりよく、ほぼ平坦である。出土遺物なし。

以上、円形・楕円形を基本形とする土壤を一括した。次に長方形を基本形とする土壤を一括する
3号土壤（第96図）

28~29—エに検出され、 $6.2 \times 1.1\text{m}$ の長方形を呈する。深さ20cm。覆土にも焼土・炭化物を含むが底面はほぼ平坦で、全体に火をうけて焼土化している。北南隅近くには深さ18cm程の小ピットがある。

他の土壤とは異なる特色を示すが、用途は不明である。出土遺物なし。

22号土壤（第96図）

37—クに検出され、一部調査範囲外に出る。東側は他の土壤との切り合いとも思われるが、土層断面観察では明確でなく、底面レベルも同一である。 $0.95\text{m} \times$ 不明の不整形を呈する。深さ20cm。底面はしまりなく、凹凸がある。出土遺物なし。

26号土壤（第96図）

32—エに検出され、 $3.25 \times 0.9\text{m}$ の長方形を呈する。深さ40cm。底面はしまりなく、ゆるい傾斜をもって窪んでいる。出土遺物なし。

C 溝（第4図、第103図）

本遺跡からは17条の溝状遺構が検出されている。直交するもの、直角に曲折するもの、平行するものは、最近の地籍図と照合すると地境にあてはまるものが多く、根切り溝である可能性が強い。

1号溝

4—オより9—アにかけて検出された。南端は調査範囲外に出る。北東端は不明確であるが、検出部分は台地の肩部に沿っており、東側まで続いていたものと思われる。

長さ27m。幅 $0.5 \times 0.7\text{m}$ 、深さは土層断面実測地点では 0.2m 程度であるが、南にいって深くなり 1m 近くなる。底面はしまりなく、凹凸は少ない。出土遺物は土器片少量と鉄滓片である。固化解能なものはない。

2号溝

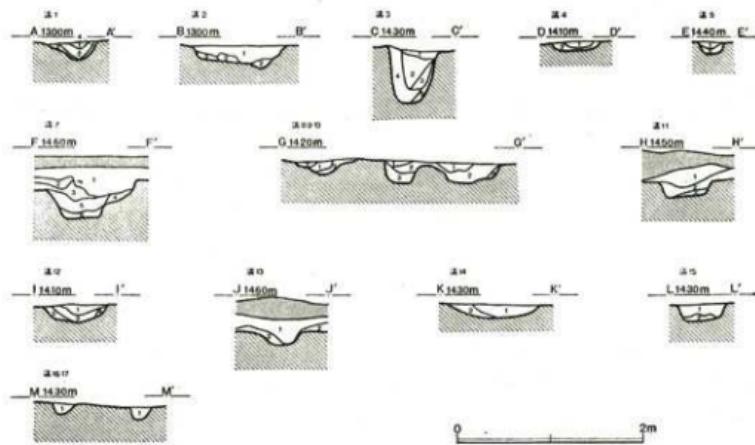
4—イより6—イにかけて検出された。北西端は調査範囲外に出る。長さ 10.5m 、幅 $0.5 \sim 1.0\text{m}$ 、深さ25cm。底面はしまりなく、ほぼ平坦である。出土遺物なし。

3号溝

43—クより44—イにかけて検出された。両端は調査範囲外に出る。長さ23m、幅 0.5m 、深さ60cm。底面はしまりなく、ほぼ平坦である。出土遺物なし。

4号溝

42—イより43—イにかけて検出された。南西端は調査範囲外へ出る。途切れているが、3号溝と隣接して平行しており、21号住居跡の方向へ延びていたものと思われる。長さ13m、幅 0.5m 、深さ12cm。底面はしまりなく、ほぼ平坦である。出土遺跡なし。



1号溝

- 1 茶褐色土 程1cm程度のロームブロックを含む 粘性あり
 - 2 暗褐色土 程2cm程度のロームブロックを含む 粘性あり
 - 3 明褐色土 ロームに近い土質
 - 4 暗褐色土 程2~3cmのロームブロックを含む 粘性あり
- 2号溝
- 1 暗褐色土 ロームブロック・少量の砂粒を含む
 - 2 暗褐色土 細かいローム粒・黒色土ブロックを含む
 - 3 暗褐色土 細かいローム粒を多く含む
- 3号溝
- 1 黒色土 ローム粒を含む 粘性あり しまりよし
 - 2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒を含む
 - 3 黒色土 ローム粒を含む 粘性あり
 - 4 褐色土 ロームブロック・ローム粒を含む
 - 5 明褐色土 ソフトロームに近い土質
- 4号溝
- 1 暗褐色土 ローム粒を含む
 - 2 茶褐色土 ソフトロームに近い土質 粘性あり

5号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む
 - 2 黄褐色土 ソフトロームに近い土質
- 7号溝
- 1 褐色土 ローム粒を含む
 - 2 黑褐色土 ロームを含む
 - 3 黑色土 しまりよし
 - 4 褐色土 大粒のローム粒を多量に含む し
 - 5 黑褐色土 大粒のローム粒を多量に含む し
まり・粘性あり
 - 6 黑褐色土 ローム粒を多量に含む 粘性強し
- 8・9・10号溝
- 1 暗褐色土 砂質
 - 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒を多量に含む

11号溝

- 1 茶褐色土 ローム・粒ロームブロックを含む
- 2 褐色土 ローム粒多量含む
- 3 茶褐色土 ローム粒を含む
- 4 明褐色土 粘性あり

12号溝

- 1 褐褐色土 ローム粒を含む
- 2 褐色土 ローム粒多量含む
- 3 茶褐色土 ローム粒を含む
- 4 明褐色土 粘性あり

13号溝

- 1 明褐色土 ローム粒を少量含む
- 2 明褐色土 ローム粒を多量に含む

14号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒を含む
- 2 明褐色土

15号溝

- 1 褐色土 程2cmのロームブロックを含む
- 2 黄褐色土 ソフトロームに近い土質

16・17号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒を含む

第97図 溝土層断面図

5号溝

10—オより14—カにかけて検出された。両端が不明確であるが、方向と形状から見て13号溝と統一していたと考えられる。

長さ17m、幅0.3m、深さ0.12m。底面はしまりなく、ほぼ平坦である。出土遺物なし。

6号溝

23—アヘイにかけて検出された。12号住居跡を浅く切り、南端は調査範囲外に出る。

長さ7m、幅0.4m、深さ0.1m。底面はしまりなく、ほぼ平坦である。出土遺物なし。

7号溝

33—クより37—アにかけて検出された。両端は調査範囲外へ出る。長さ30.5m、幅0.9m、深さ0.3~0.4m。底面はしまりよく、ほぼ平坦である。土器片が少量出土している。固化可能なものはない。

1号方形周溝墓、19号住居跡、32・33号土壙を切る。31号土壙に切られる。

8号溝

30—オより33—クにかけて検出された。北端は調査範囲外に出る。33—カではほぼ直角に曲折し、33—クまでの間7・9・10号溝と隣接し平行している。

長さ24m、幅0.6m、深さ0.15~0.2m。底面はしまりなく、凹凸が多い。

30オで11号溝と、31—オで12号溝と、33—カで9号溝と各々直交する。35号土壙に切られる。

出土遺物なし。

9号溝

33—オヘクにかけて検出された。南端は33—カで8号溝と直交し、北端は調査範囲外に出る。

長さ85m、幅0.4m、深さ0.25m。底面はしまりなく、凹凸が多い。出土遺物なし。

34号土壙に切られる。

10号溝

32—クヘクにかけて検出された。北東端は調査範囲外に出る。34—エではほぼ直角に曲折し、7・8・9号溝と隣接平行する。

長さ30m、幅0.8~1.1m、深さ0.2~0.3m。底面はややしまりがあり、凹凸が多い。出土遺物なし。

4号炭焼窯、34~36号土壙に切られる。

11号溝

29—クより30オにかけて検出された。北東端は調査範囲外に出る。30—オで8号溝と直交する。

長さ15.5m、幅0.5m、深さ0.2m。底面はややしまりがあり、平坦である。出土遺物なし。

28号土壙に切られる。

12号溝

30—カより31—オにかけて検出された。31—オで8号溝と直交する。

長さ5m、幅0.7m、深さ0.2m。底面はややしまりがあり、平坦である。出土遺物なし。

7号炭焼窯に切られる。

13号溝

16—キより20—クにかけて検出された。南東端は調査範囲外に出る。19—クで15号溝と直交する北西端は不明確であるが、方向、形状から見て5号溝と続いていると考えられる。

長さ18m、幅0.4m、深さ15cm。底面はしまりなく、平坦である。出土遺物なし。

4・7号住居跡を切る。

14溝溝

24—アより27—ウにかけて検出された。

長さ16.5m、幅1.0m、深さ15cm。底面はややしまりがあり、平坦である。出土遺物なし。

12・23号住居跡を浅く切る。

15号溝

19—クより21—イにかけて検出された。19—クで13号溝と直交する。

長さ25m、幅0.5m、深さ20cm。底面はしまりがあり、ほぼ平坦である。出土遺物なし。

町道の直下に検出されたが、幅の広い部分は土圧により窪んだものと考えられる。

46号土壤に切られる。

16号溝

14—イより15—ウにかけて検出された。両端は不明確である。

長さ7m、幅0.25m、深さ15cm。底面はしまりなく、平坦である。出土遺物なし。

17号溝

13—イより15—ウにかけて検出された。両端は不明確である。

長さ9.5m、幅0.2m、深さ15cm。底面はしまりなく、平坦である。出土遺物なし。

6・49号土壤に切られる。

IV 上新田遺跡発掘調査



第98図 周辺地形図